

始



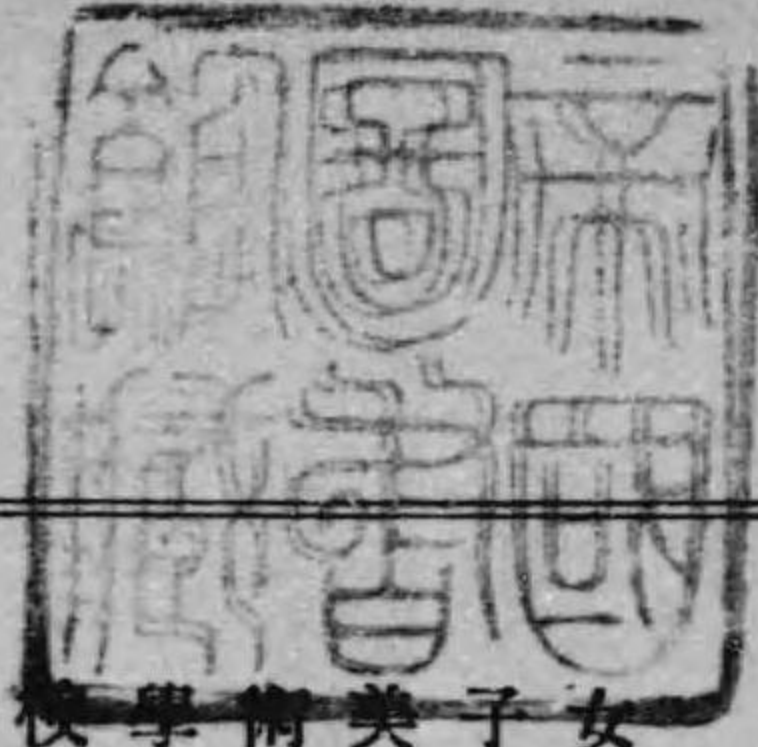
富田輝夫著

志のぼり漆園按集 二冊

東京大倉書店發行



33-131



師講校學術美子女

著夫輝田富  
二第集案圖染り絞  
書明說

橋本日 行發店書倉大 京東

大正  
9. 1. 13  
内交

### 緒言

著者は曩に絞り染圖案第一集を編纂したるに各方面より續々たる愛用を得、殊に一般當業者の實用に供せられたるは私に光榮とする所なり。

本集は即ち其第二集にして前集に比し順序を追ふて稍複雑なるものを集めたりと雖も既に第一集に於て述べたるが如く繁簡何れにしても用途に適應し、加工の容易に能ふものにて且成品となり相當なる美觀を呈する事肝要なれば、努めて其要件を缺かさざらん事に力を致し、加之、用途上の分類、加工上の注意、色彩等の説明に至る迄極めて實用的に編述したり。

然れども公私共に多忙中の餘暇に成れるものなれば拙なき點多からんも前集と相俟ちて聊かなりとも斯界に貢獻あらば著者の幸之に過ぎざるなり。

大正八年極月

## 絞り染圖案集 第二説明

第一圖 躡たき立たき棒たきを鹿の子絞りとし笹の輪廓に平縫を施して捲上げ絞りとすべし、又全體を鹿の子絞りにするも差支なし、之を帶側或は襦袢等に應用せんには年齢に依り赤、暗赤、藤色、紫、オリブ、並に紺系統に染むるを適當とす、又藍地若くは紺地とすれば単衣物にも用ひらる、尙之を色替りに出さんとせば先づ鹿の子の部分絞り笹は平縫したる儘引締めずして下染をなすべし、然る後捲上げて更に地染を行ふべし、口繪第一圖は即ち之を應用したるものなり。

第二圖 (イ)口共に袋物用にして(イ)は全體を鹿の子にするか又は破れ垣のみを鹿の子とし花を平縫して色替りの捲上げとなすべし(ロ)は全部鹿の子に絞るものなれども希望によりては斜の段染とする事を得べし。

第三圖 全體を鹿の子に絞るか若くは籠目かごめを鹿の子とし千鳥を捲上げとすれば帶側等に適當なるものとなる、又之を木綿に應用して藍又は紺地に白目上りとすれば單衣物にふさはしきものとなる。

第四圖 紅葉は鹿の子絞り又は平縫して捲上げとし四角の部分に正田絞りとすべし、之を羽織、コート等の裏地に應用せんには好みにより青磁、赤、暗赤、茶系統等に染むるをよしとす、若し口繪第二圖に示せる如く正田の部分の色替りに出さんとせば配色に注意して豫め適當なる染液を其部分に摺り込み置き然る後絞りにて地染を行ふべし、又紅葉を色替りの捲上げ絞りとし正

田を白目上りとすれば比較的簡易に布團側向若くは小供向の着尺物等に適當なる模様を得らる、尙之を拔染絞りとせんには先づ紅葉及四角の輪廓に平縫をし其盡還元劑にて消色すべき染料を以て全體を染め然る後糸を引締めて固き捲上げとし最後に還元消色劑にて脱色を行ふべし然るときは白地に色の絞りを得べし。

第五圖 (イ)なる蕨の葉は全體を鹿の子絞りとし兵兒帶の兩端に用ふるを得べし、又葉の部分捲上げとすれば風呂敷等に適當なる模様となる、(ロ)なる壽は巾紗柄なれば點を標準として全體を白目多き鹿の子又は少き疋田として鮮明なる緋に染むるを適當とす。

第六圖 全體を鹿の子絞りにするか又は輪つなぎを鹿の子とし斜線を細き摘み縫とするを得べし、主として帶側柄にて地色は年齢に依り同様ならざれども藤色、紫、紫紺、茄子紺、紺、淺黃、オリーブ等をよしとす、之を帶揚に應用せんとせば一般に淡色に染むべし。

第七圖 麻の部分鹿の子絞りとし鶉色と淺黃、淺黃と緋、緋と鶉色、藤色と淺黃等の段染とすれば頗る面白きものとなる、又鮮明なる藍色と白の段染とすれば涼味ある結果を得べし、主として長襦袢向なれども帶側等にも用ひらる。

第八圖 先づ點の部分鹿の子に絞り次に其輪廓に平縫を施し之を藤色と水淺黃に染め別け更に其部分に防水紙又は竹皮を捲き附けて防染し然る後地色を紺又は黒に染むれば帶側に適當なる柄となる、○印及●印は色替りにするときの區別を表したるものなり。

のなり。

第九圖 蜻蛉を白目上りの鹿の子絞りとし紺地に染むれば極めて粹なる兵兒帶柄となる、又之を單衣物に應用せんとするときには蜻蛉を藍目若くは白目上りの鹿の子とし地色を紺とするを適當とす。

第十圖 (イ)(ロ)(ハ)(ヘ)は何れも模様の單位を示したるものなれば鹿の子、捲上げ、縫絞り等として隨意のものに應用するを得、(ニ)なる源氏甲は鹿の子絞りの詰として帶の飛模様にふさわしかるべし、又(ト)なる青海波は單衣物の江戸襦、兵兒帶の兩端、又は巾紗の角等に用ひて可なるべし。

第十一圖 何れも半袴の飛模様にして(イ)なる菖蒲くづしは普通鹿の子とし或場合輪廓に平縫して捲上げとする事を得べし、(ロ)なる三筋麻、(ハ)なる渦卷は鹿の子絞りとすべし地色は藤色、紫、紫紺、茄子紺、紺、海老赤、淺黃、青磁、オリーブ、又は各種の鼠等年齢に依り同様ならず。

第十二圖 普通は全體を白目上りの鹿の子にするものなれども口繪第三圖に示せる如く花菱を淺黃目に現し地色を紺に染めんとせば先づ淺黃の染液を其部分に摺り込み置き然る後絞りにて紺地に染むべし、又場合によれば三升を鹿の子とし花菱を捲上げ絞りにする事を得、用途は帶側、帶揚又は襦袢の袖等によろし。

第十三圖 (イ)(ニ)は鹿の子絞りとし(ロ)(ハ)(ヘ)(トリ)は何れも捲き上げ、鹿の子又は縫絞りとし種々なるものに應用するを得べし。

第十四圖 龜甲全體を鹿の子絞りとするを得べきも之を裏地又は

其他三浦絞りの話、柳絞り、鼠絞り、板締絞、共絞り、雲形絞り等は既に前集にも述べたる如く普通下繪を要せざるものなり、然れども三浦又は柳等を或部分に絞らんとせば豫め適當なる標準を附け置くべし、又板締絞りの如く布を幾何的に折り疊みて染むる場合は豫め其上りを想像して行ふべし。

下繪の附け方

下繪を布面に附けんには青花若くは藍紙と稱する色紙を少量の水に浸し其溶液を以てするものなれど下繪の寫らぬ地厚物又は専門的に行ふときは便宜上之を更に型紙となし丸刷毛を以て摺り込むを普通とす、斯くして附けたる下繪は染色に先ちて水に浸し置かば忽ちにして消え失せるものなり、又青花は變質せざる様密閉して貯ふべし。

大正九年一月七日印刷  
大正九年一月十三日發行

絞り染圖案 第二集 定價金壹圓五拾錢

著作權所有

著作者	富田輝夫
發行者	大倉保五郎
印刷者	村田豊吉
印刷所	大倉印刷所

發行所

東京市日本橋區通一丁目十九番地  
大倉書店  
振替口座東京二三八番  
電話本局 四一四番  
二四〇四番

富田輝夫著

絞り染圖案集

第一集……………金壹圓五拾錢  
第三集……………近刊

木村淡香著

### 刺繡圖案集

洋裝四六倍判橫綴  
全三集各集  
金八十五錢  
郵稅各金四錢

●宮裏、襖、顔面、袋物、ハンカチーフ、テーブル巾、蝦蟇口、年籠等の小物類に應用の出来る刺繡の下繪を數百餘集めたるもの本書を文とすれば、初學者も刺繡は自由自在也、第一集附録に下繪の取方、配色參考、配合色作例、各國應用凡例を説き、第二集附録に應用範圍の例、刺繡術の一般を説き第三集は下繪取方、形式變更、綴方應用等を平易に説明せり。

共立女子職業學校教師 岡本榮次郎 前共立女子職業學校教師 木村淡香共著

### 實用刺繡全書

和裝菊判全一冊  
定價金貳圓貳拾錢  
郵稅金十二錢

刺繡は藝術として最も氣品良きもので美術の思想と趣味とを向上せしめ衣服其他裝飾品として家庭經濟並に職業上からも上述下流を問はず現下一般の婦人間に一大流行を極め續うて是れを學ばんとする心ますけれども即ち就かずして容易に習ひ得べき其書は有ません。故に於て本書はこの不便を除かんため多年共立女子職業學校に於て教授せられた經驗と自ら製作に從事せられた實踐とに基き極めて解り易く且つ豊富なる圖解を挿入して眞に深義餘以上の親切を以て刺繡の各種種ひ方を詳述されました。初心者の手引たるは勿論刺繡界の好參考書であります。是非皆様の御購讀をおすすめ致します。

野村文學畫伯

### 應手工圖案(全三冊)

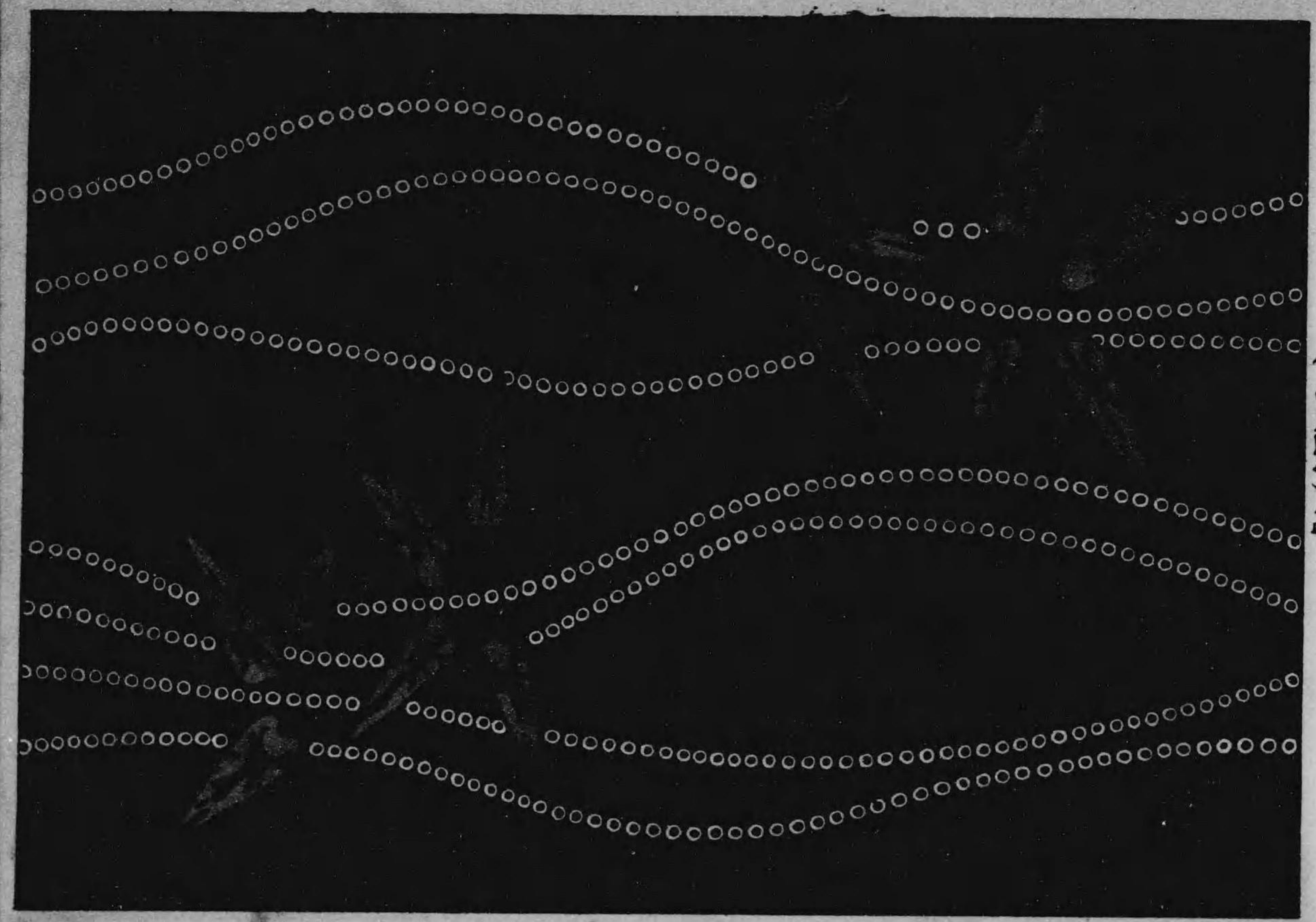
四六判袋入  
松、竹、梅の卷  
各卷金五十錢  
郵稅各金四錢

●本書は小學、中學、女學校、工藝學校程度の生徒又は家庭等の爲に美術工藝の智識を興へ且つ意匠を練習せしむる目的にて編纂せるものにして右版着色描寫圖案百三十二圖を示し是に練習用模範畫用紙を添へて直ちに練習に便せり。松、竹、梅と易より難に入らしめ其應用の妙を會得せしむ。松の卷は四十二圖、竹の卷四十圖、梅の卷は四十七圖。

## ◎ 友師の者究研藝手 ◎

- 伊藤、小川 共著 裁縫おさいく物 正價金一圓四十錢 郵稅金十二錢
- 伊藤、小川 共著 續裁縫おさいく物 正價金一圓八十錢 郵稅金十二錢
- 女子普及會編 新裁縫小物全書 正價金一圓八十錢 郵稅金十二錢
- 木村淡香著 和裁縫小ざれ細工 正價金一圓二十錢 郵稅金十二錢
- 遠藤、金子共著 裁縫おもちゃ集 正價金一圓二十錢 郵稅金十二錢
- 高田久子共著 袋物細工全書 正價金一圓五十錢 郵稅金十二錢
- 中村興湖共著 家庭袋物細工全書 正價金一圓五十錢 郵稅金十二錢
- 山田きよ子共著 袋物細工の枝折 正價金一圓五十錢 郵稅金十二錢
- 種村なか子共著 技術撮み細工全書 正價金一圓二十錢 郵稅金十二錢
- 吉岡房次郎著 女子撮み細工全書 正價金一圓二十錢 郵稅金十二錢
- 津田敏子著 ろざし圖案集 正價金一圓十八錢 郵稅金十二錢
- 木村淡香著 刺繡圖案集 正價金一圓廿錢 郵稅各金四錢
- 森本義子著 家庭編物全書 正價金一圓廿錢 郵稅金十二錢
- 木村淡香著 編物圖案集 正價金一圓廿錢 郵稅金四錢
- 齋藤、金子共著 女子包結之架 正價金一圓五十錢 郵稅金十二錢
- 寺西敏子著 女子九重編造花法 各前 正價金七十五錢 郵稅各金十二錢
- 三好、金子共著 家庭造花術全書 正價金一圓五十錢 郵稅各金十二錢
- 石川、共著 改訂小兒洋服裁縫全書 正價金一圓八十錢 郵稅金十二錢
- 伊澤、金子共著 實用小兒洋服裁縫小物集 正價金一圓八十錢 郵稅金八錢
- 伊澤、金子共著 實用和洋裁縫小物集 正價金一圓八十錢 郵稅金八錢
- 神田順子著 裁縫新教授書上巻 正價金一圓四十錢 郵稅金十二錢





(三原色) 露光

### 家庭染色工藝

紙数二百五十餘頁  
洋裝版全一册  
定價金壹圓七十錢  
郵税金十二錢

東京女子高等師範學校講師 高橋岩次郎校訂 女子美術學校講師 富田輝夫著 (再版)

染色、洗濯等の一般婦人に缺くべからざる書籍の中餘りに理論に走りたるは専門家以外には却つて不便を感ずるのみならず手軽く行ひがたき事多からん。然れども餘りに簡に過ぎたるものは亦以て得る所少なかるべし。

本書は著者が染色の教師として又染色業者として従来の實踐に基き之を一般の家庭並に女學校等に於て容易に行ひ得べき程度に豊富なる説明圖を挿入してその基礎より仕上げに至るまでを極めて實用的にも懇切に編述せるものなれば家庭には最も必要なる寶典なり。希ふ一讀して趣味と實益を得られよ。

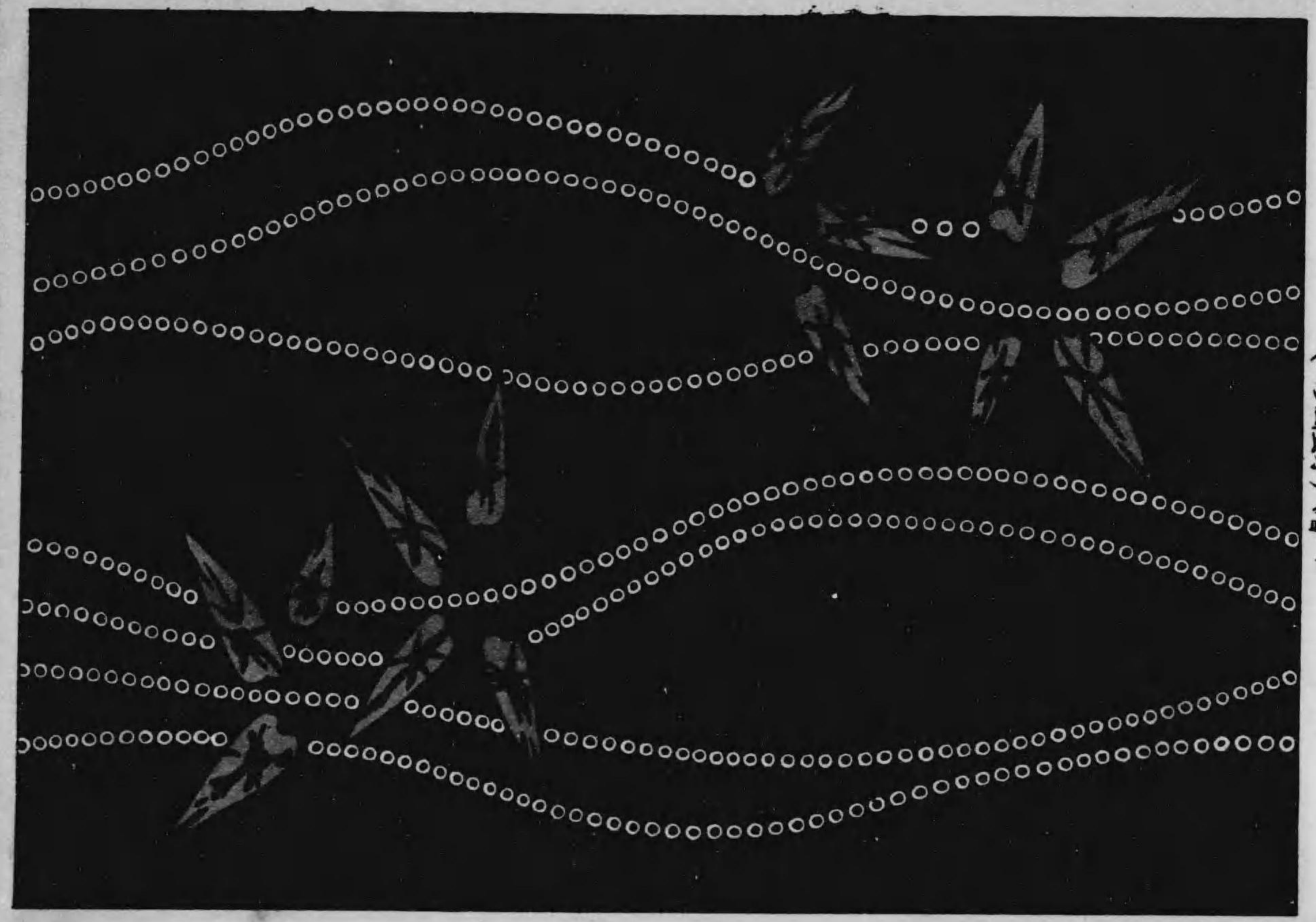
今や各女學校等に於て染色教授の必要なるは時代の要求なり。本書一度出でて好評博くが如く現に東京女子高等師範學校及其他諸校の參考書として採用せらる。

### 絞り染圖案集(第一集)

折疊表紙實物  
大圖案二十六葉  
定價金壹圓五拾錢  
郵税金十二錢

富田輝夫著 (最新刊)

染色圖案の中にて絞り染圖案は少しく様式を異にせるものにして其適否は加工上に難易を及ぼすは勿論難題なる下論と雖も屢々結果を來すことなき能はず。故に其構圖は色彩と共に最も大切なるものなり。本集は即ち著者が従來實際に用ひたる各種の圖案を一般の家庭に普及せしめ又普通染色業者の實用に供せんが爲め努めて工業上の條件を缺かざらん事を期し特に適當なる訂正を施して全體を實物大となし加ふるに用途の分類加工法色彩等の説明に至るまで事と平易に編述せるものなれば既刊同種の圖案集に優るたる人も本書に依りて初めて満足せらるゝ事と思ふ。



(参考圖畫) 繪口

家庭染色工藝

紙數二百五十餘頁  
洋裝菊版全一冊  
定價金壹圓七十錢  
郵稅金十二錢

東京女子高等師範學校講師 高橋岩次郎校訂 富田輝夫著 (再版)

染色、洗濯等の一般婦人に缺くべからざる書籍の中餘りに理論に走りたるは専門家以外には却つて不便を感ずるのみならず手軽く行ひがたき事多からん。然れども餘りに簡に過ぎたるものは亦以て得る所少なかるべし。

本書は著者が染色の教師として又染色業者として従来の實驗に基き之を一般の家庭並に女學校等に於て容易に行ひ得べき程度に豊富なる説明圖を挿入してその基礎より仕上げに至るまでを極めて實用的にも懇切に編述せるものなれば家庭には最も必要なる寶典なり。希ふ一讀して趣味と實益を得られよ。

今や各女學校等に於て染色教授の必要なるは時代の要求なり。本書一度出て、好評湧くが如く現に東京女子高等師範家事科及其他諸校の參考書として採用せらる。

富田輝夫著 (最新刊)

絞り染圖案集 (第一集)

折疊表紙寶物  
大圖案二十六葉  
定價金壹圓五拾錢  
郵稅金十二錢

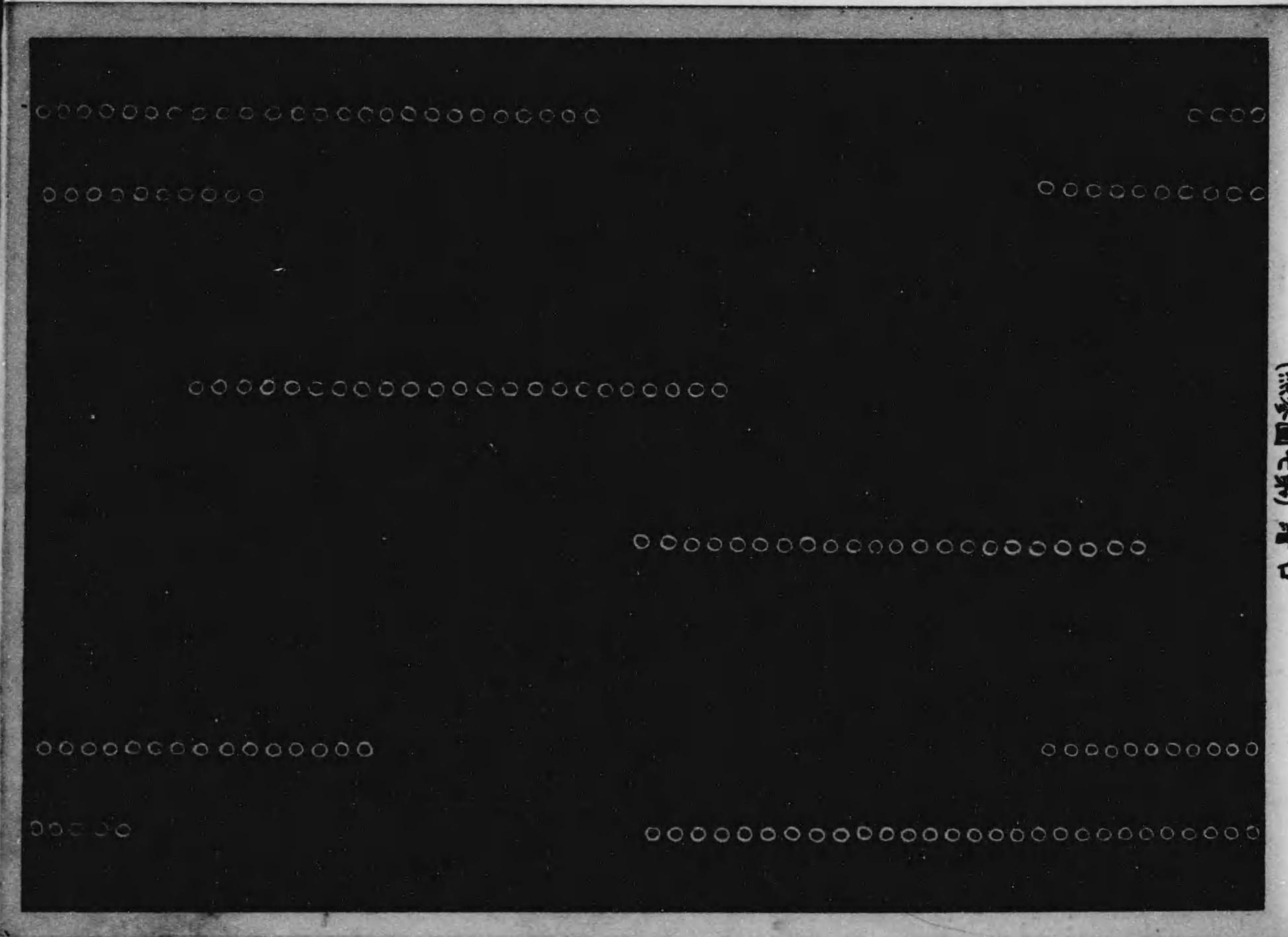
染色圖案の中にて絞り染圖案は少しく様式を異にせるものにして其適否は加工上に難易を及ぼすは勿論極端なる下繪と雖も屬々不結果を來すことなき能はず。故に其構圖は色彩と共に最も大切なるものなり。

本集は即ち著者が従來實際に用ひたる各種の圖案を一般の家庭に女學校に將又普通染色業者の實用に供せんが爲め努めて工業上の要件を缺かさざらん事を期し特に適當なる訂正を施して全體を寶物大となし加ふるに用途の分類加工法色彩等の説明に至るまで専ら平易に編述せるものなれば既刊同種の圖案集に優焉たる人も本書に依りて初めて満足せらるゝ事と思ふ。



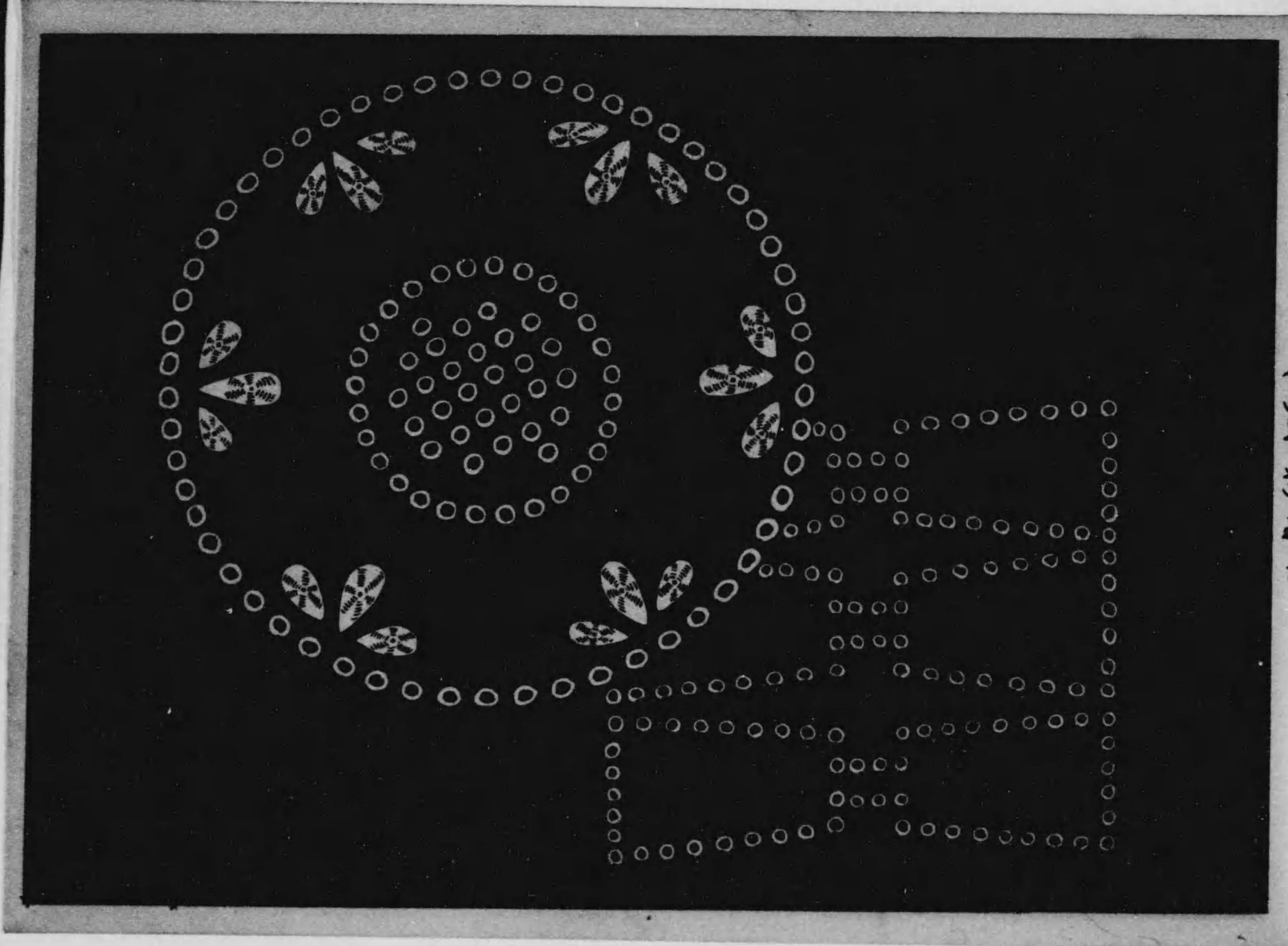
(照參圖四第)繪口





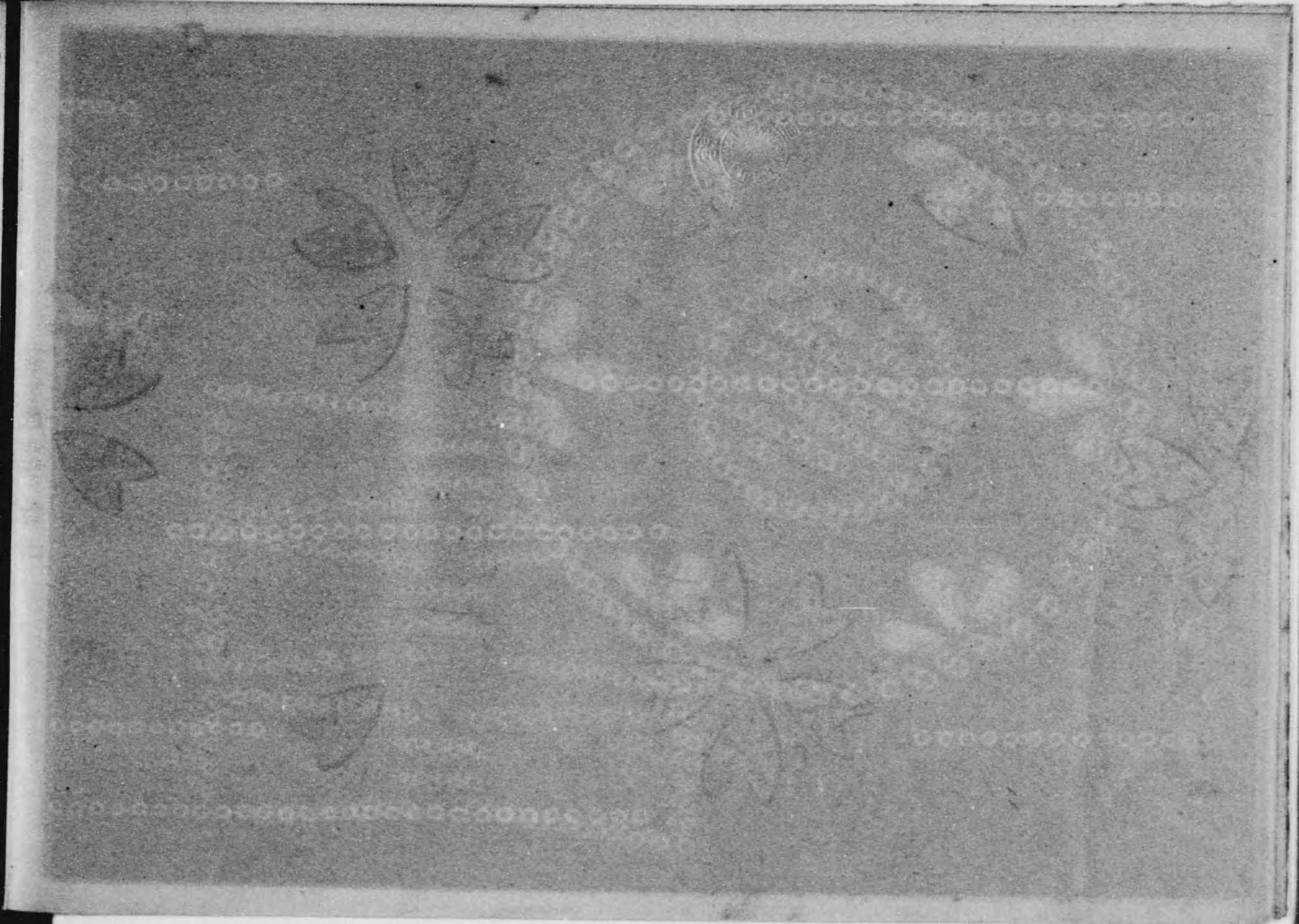
(照參圖七第) 繪口





9

(第參圖八第) 繪口



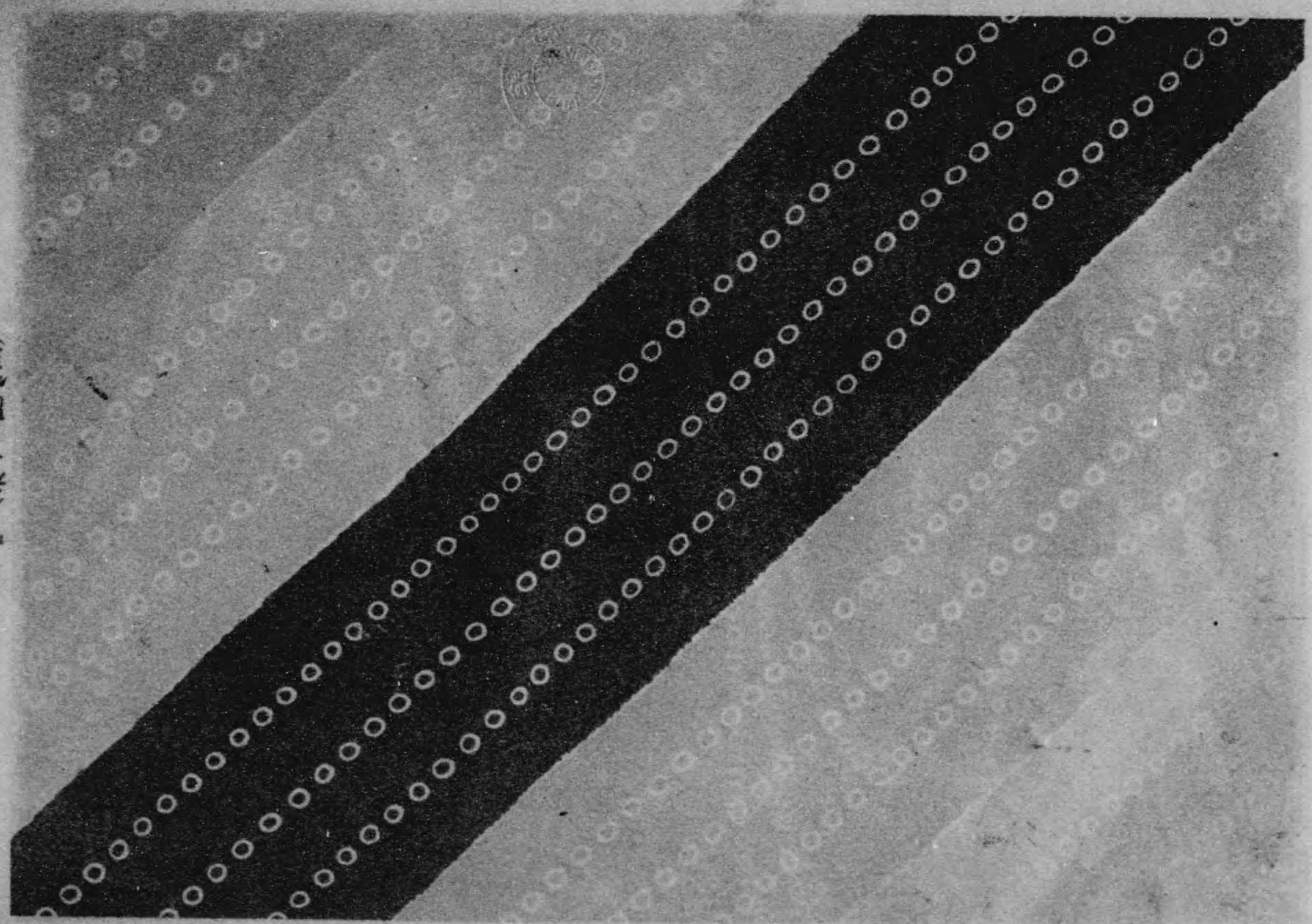


(張圖二十第) 增口

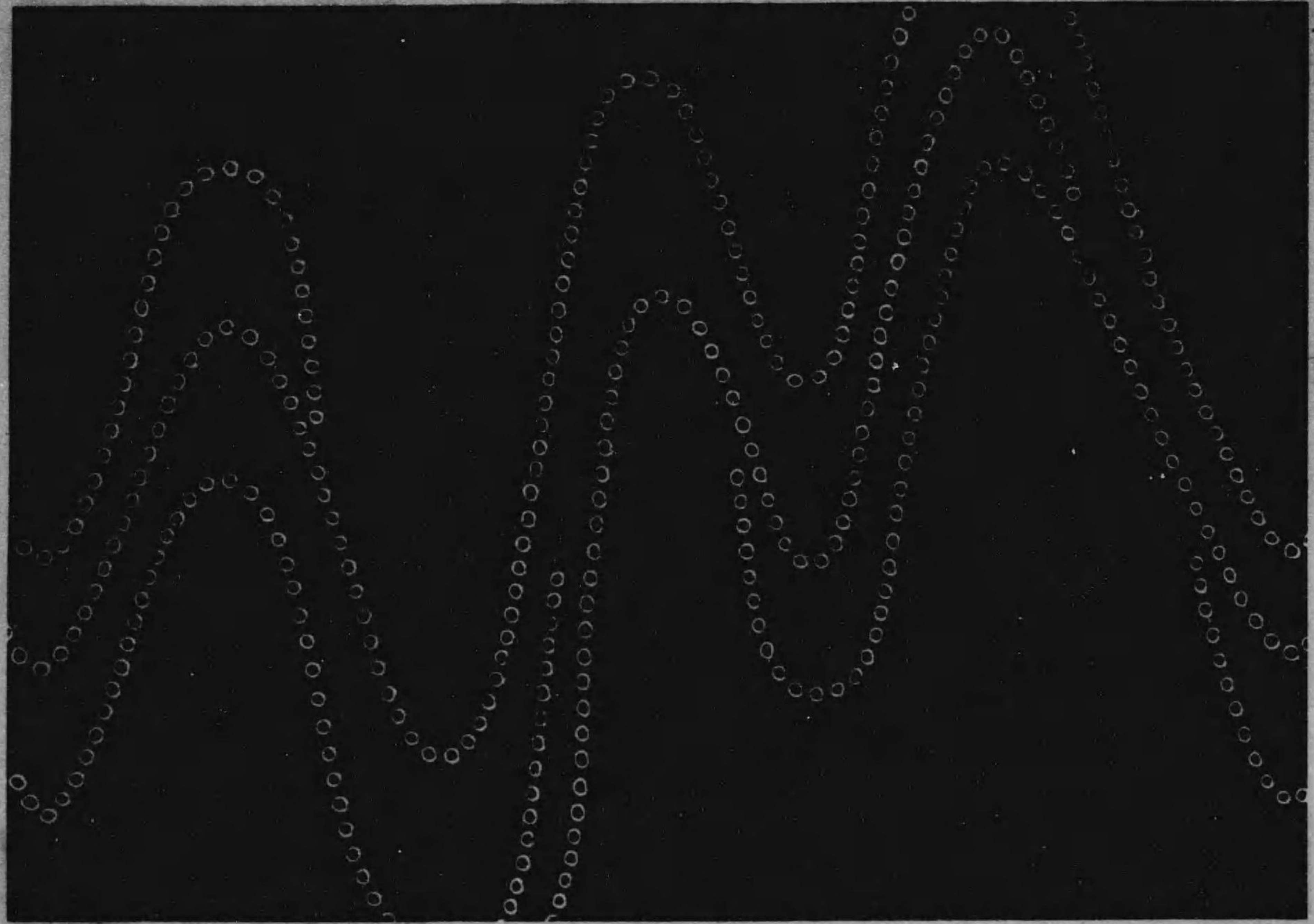




(照參圖式十第) 繪口



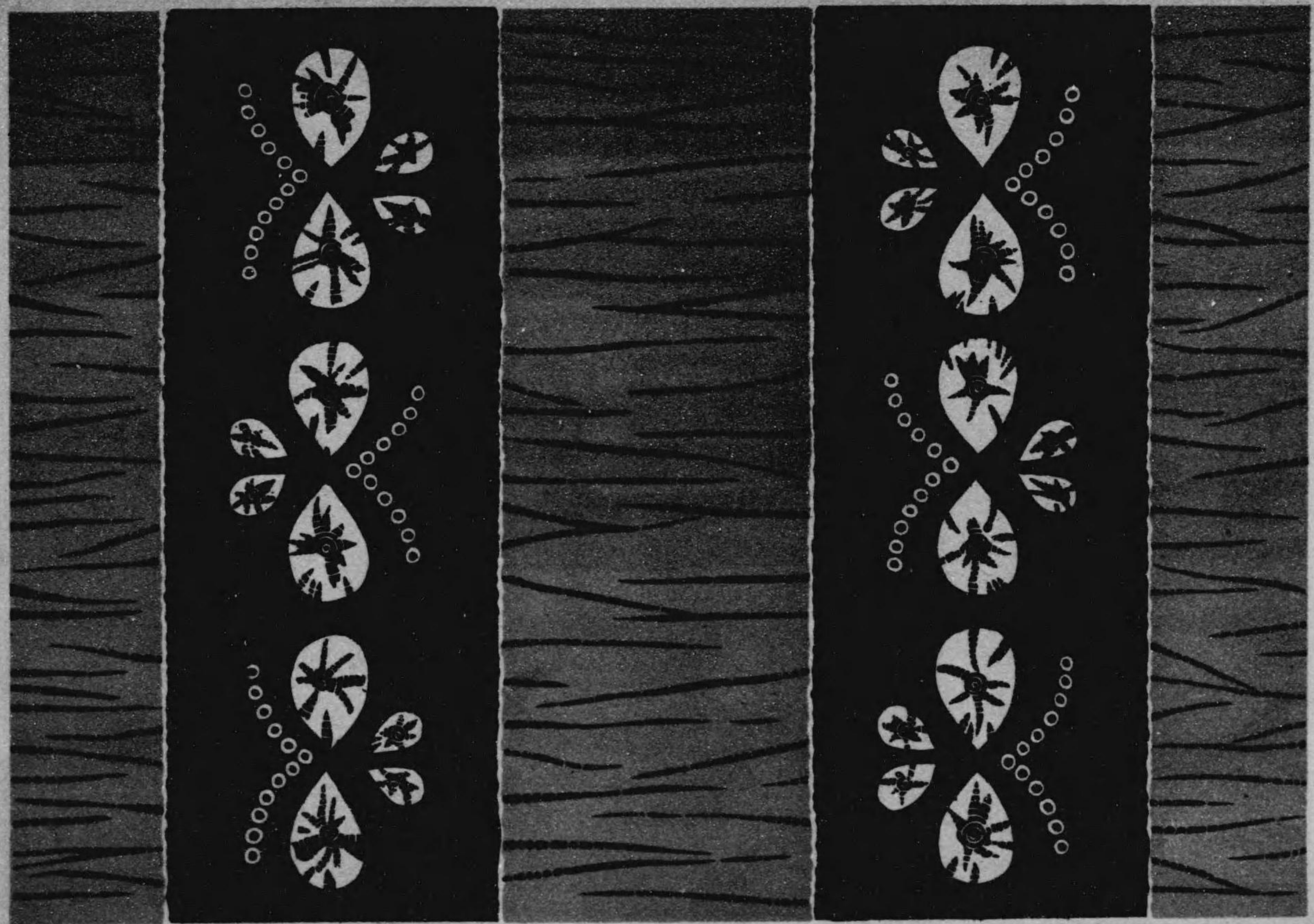
(照參圖式十第) 繪口



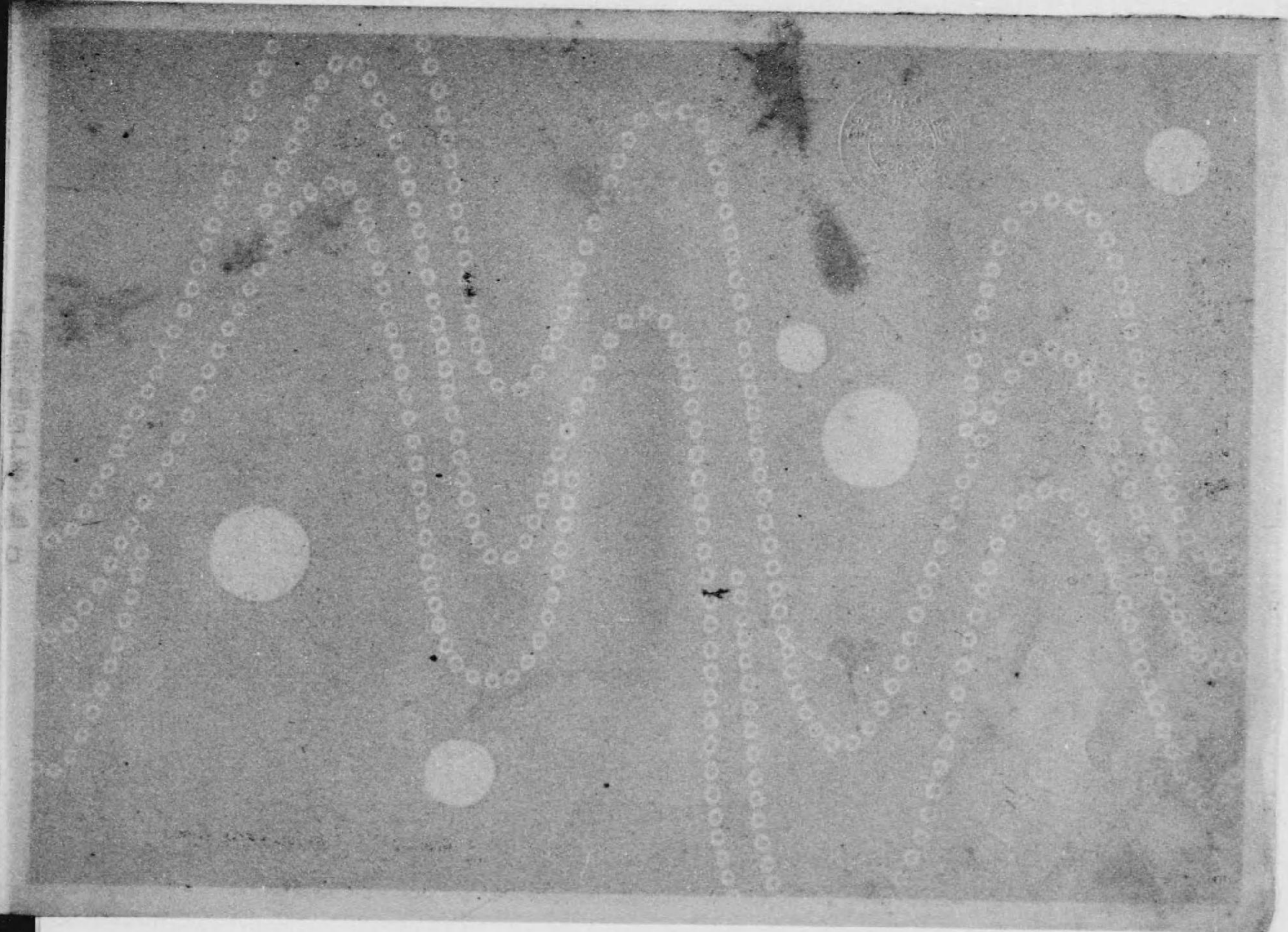
(照參圖四十第) 繪口



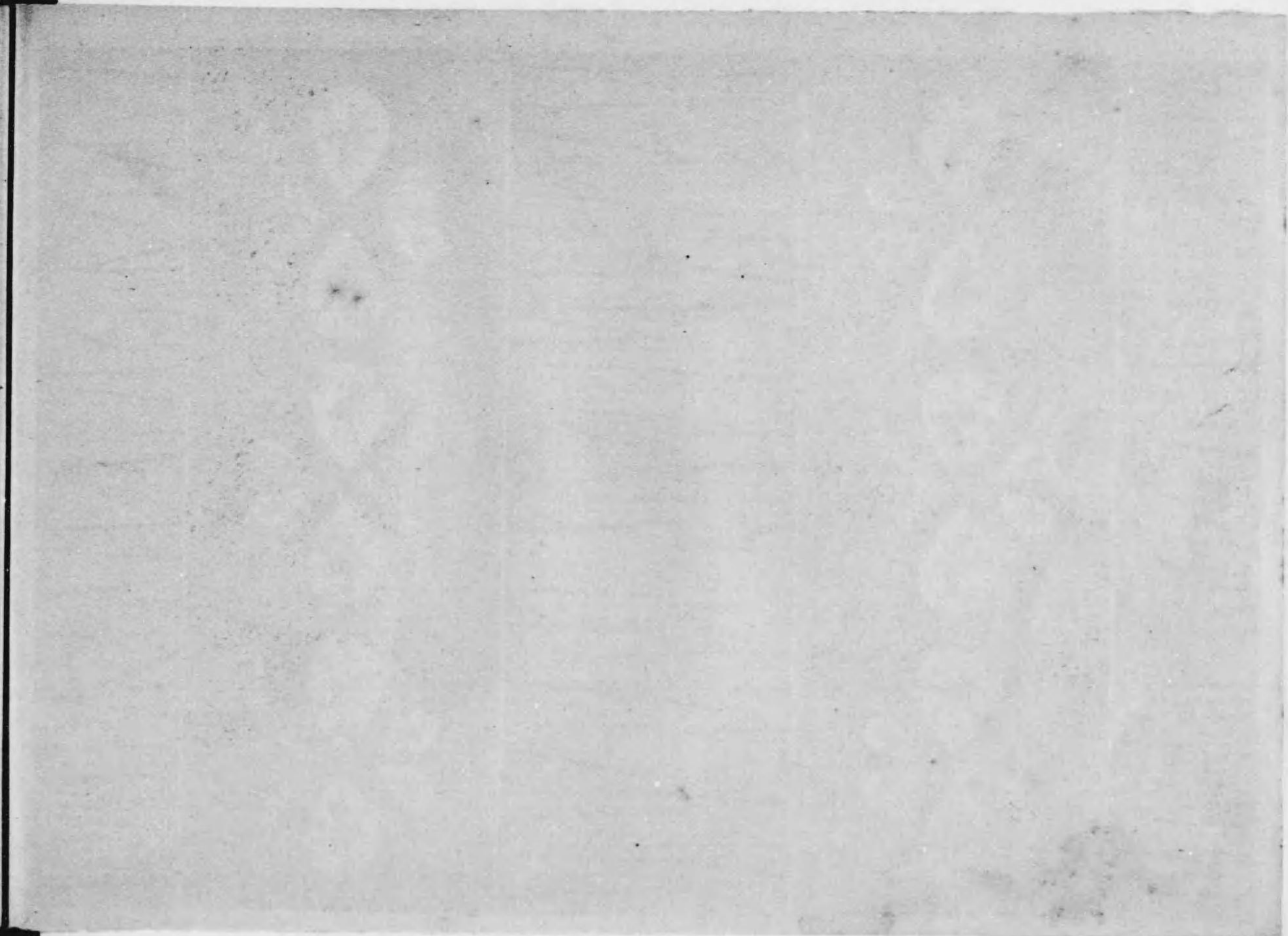
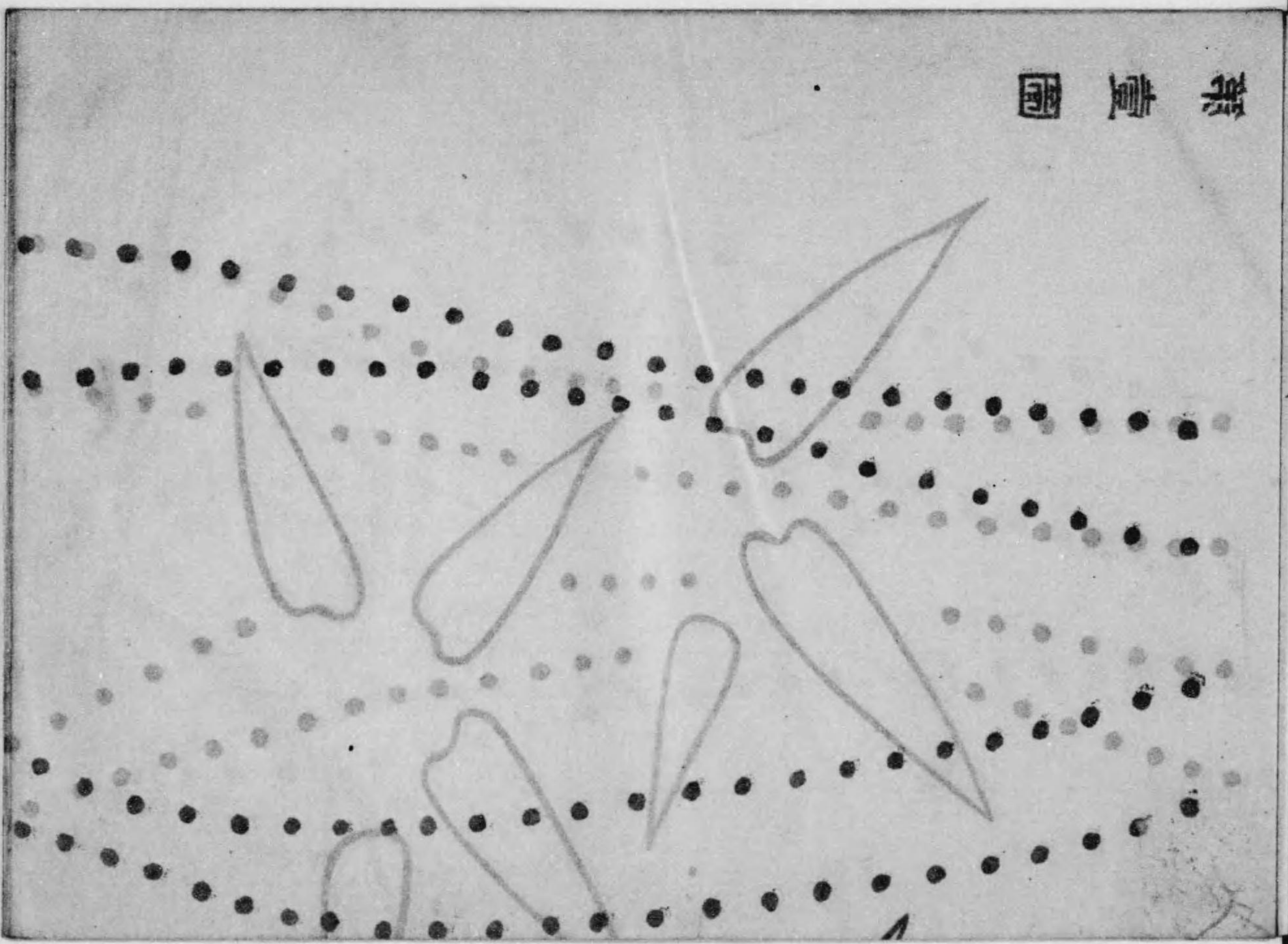




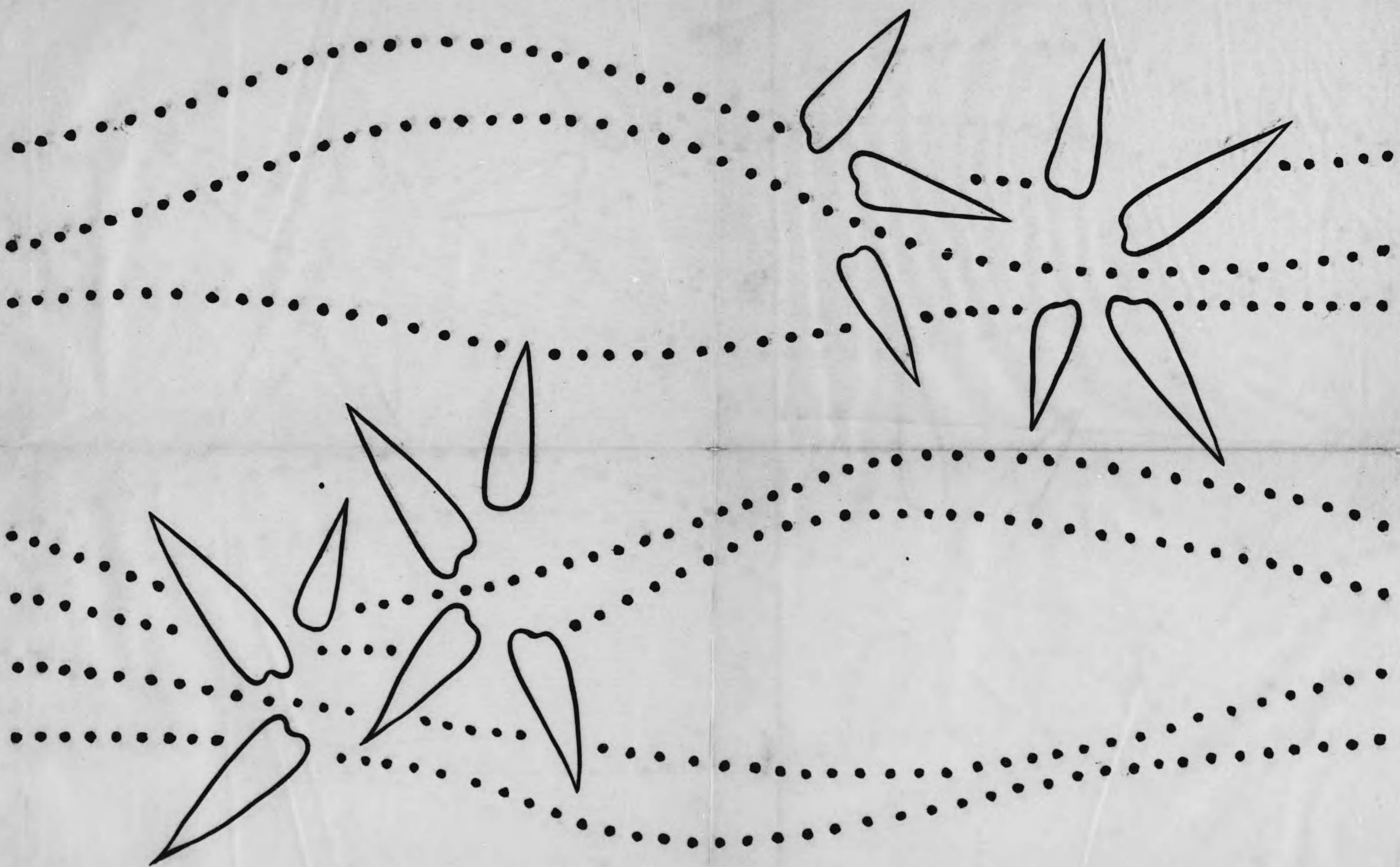
(照參圖八十第) 繪口



第一圖

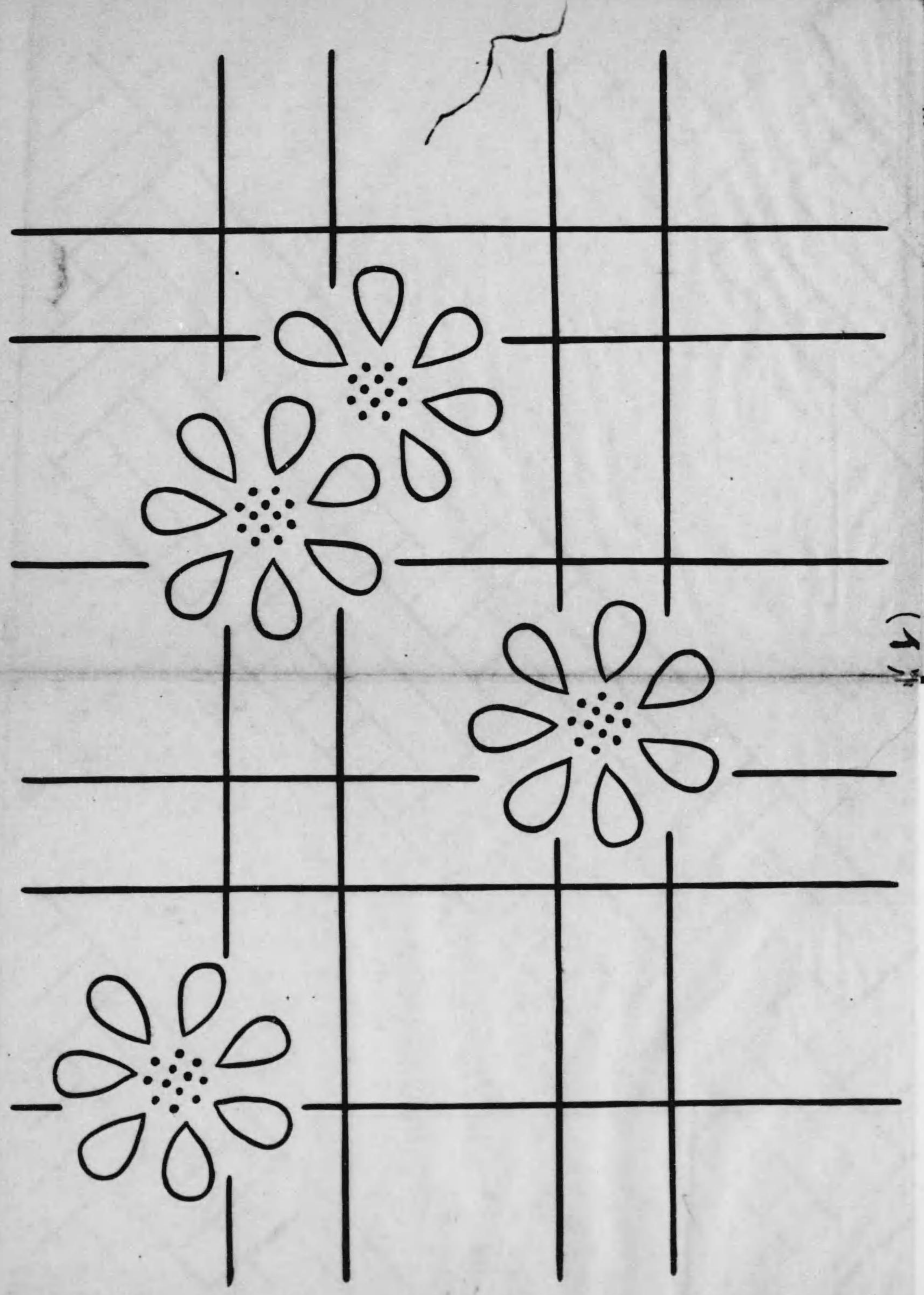


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4



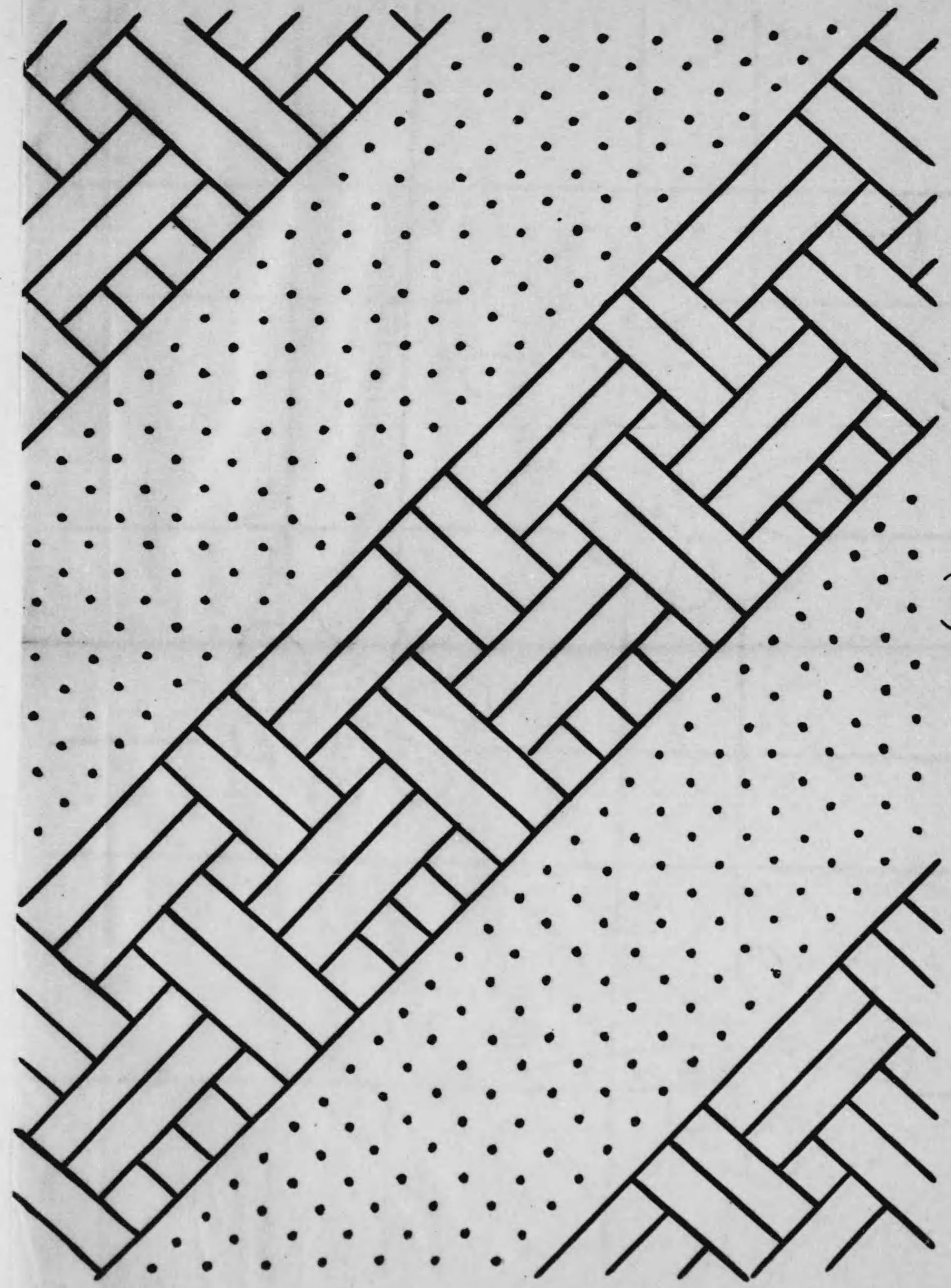
第壹圖

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4



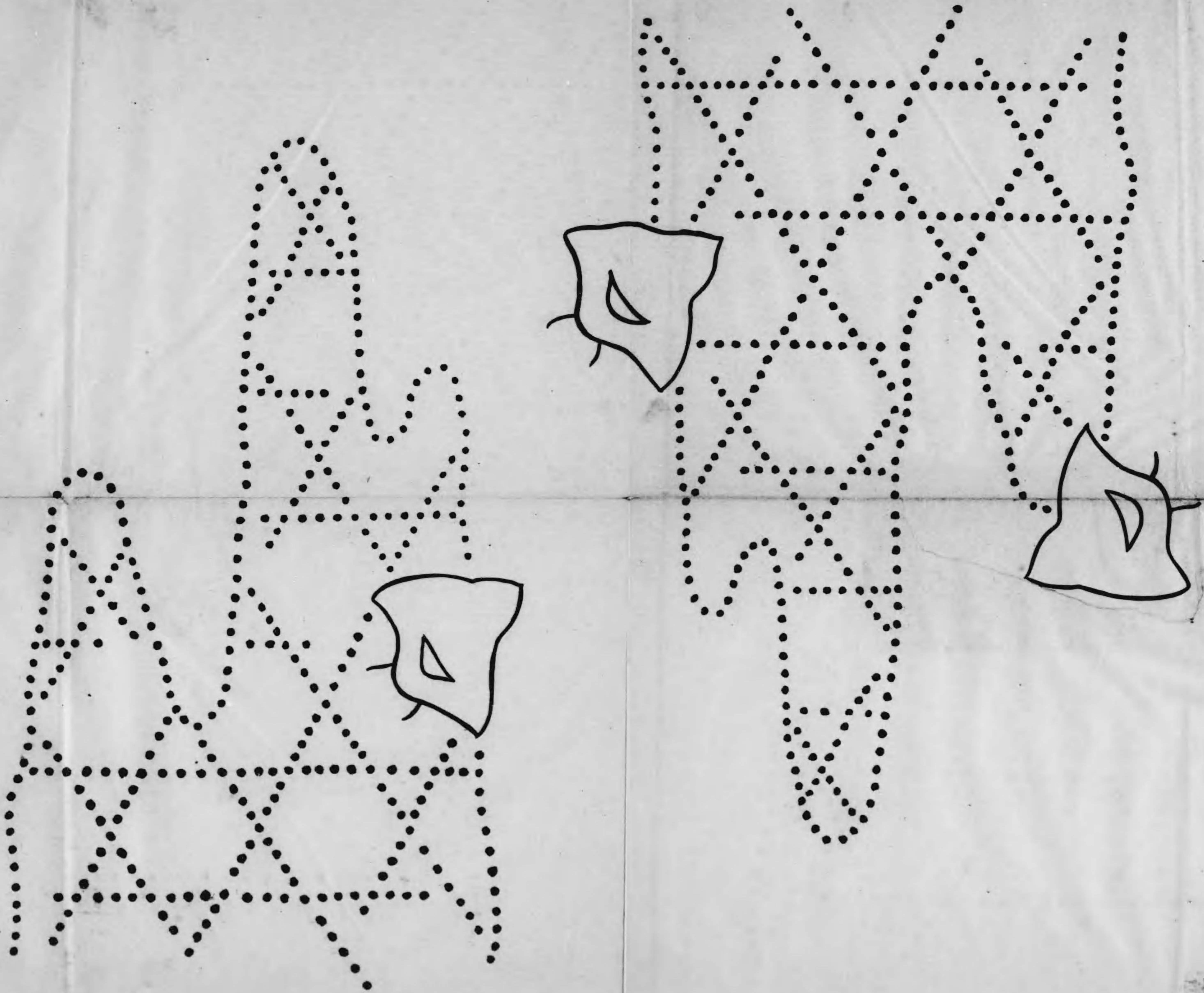
(1)

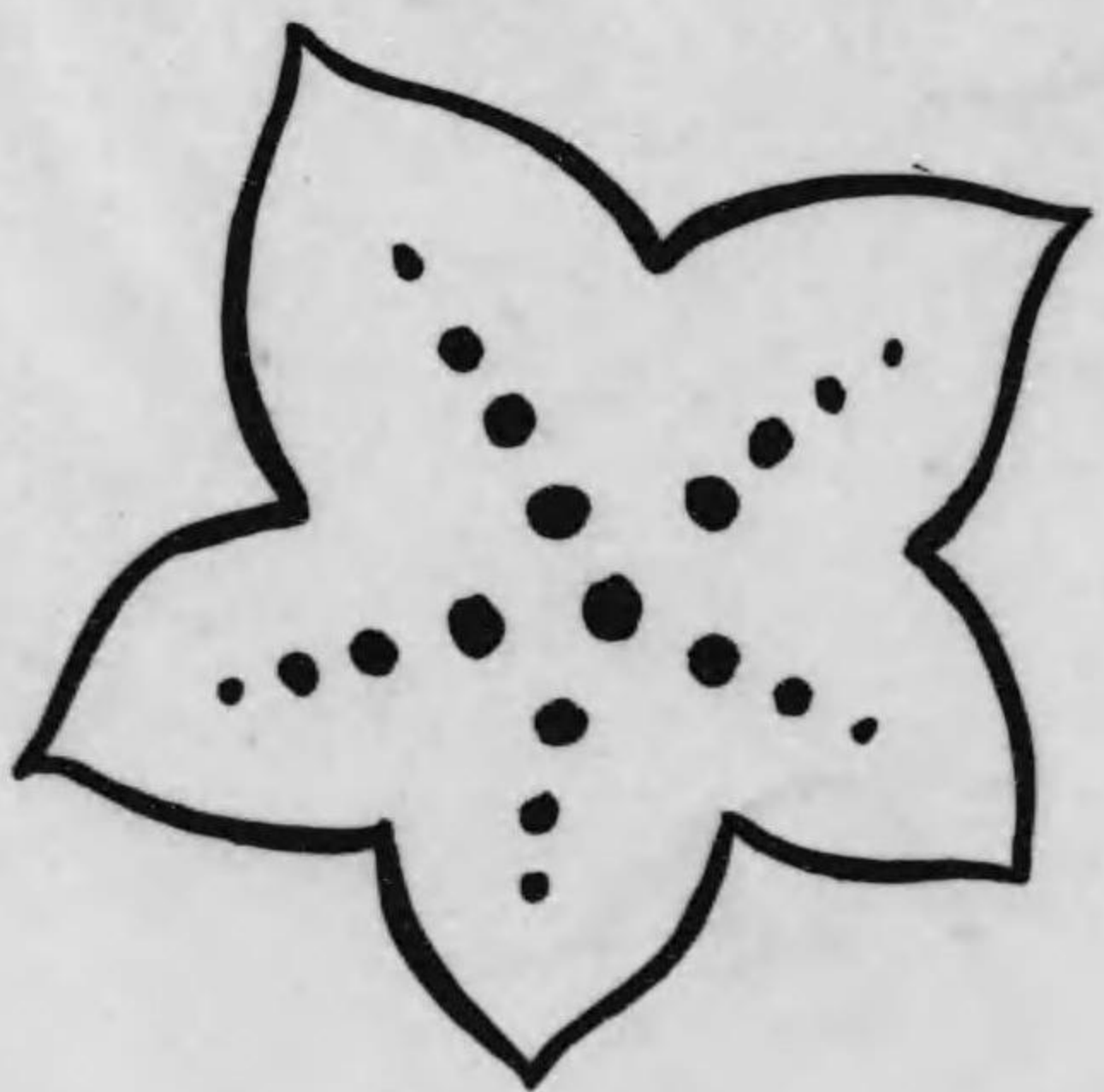
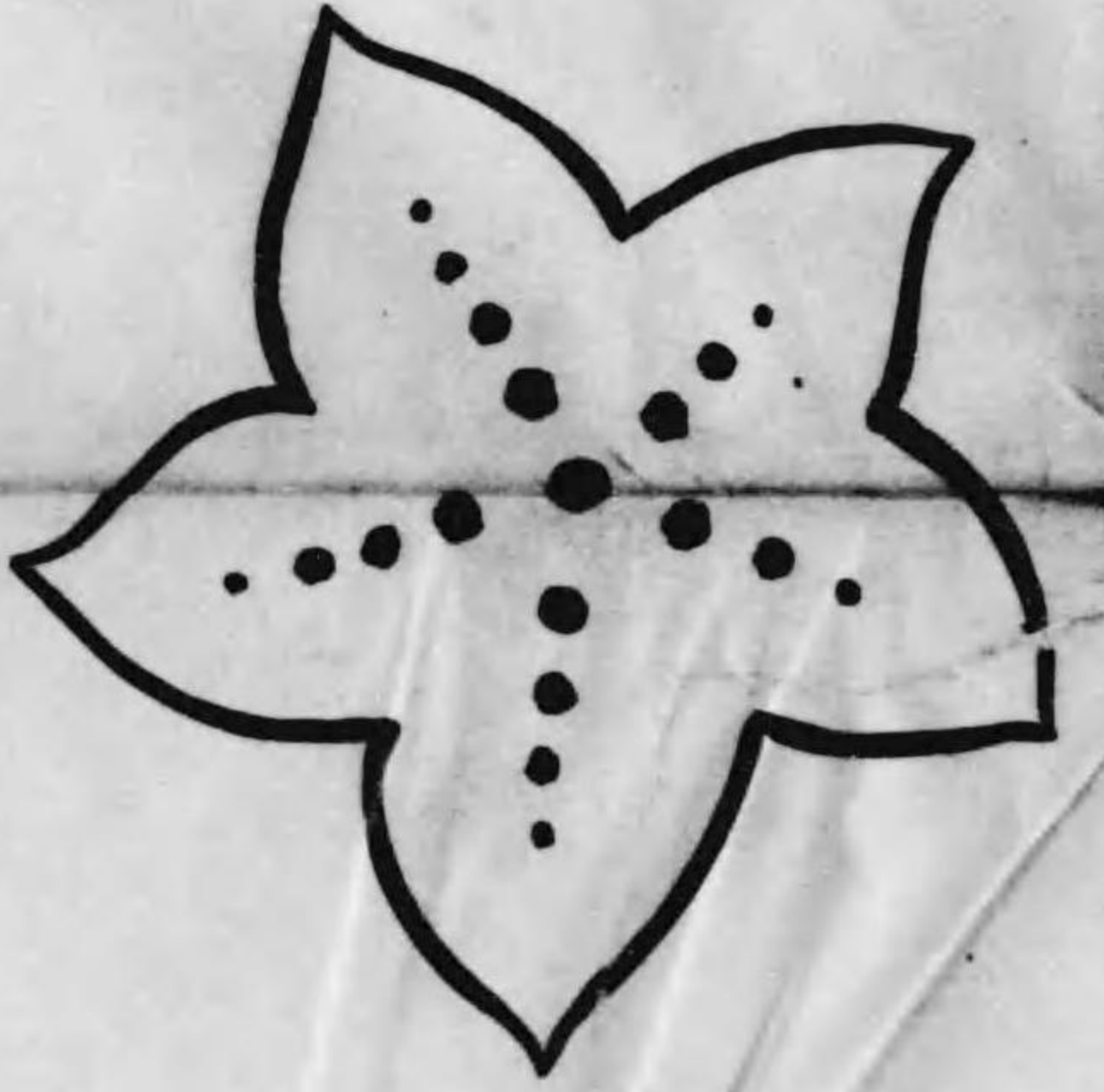
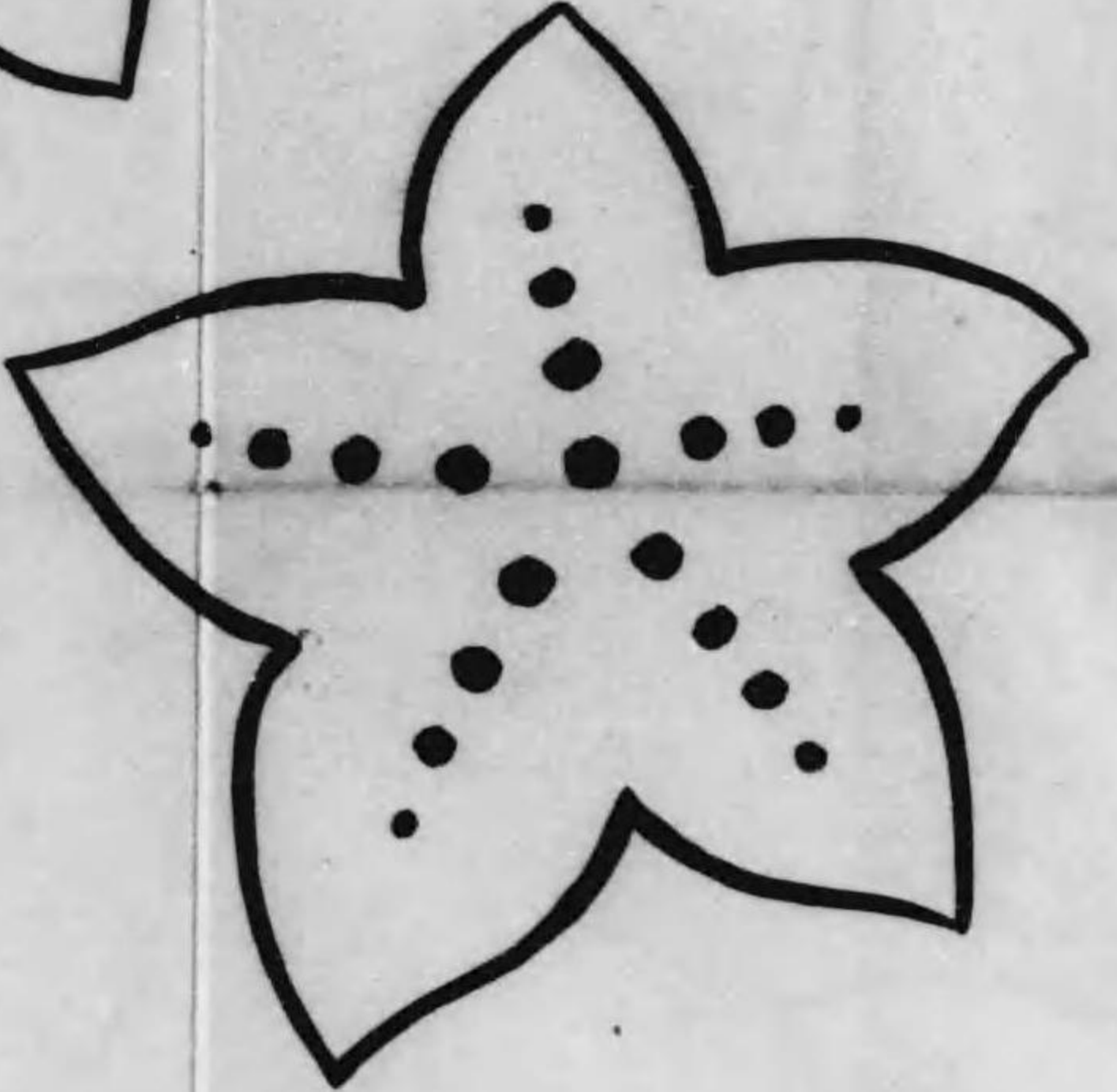
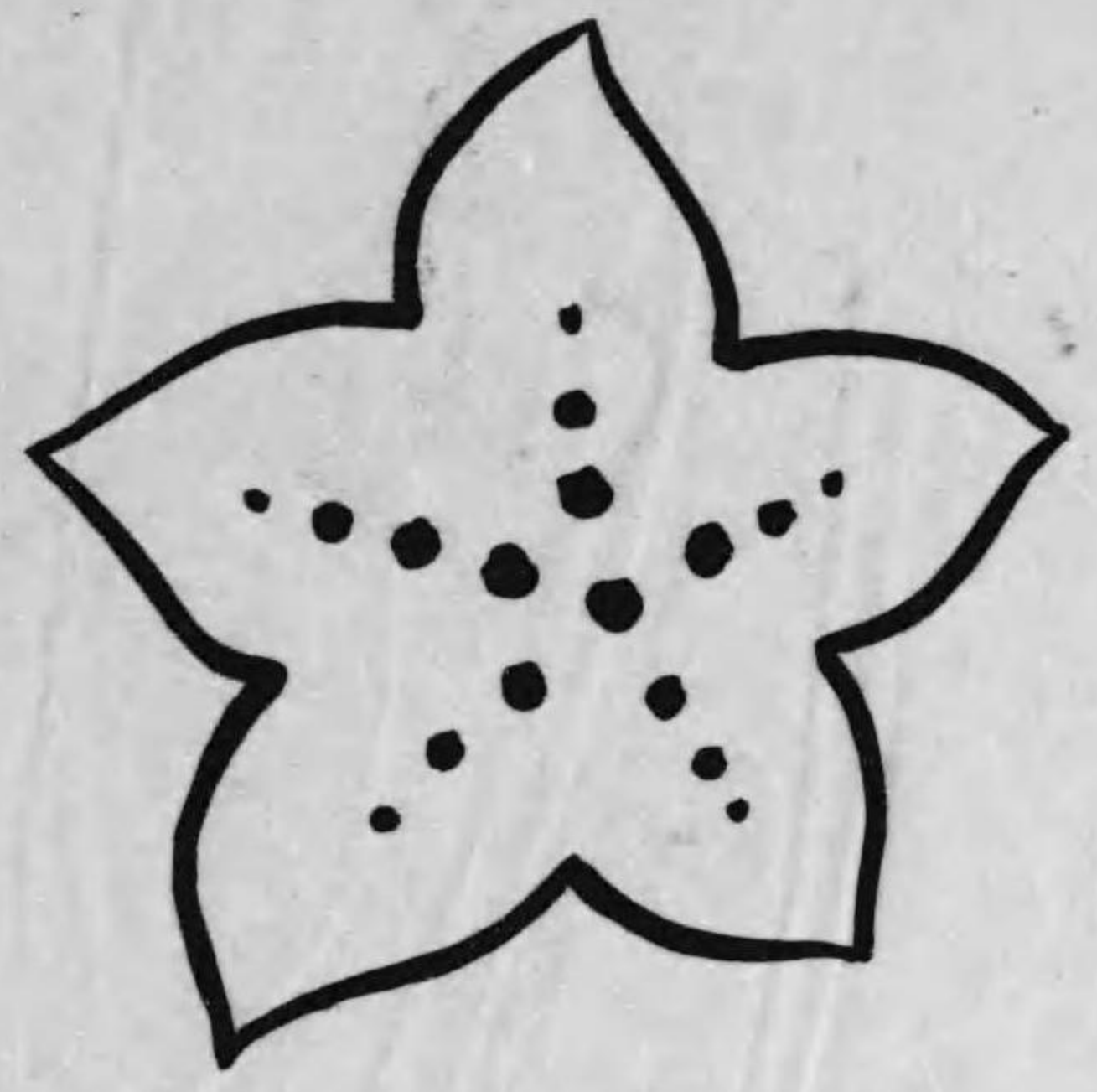
第貳圖



(2)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

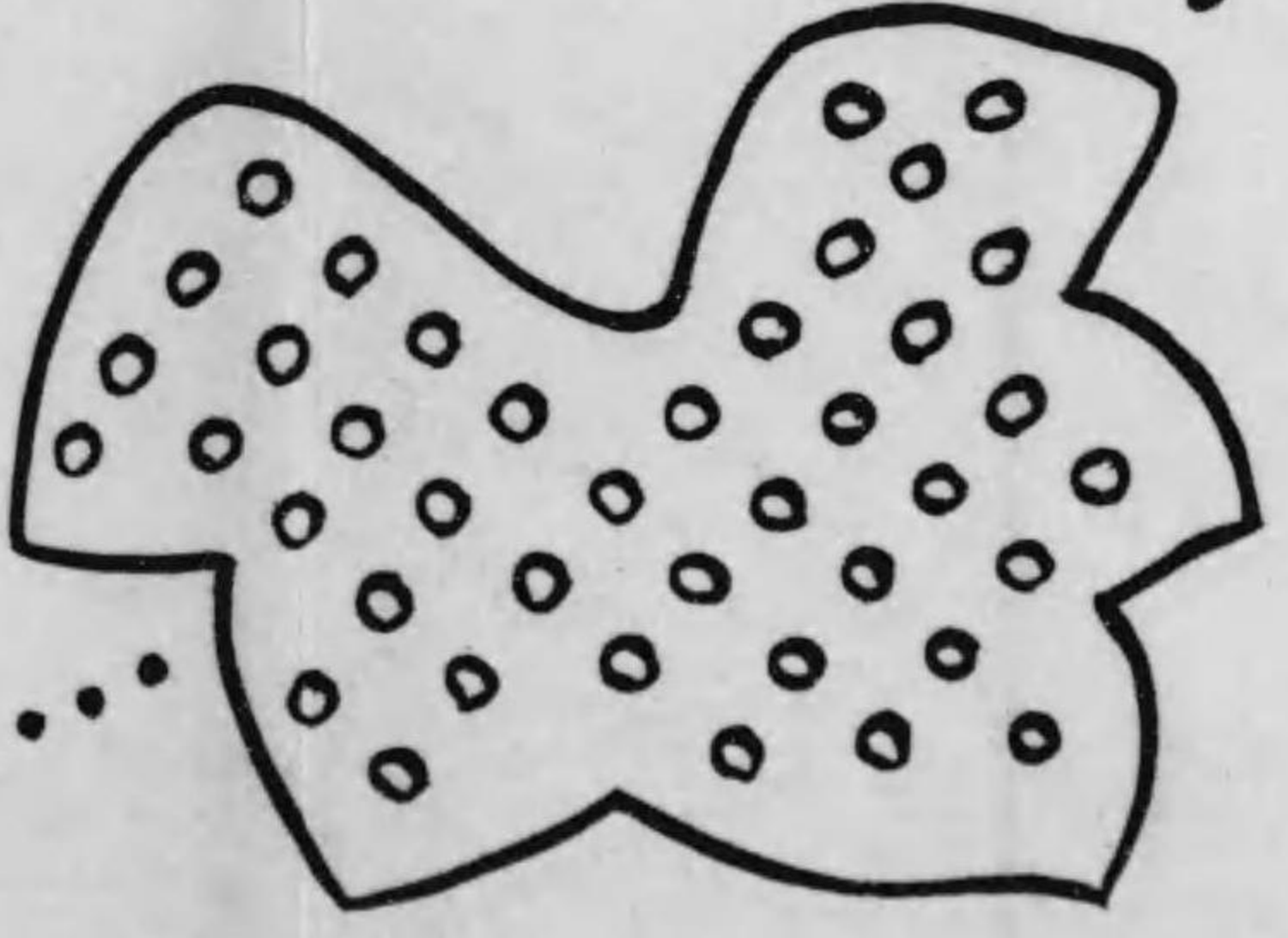
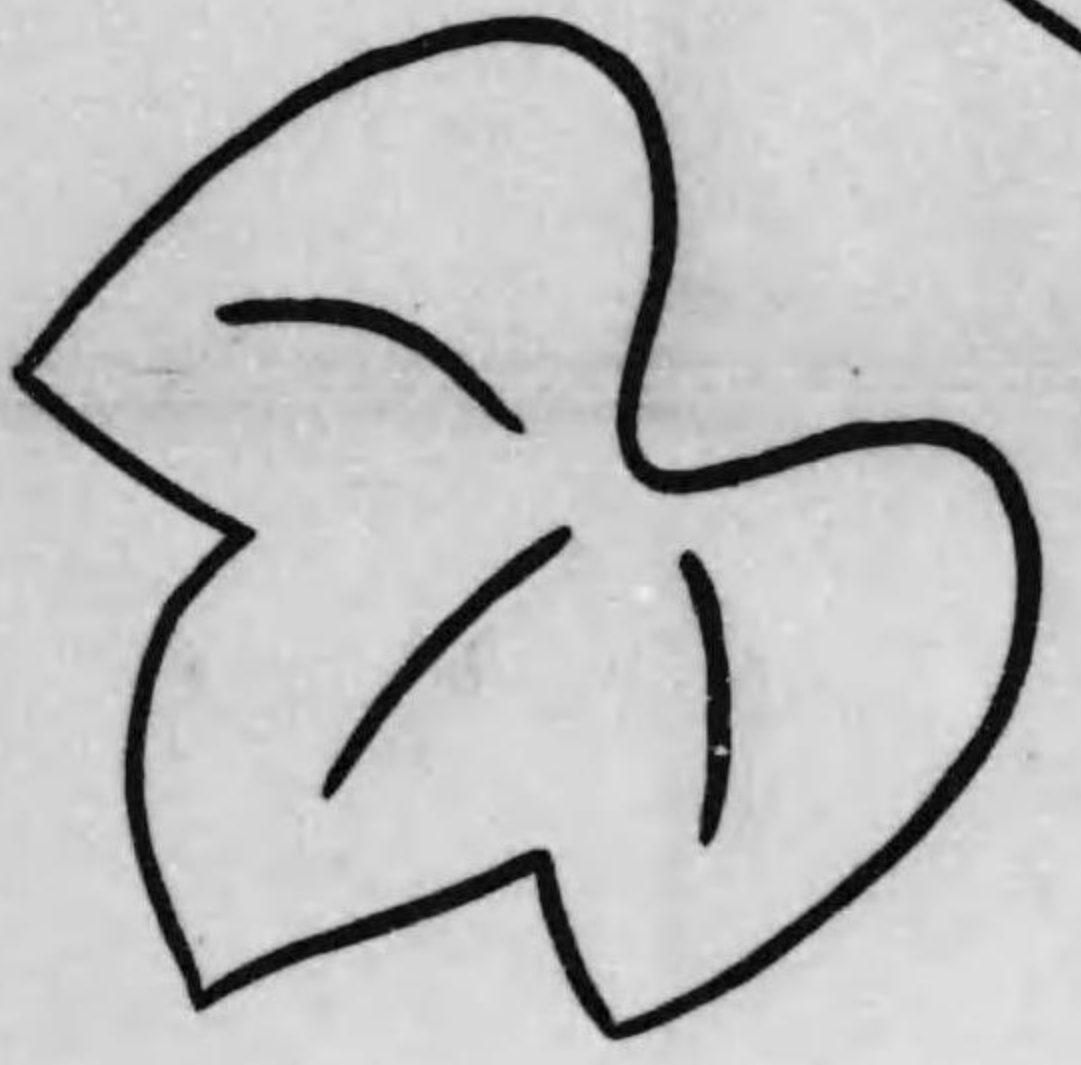
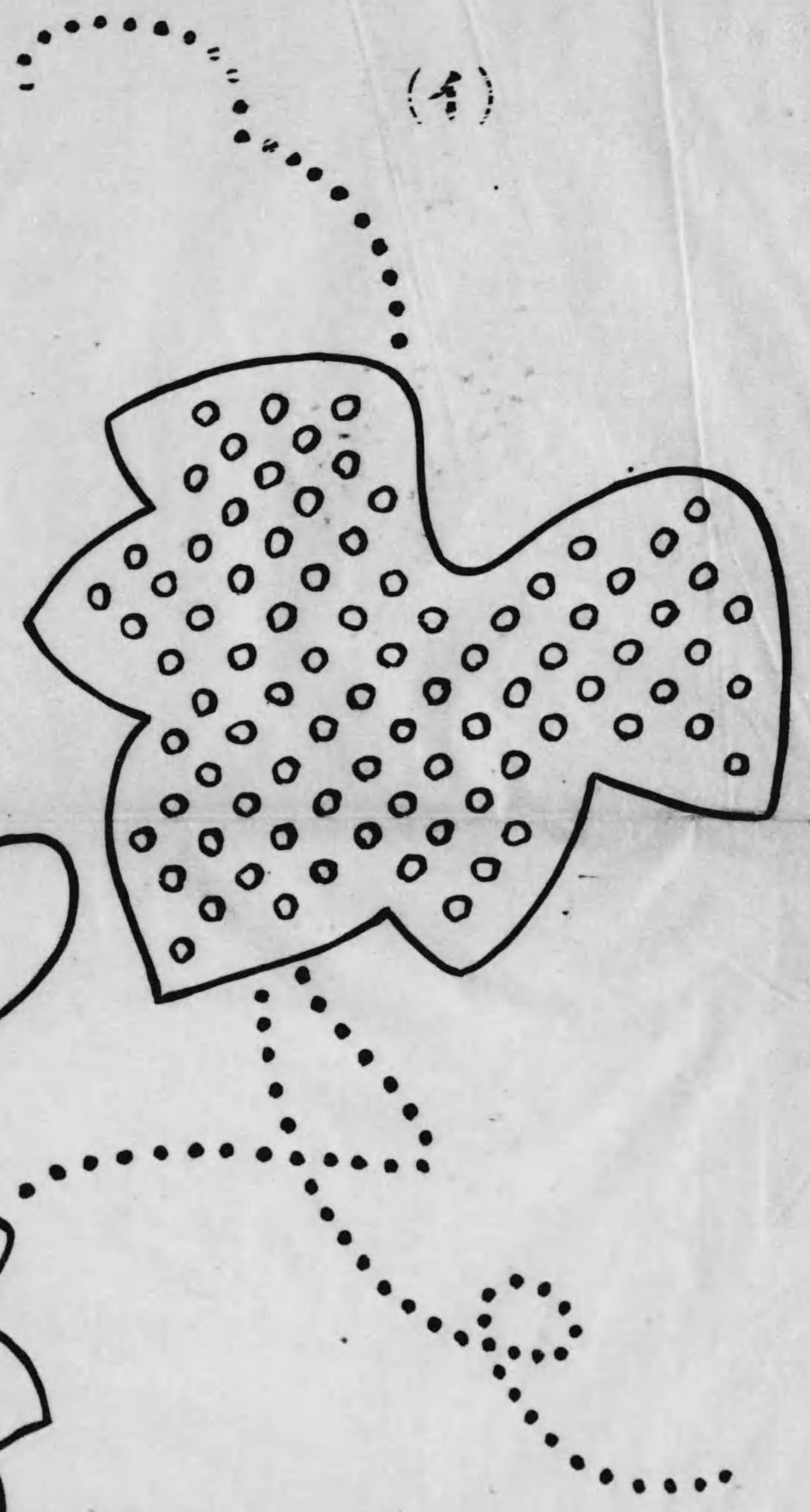




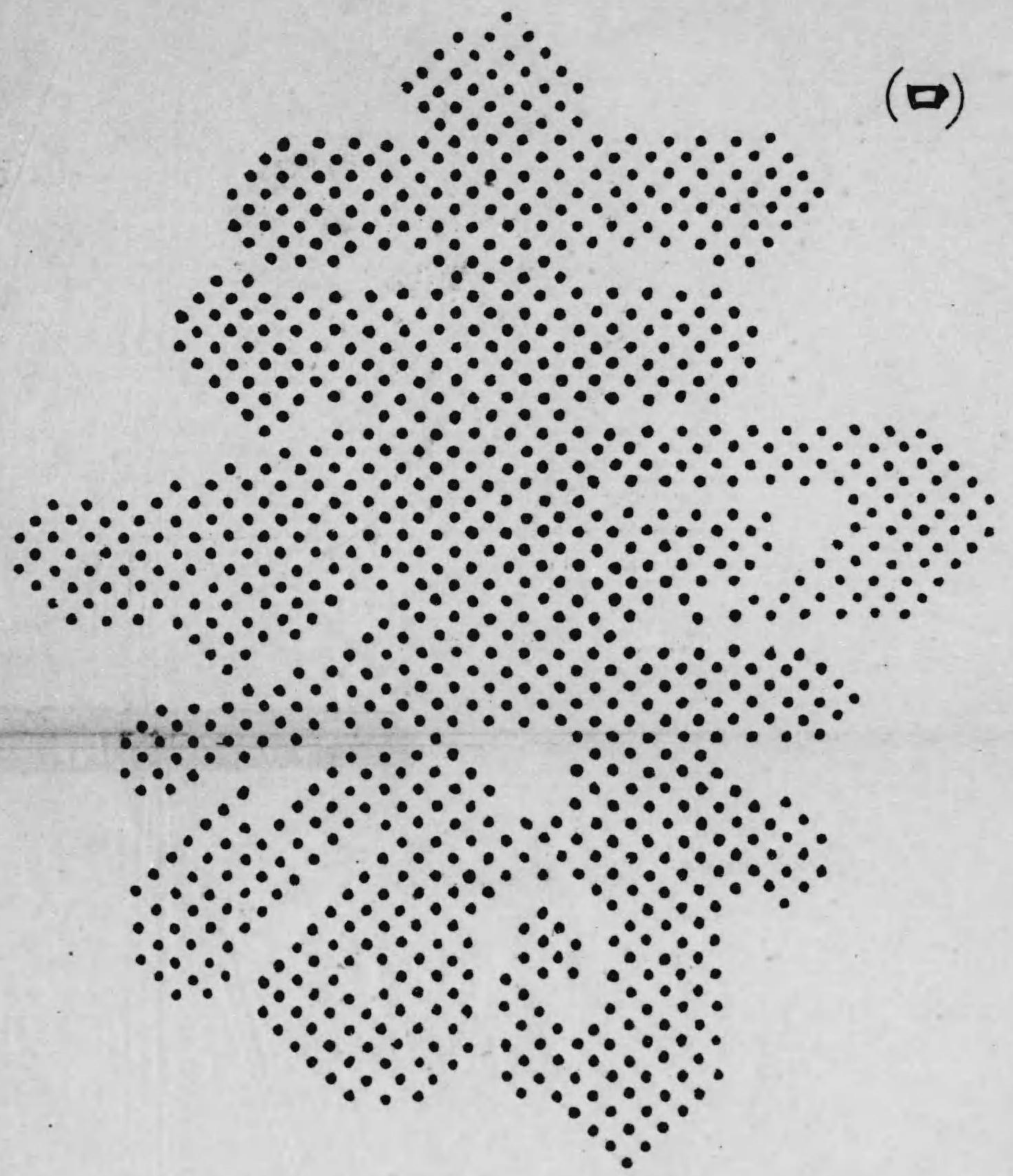
第四圖

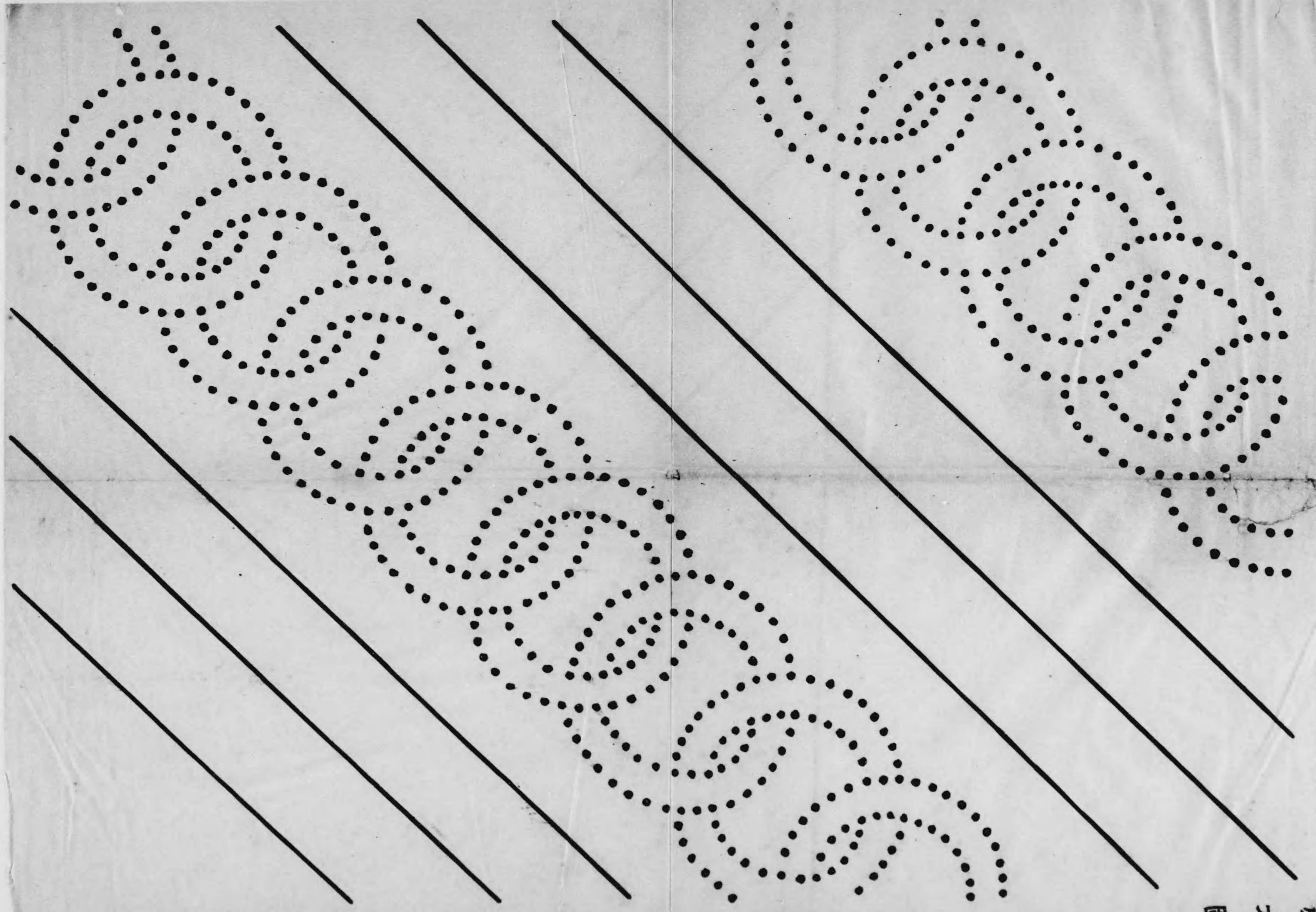


(4)



(5)

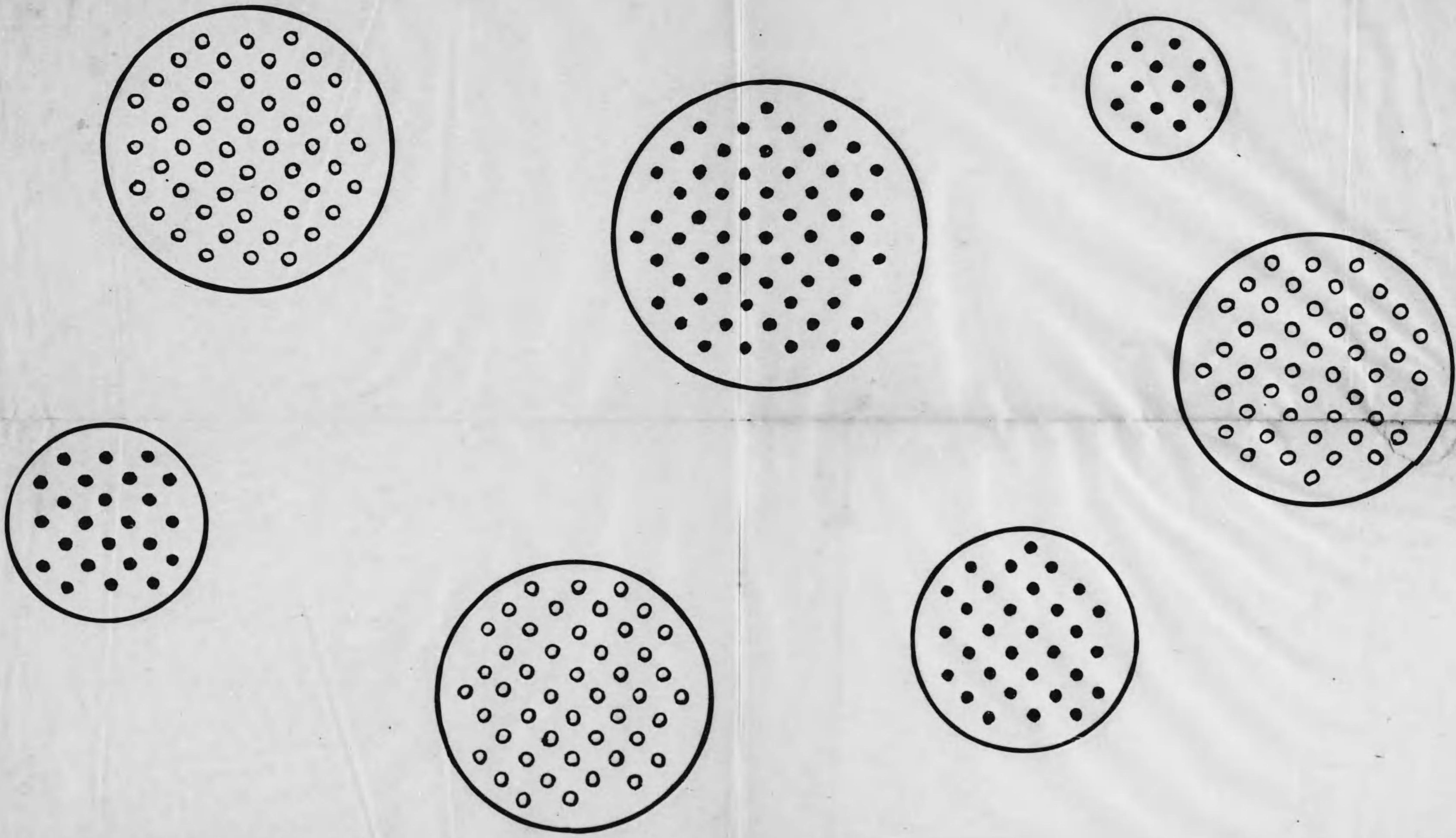




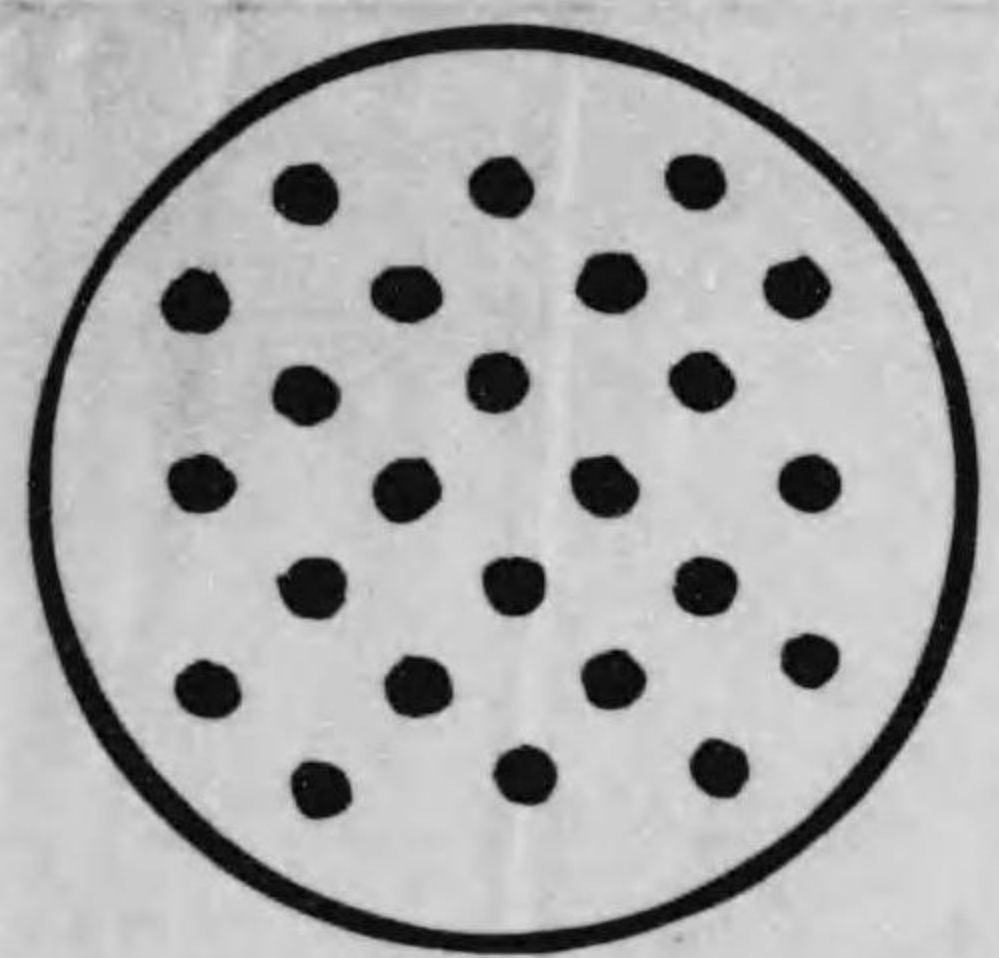
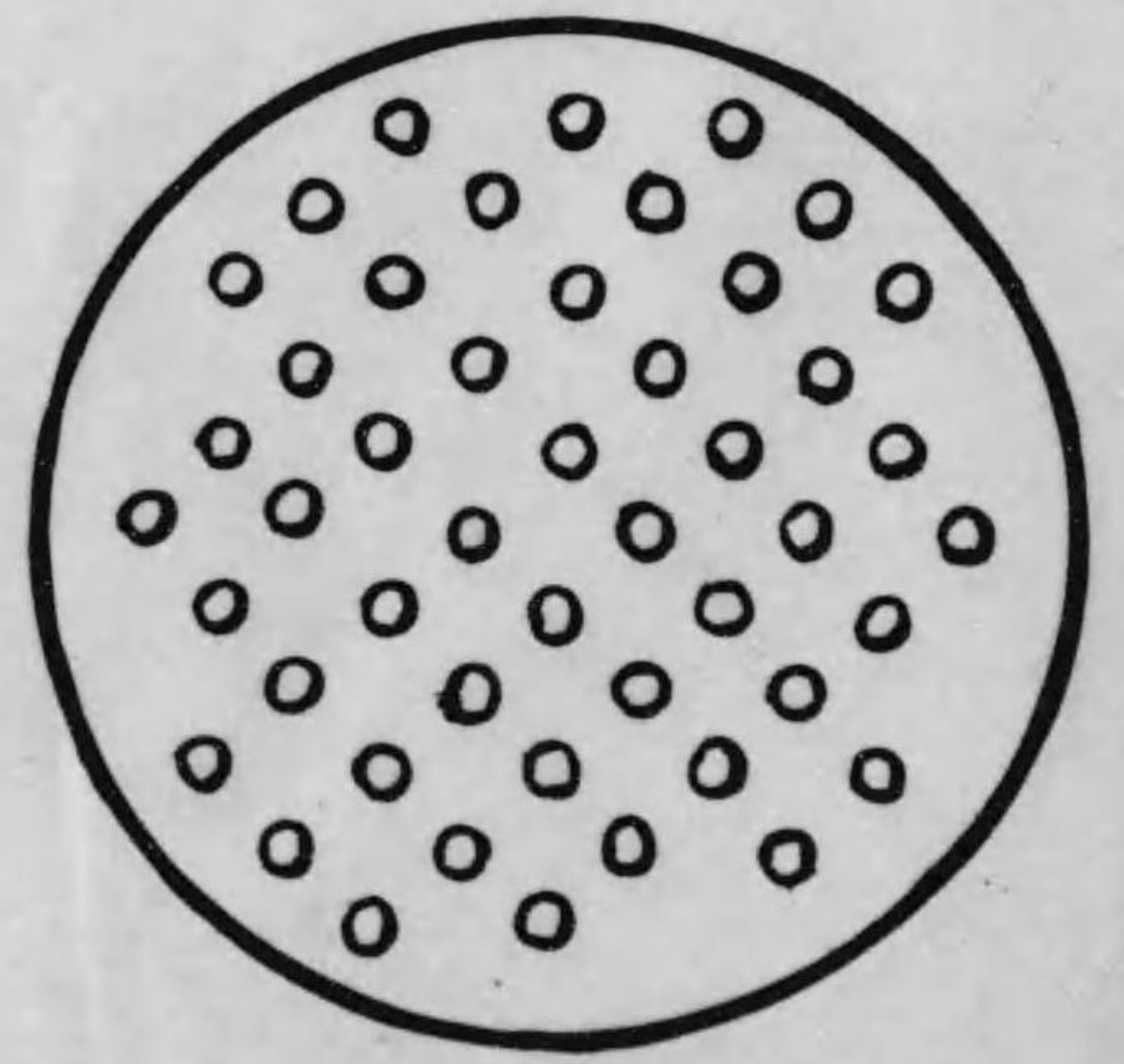
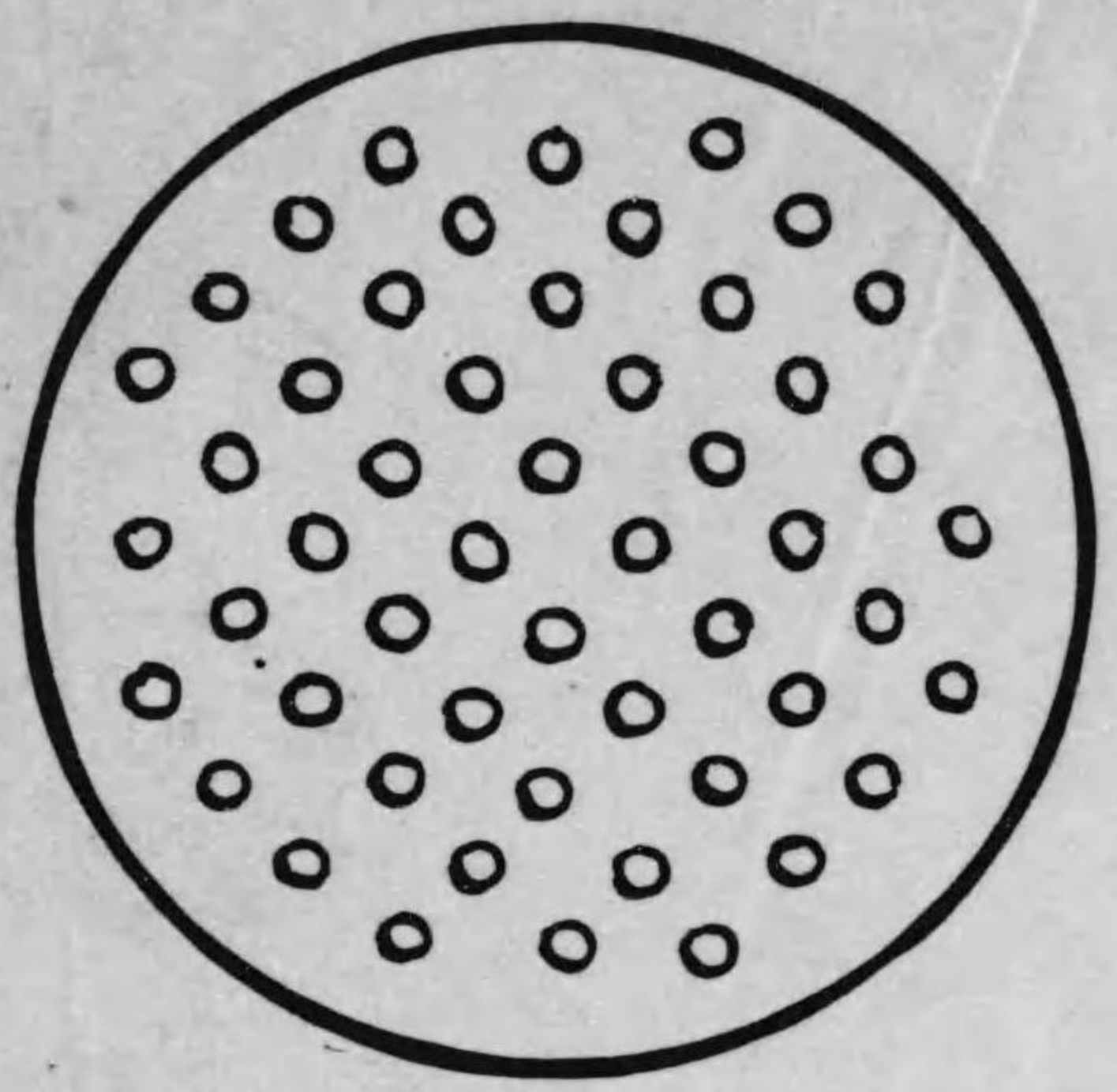
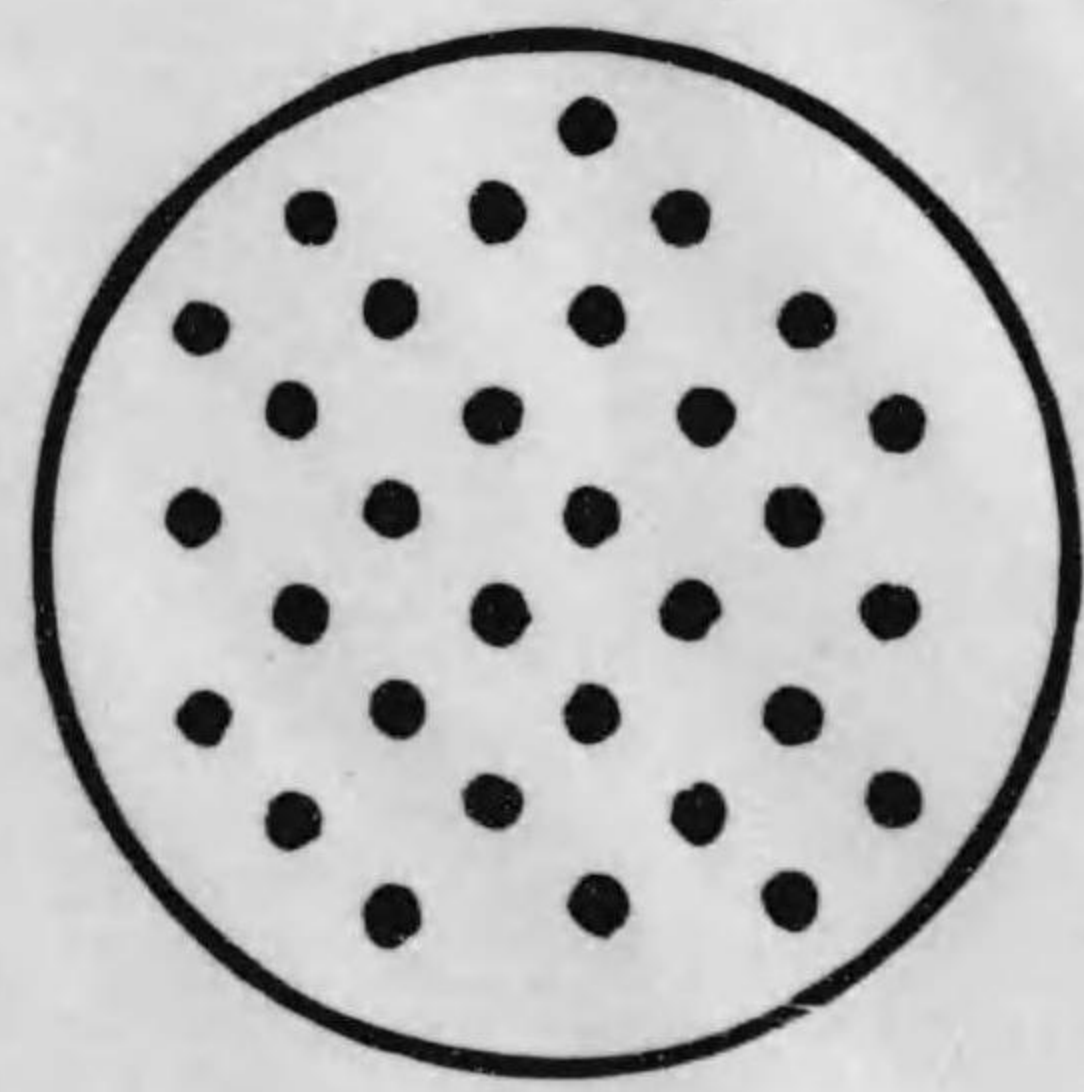
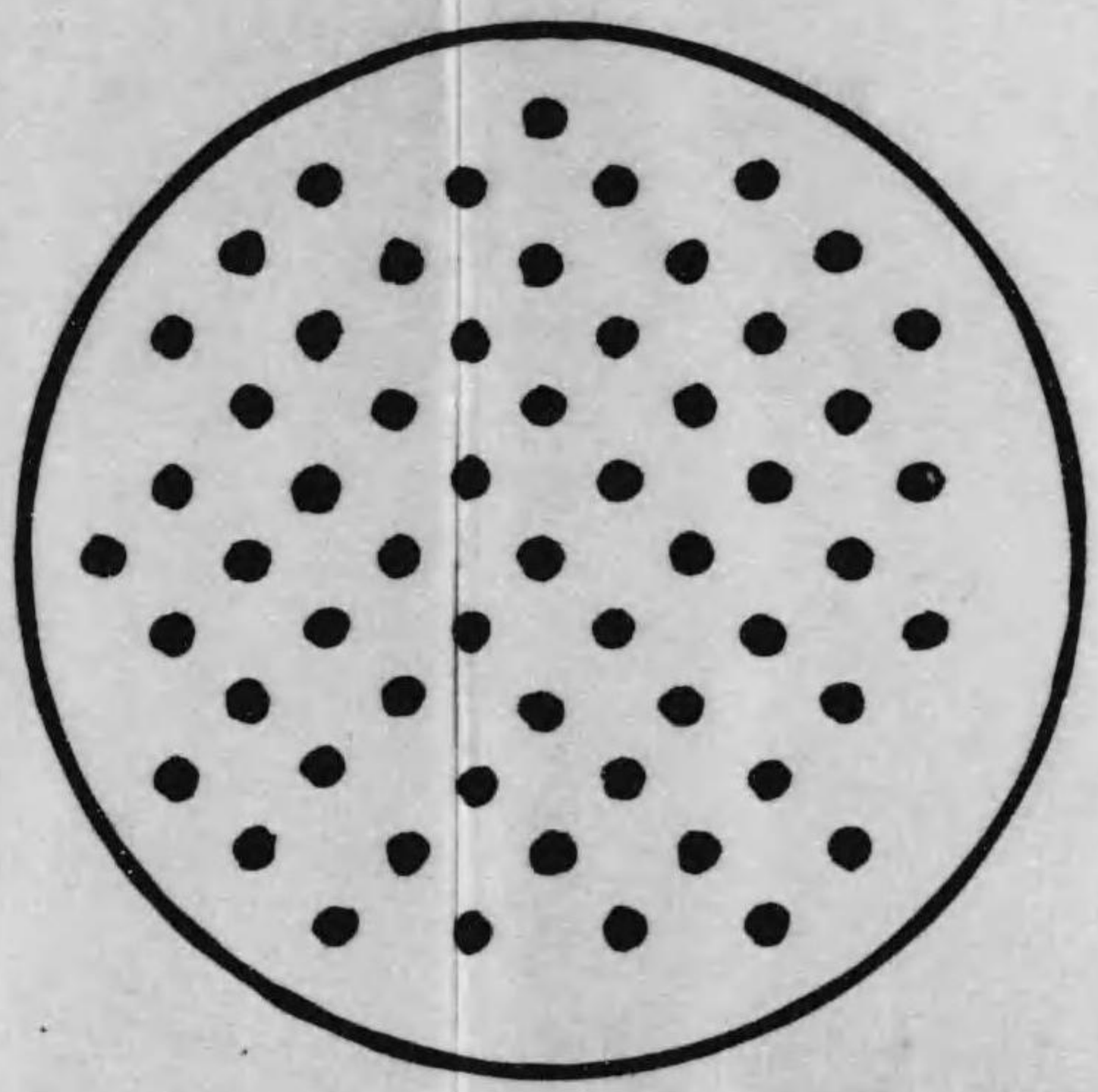
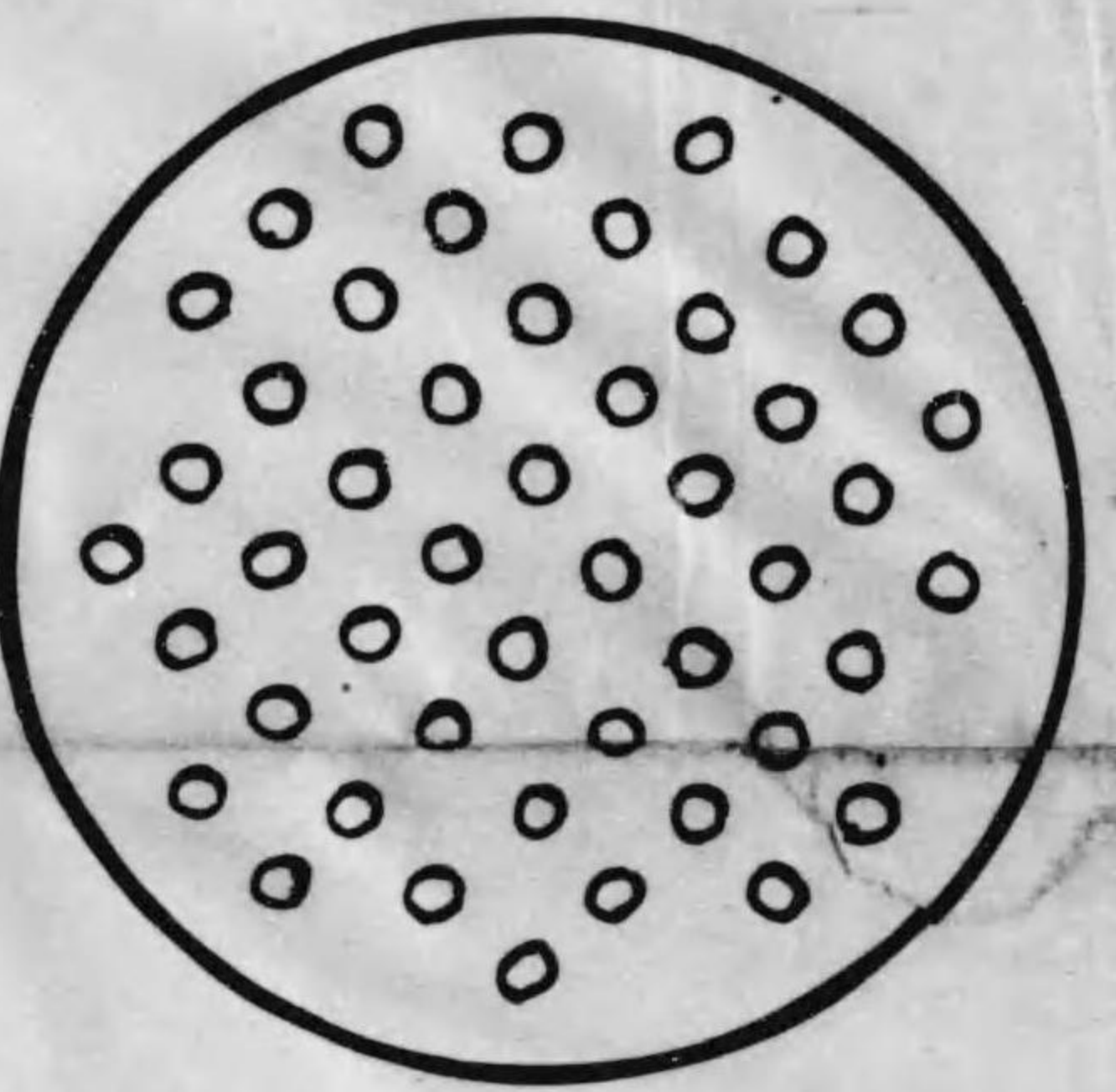
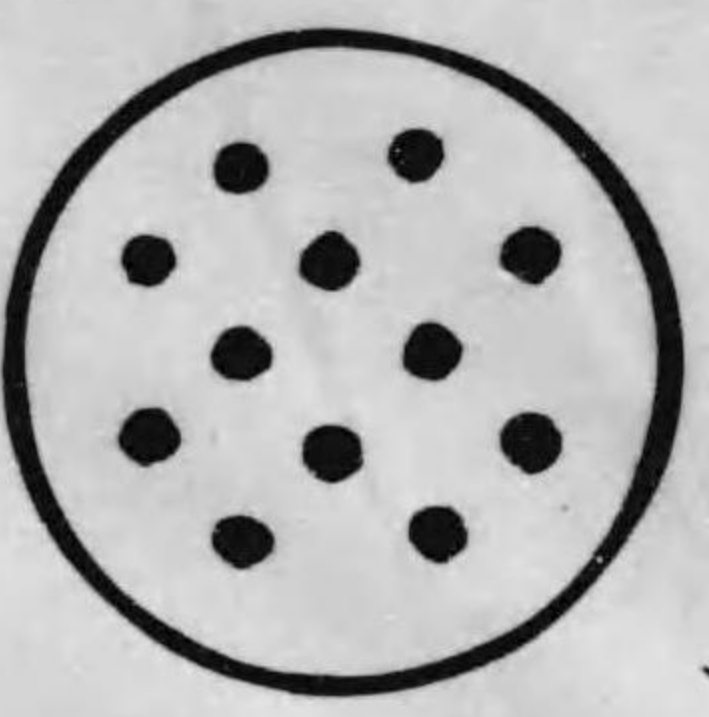
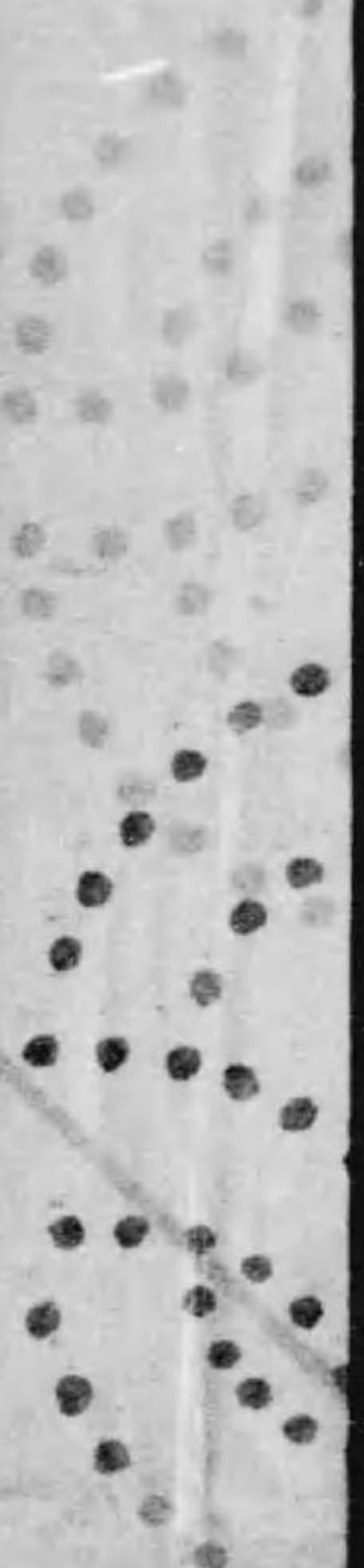
第六圖



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4



第八圖



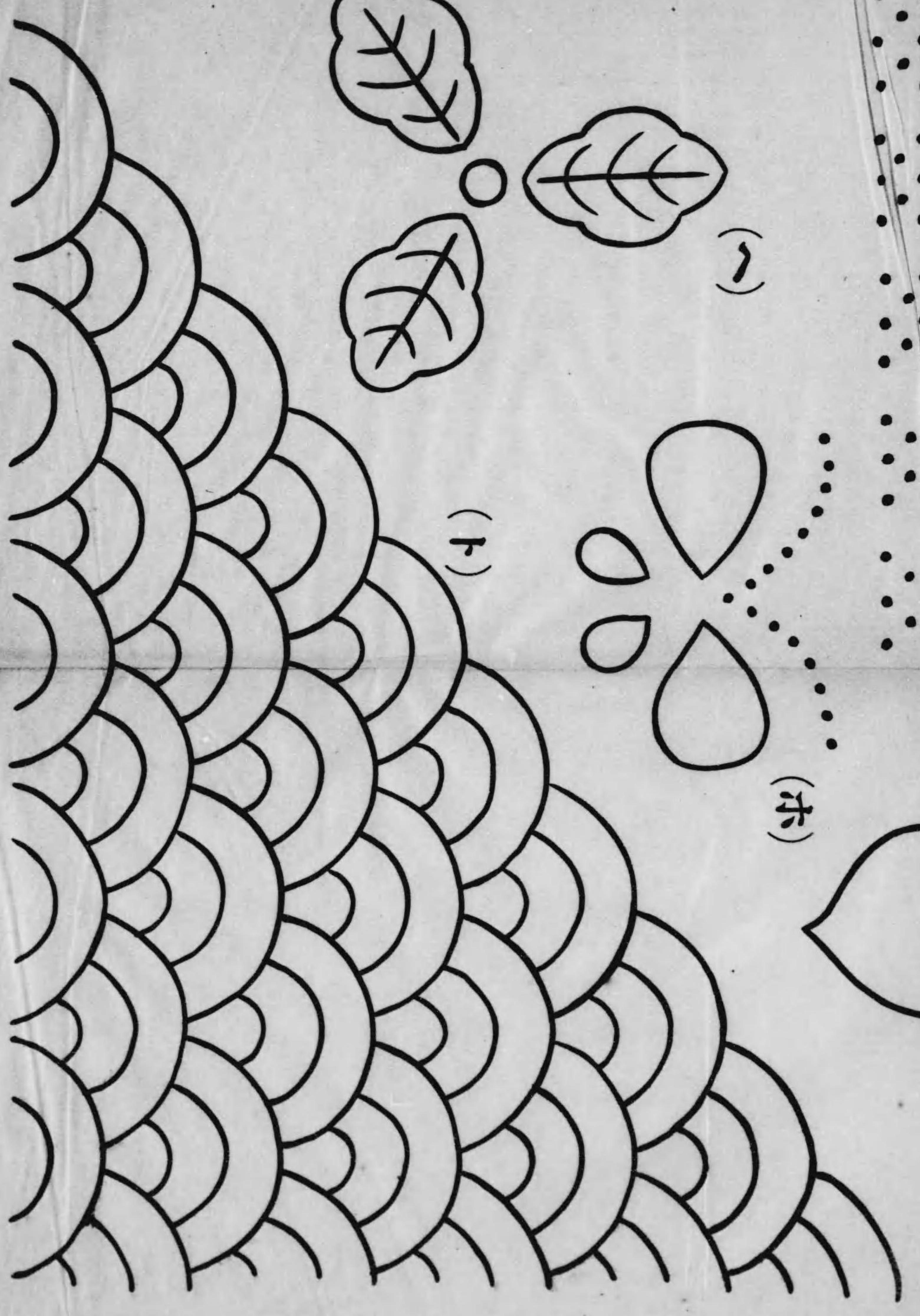
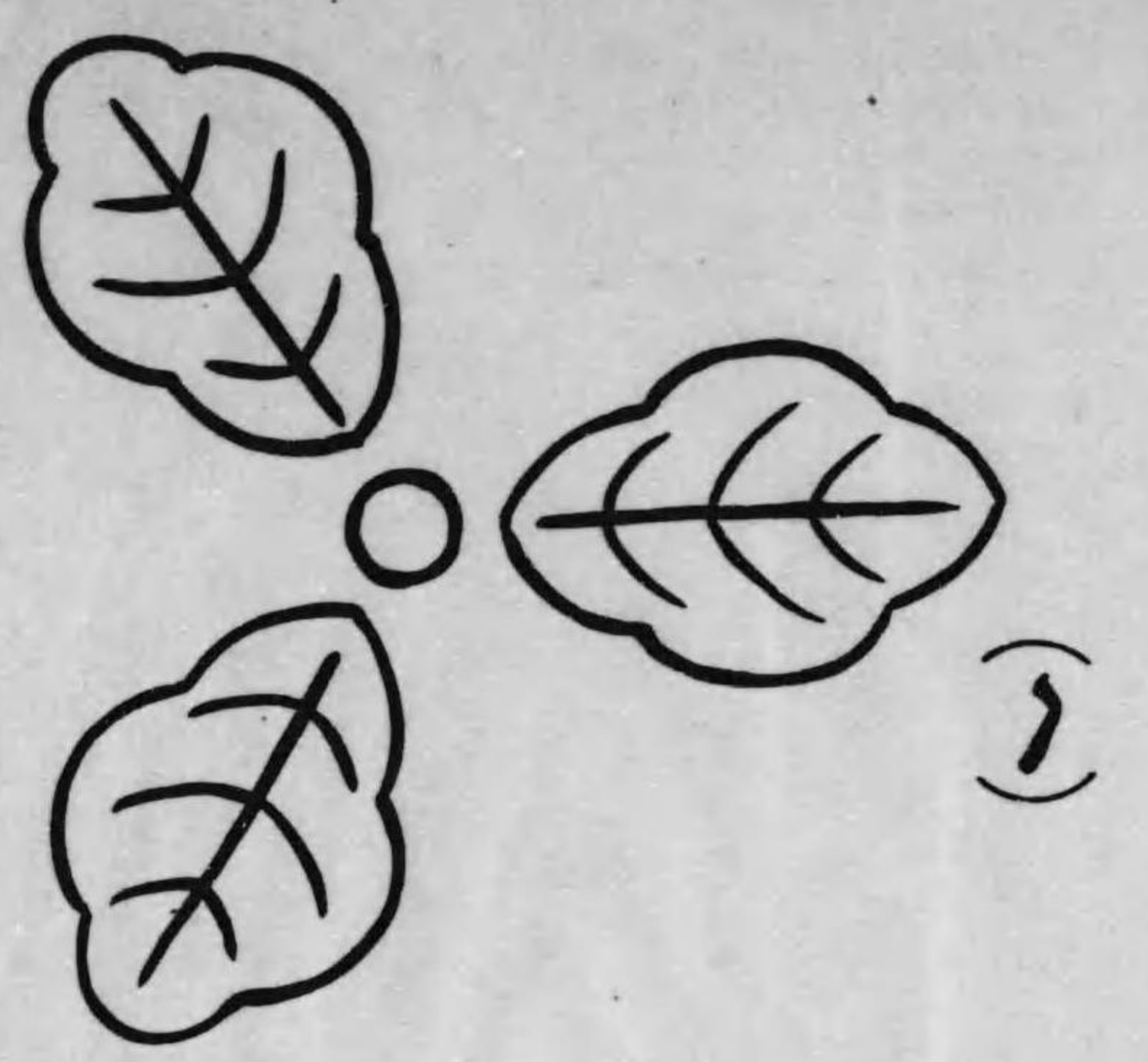
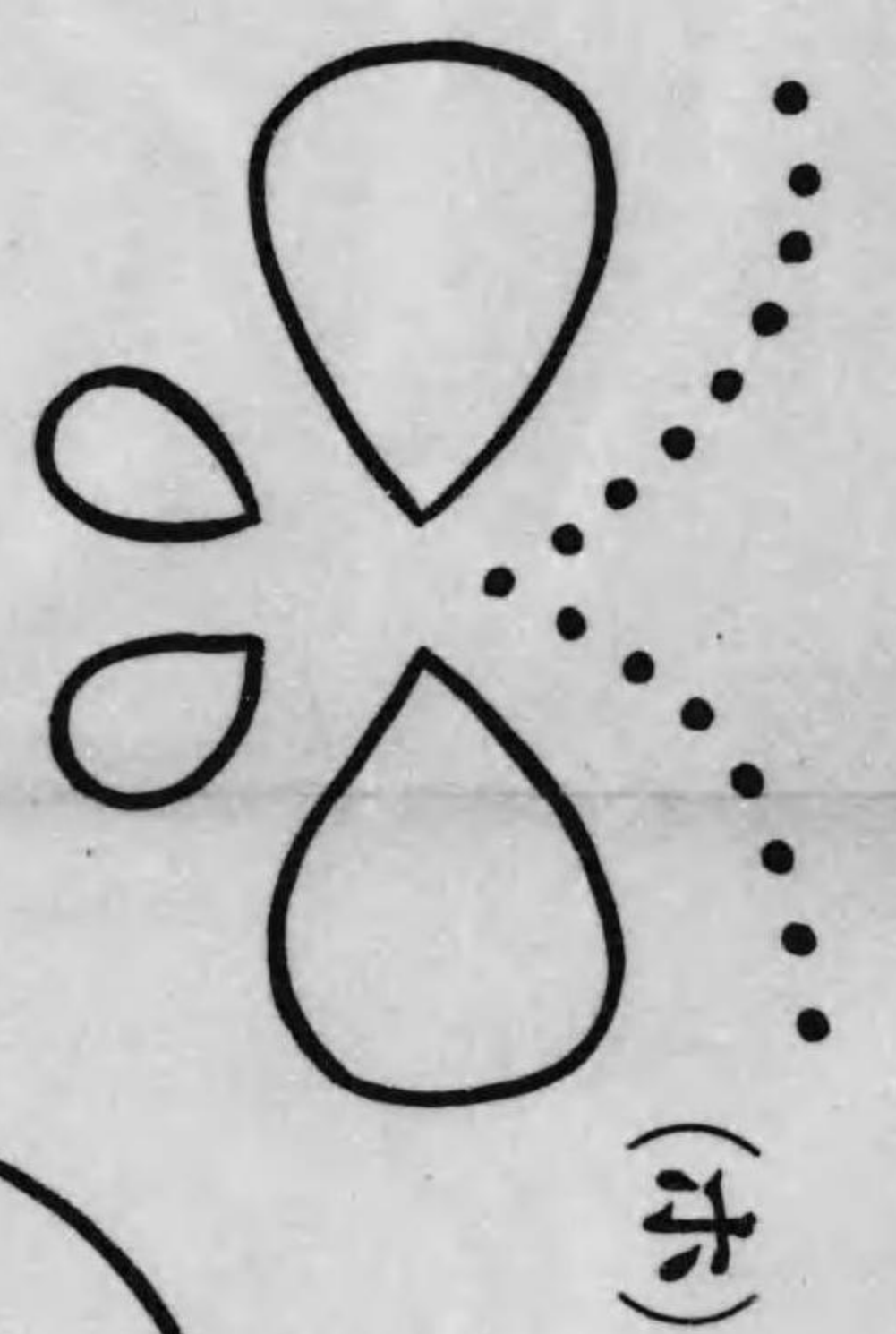
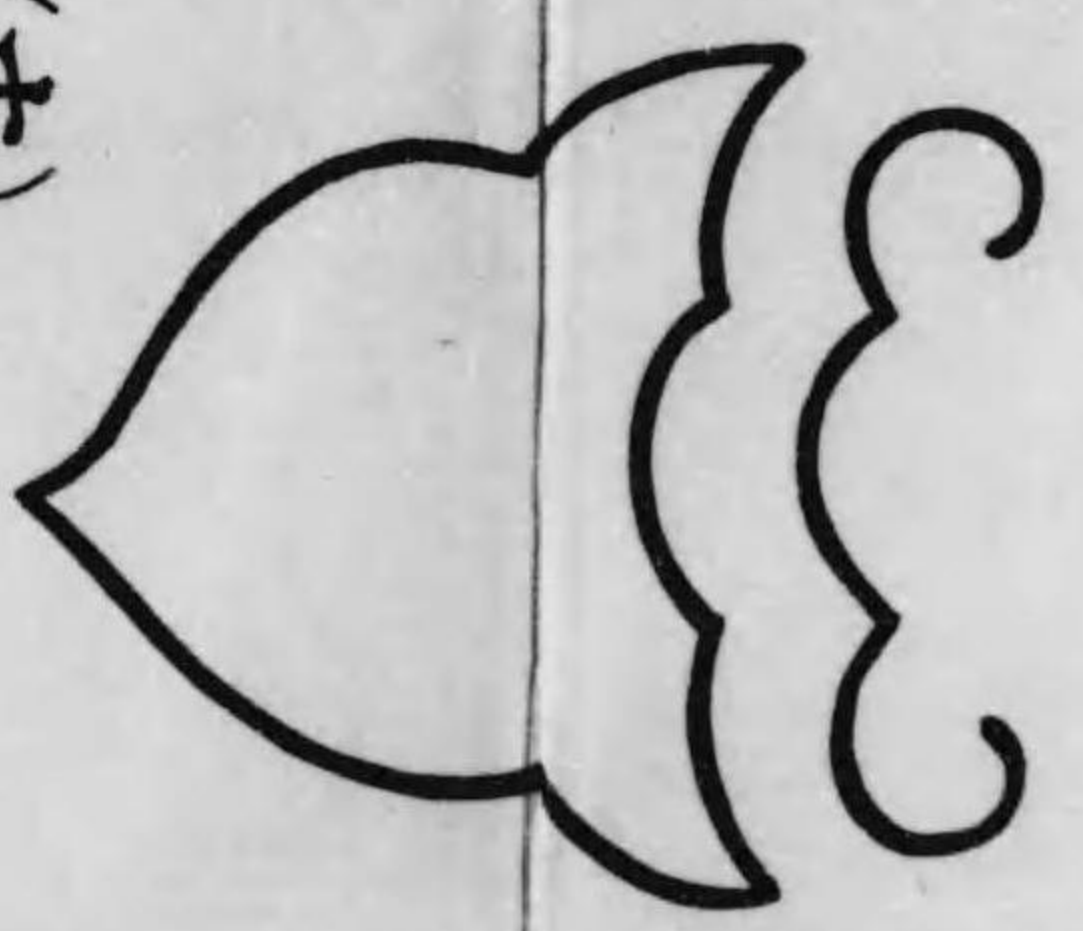
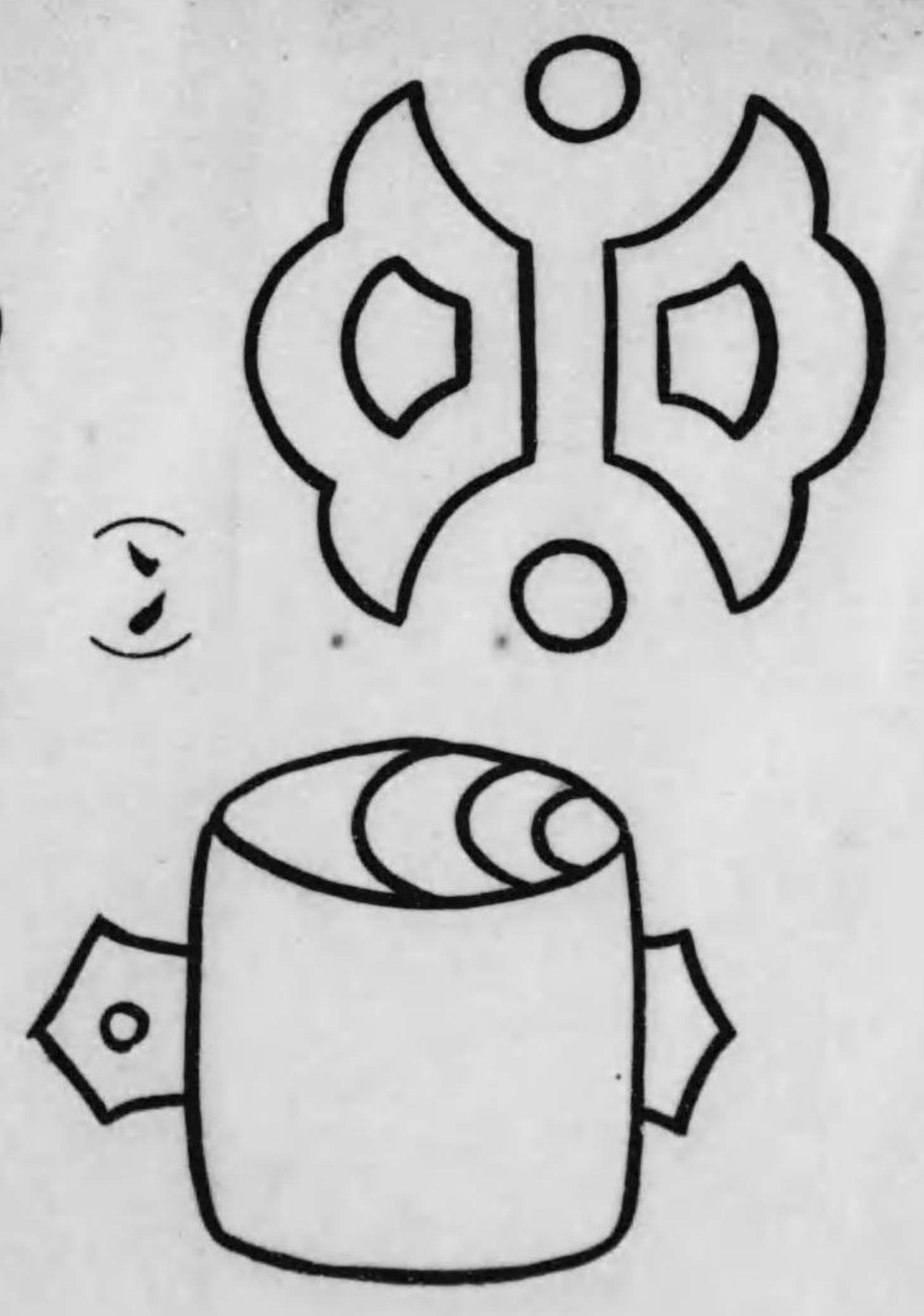
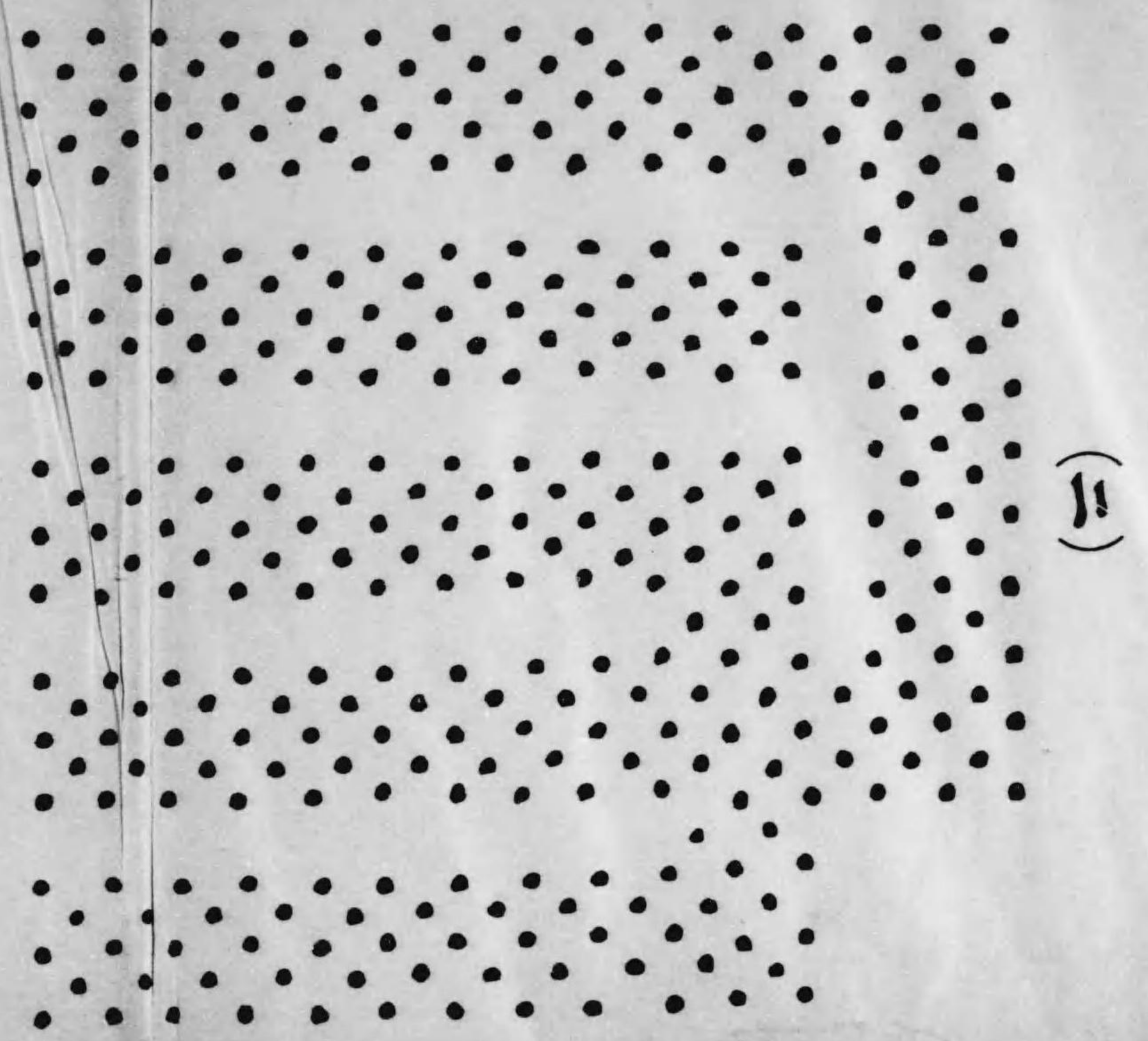


第九圖



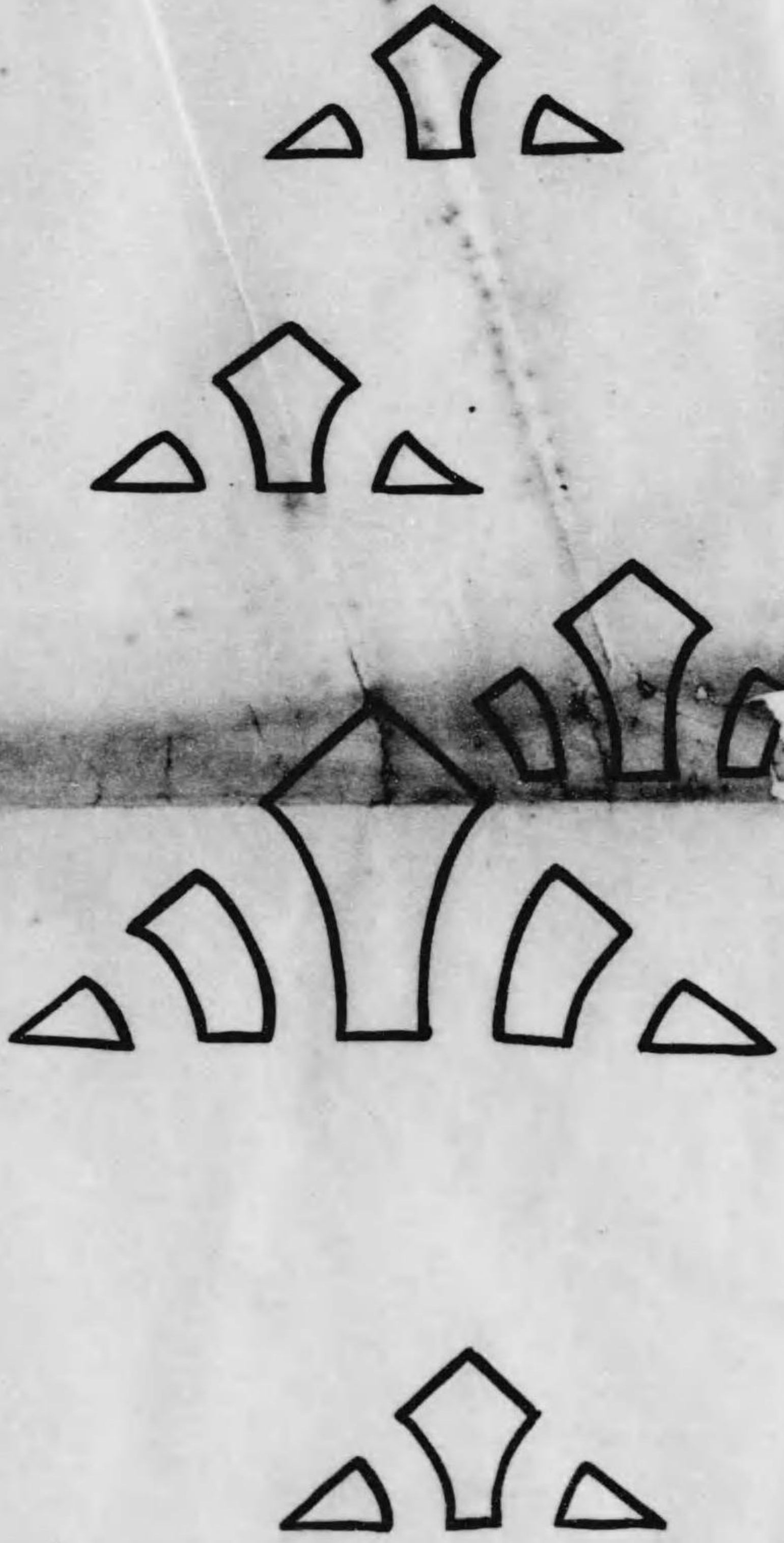


第十圖

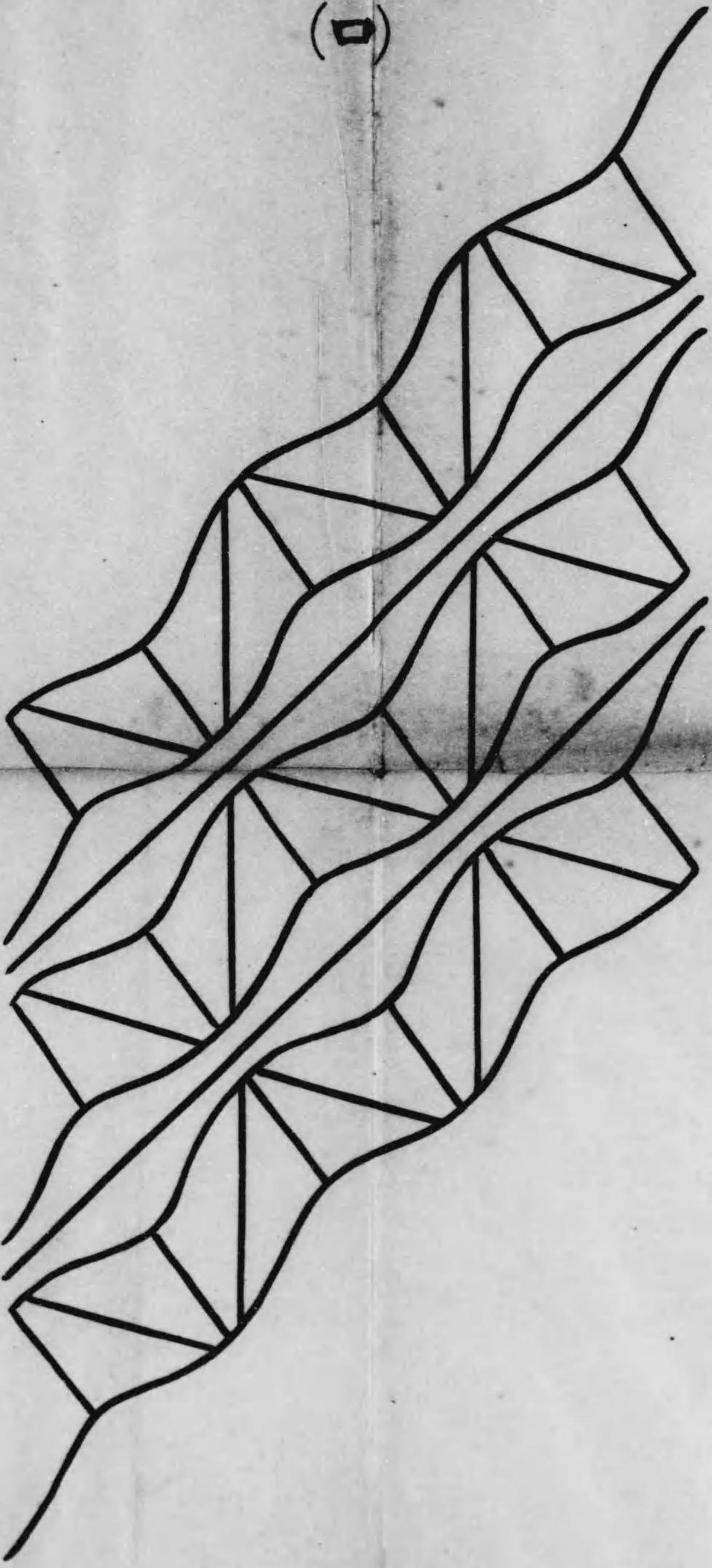




(1)

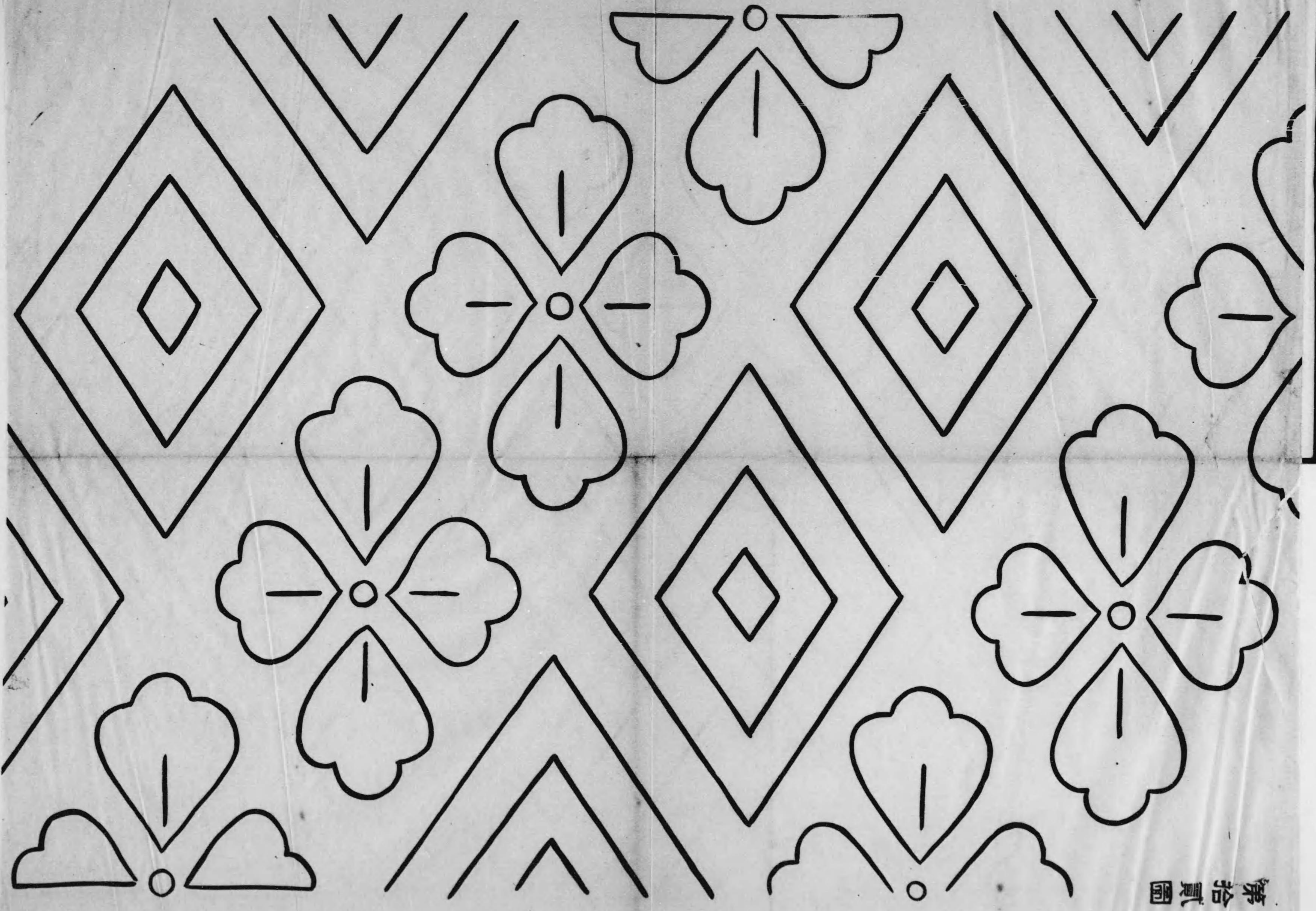


(2)



(3)

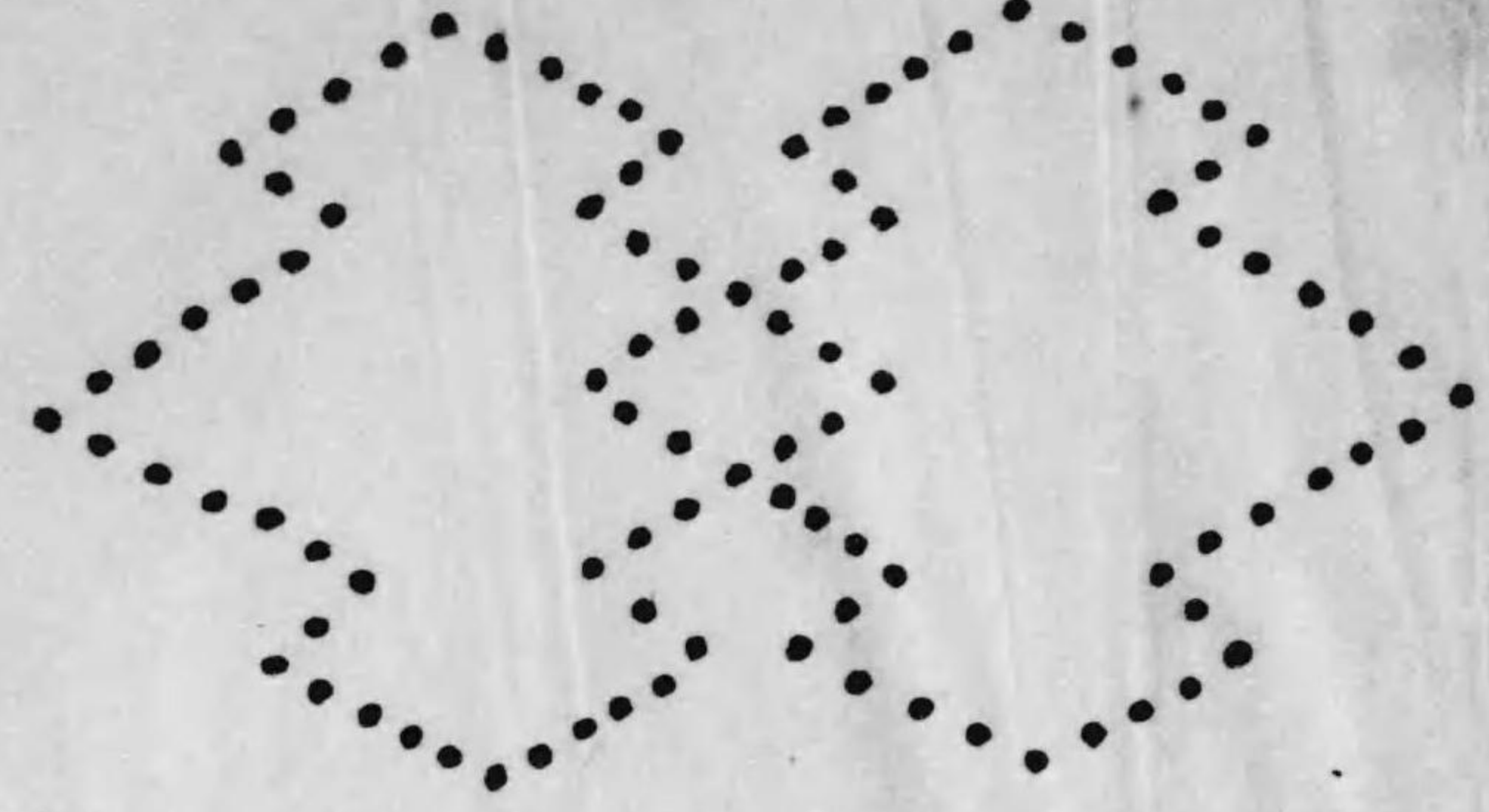




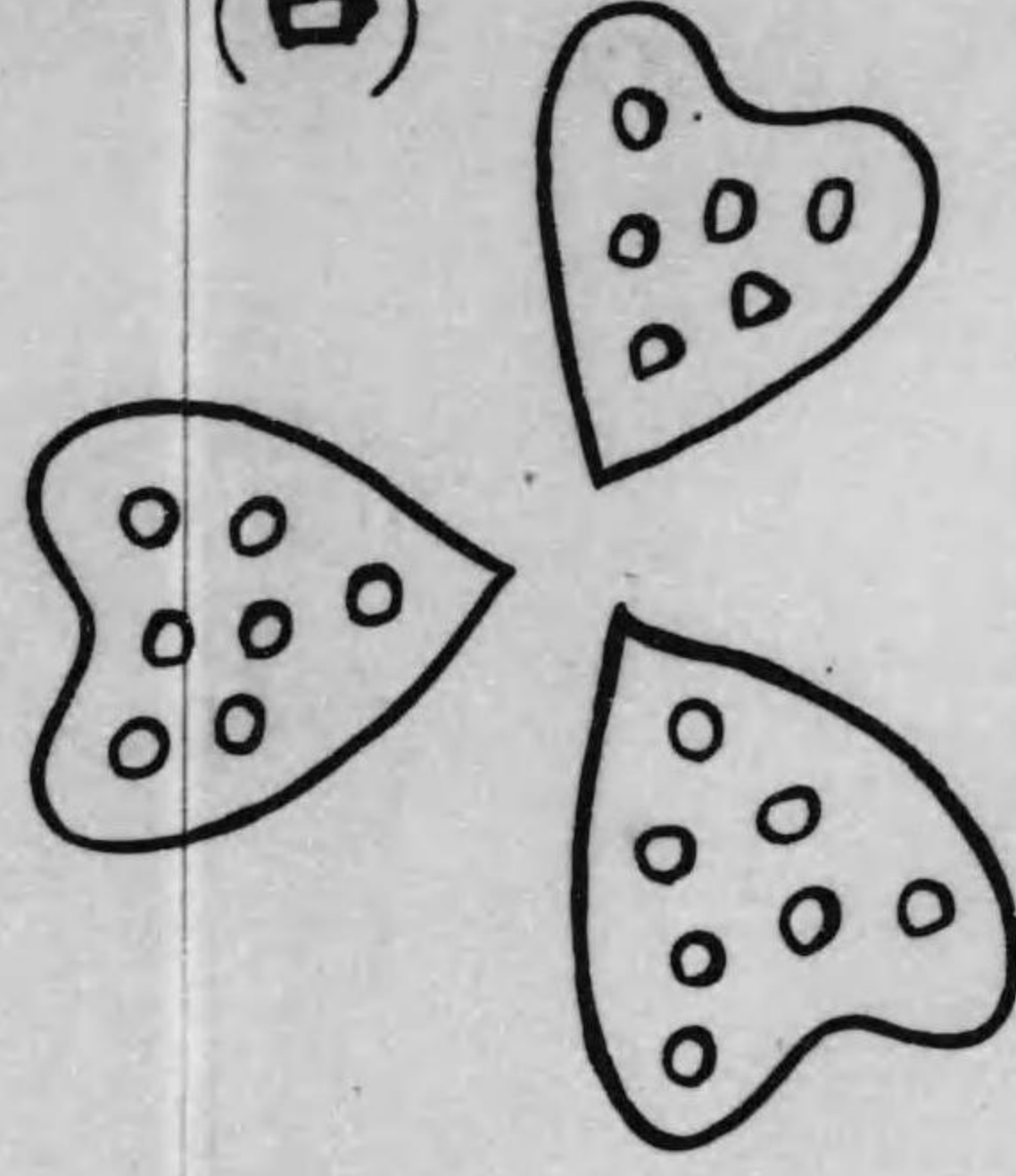
第拾貳圖



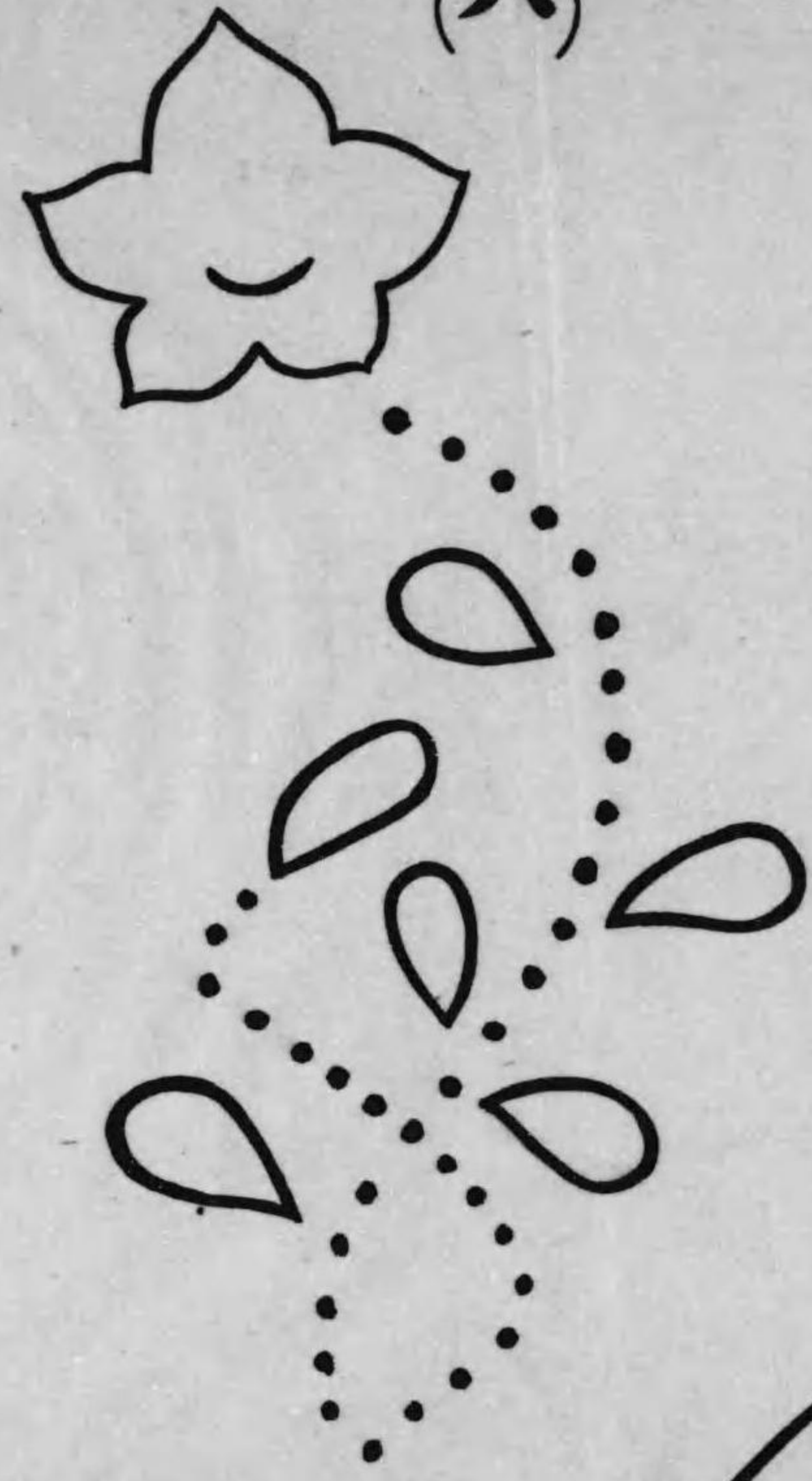
(イ)



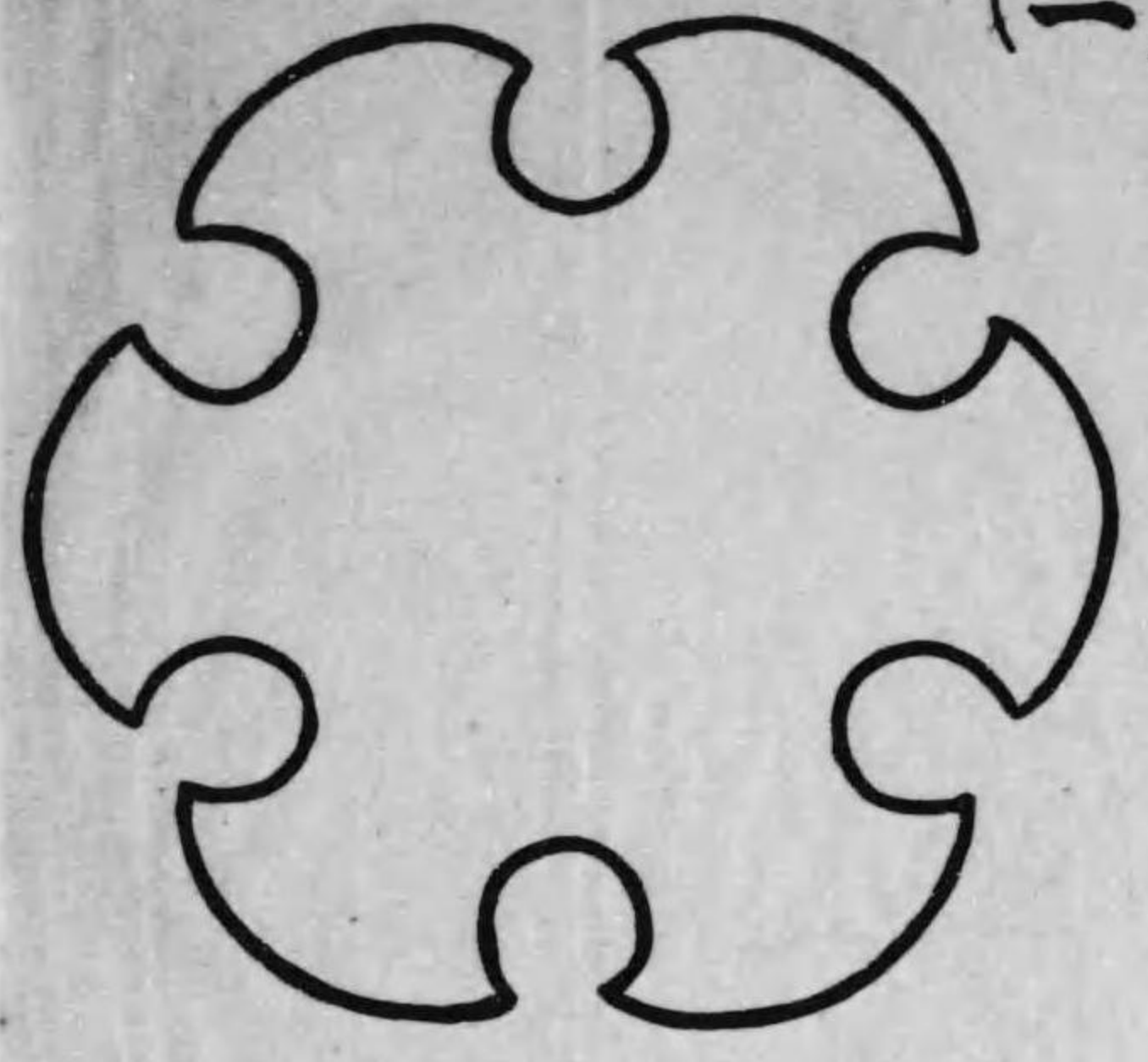
(ロ)



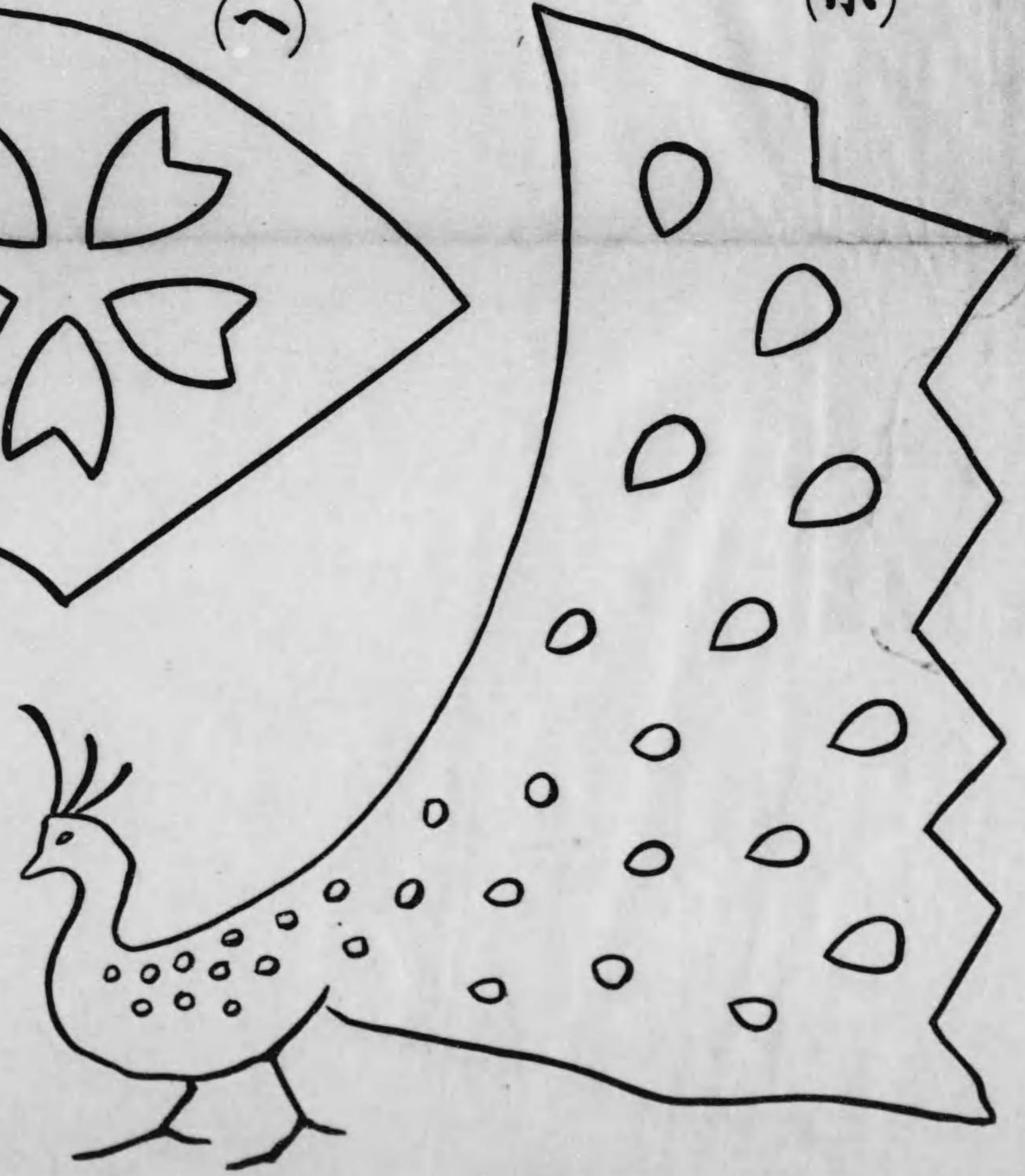
(ハ)



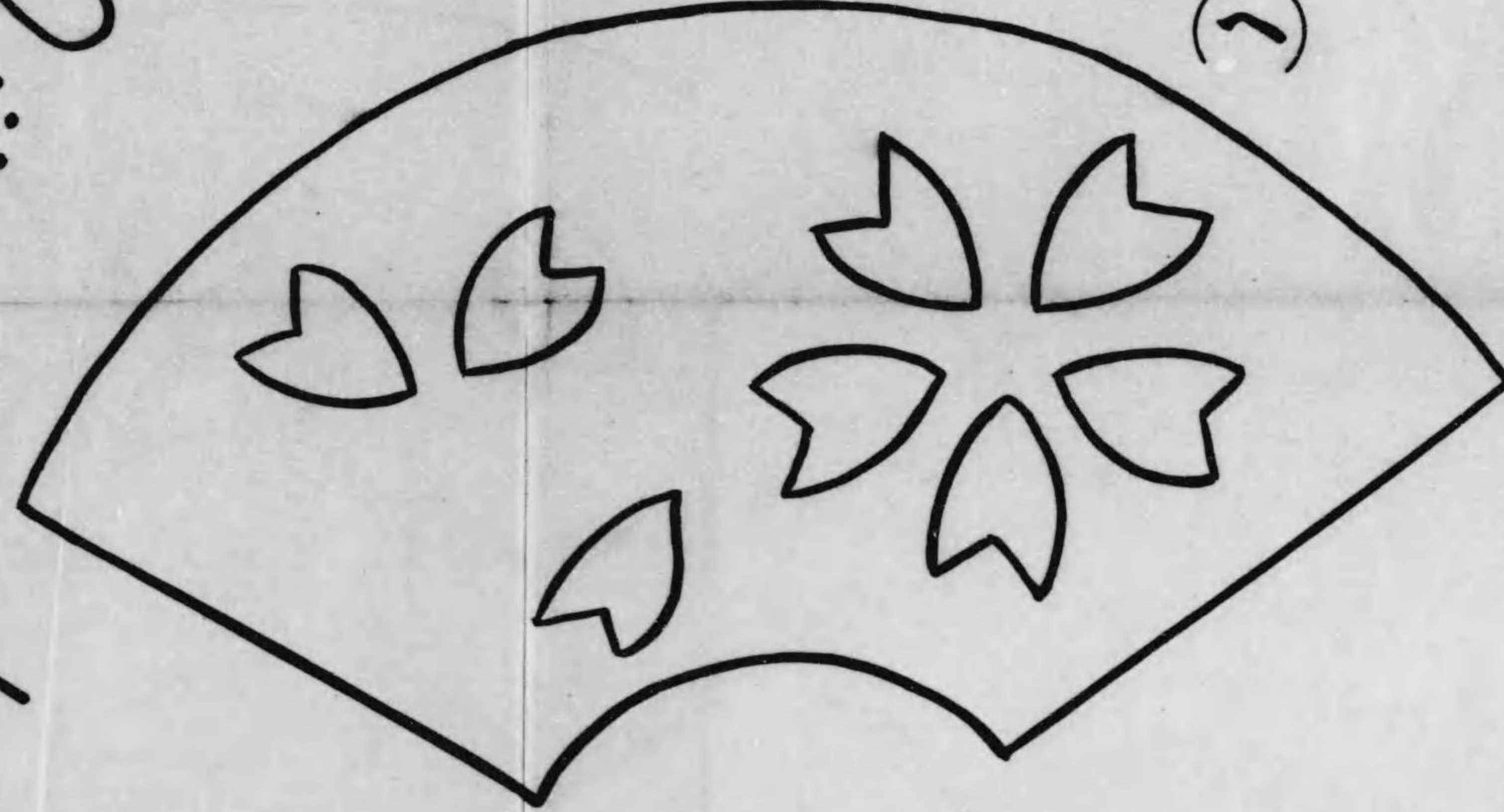
(ニ)



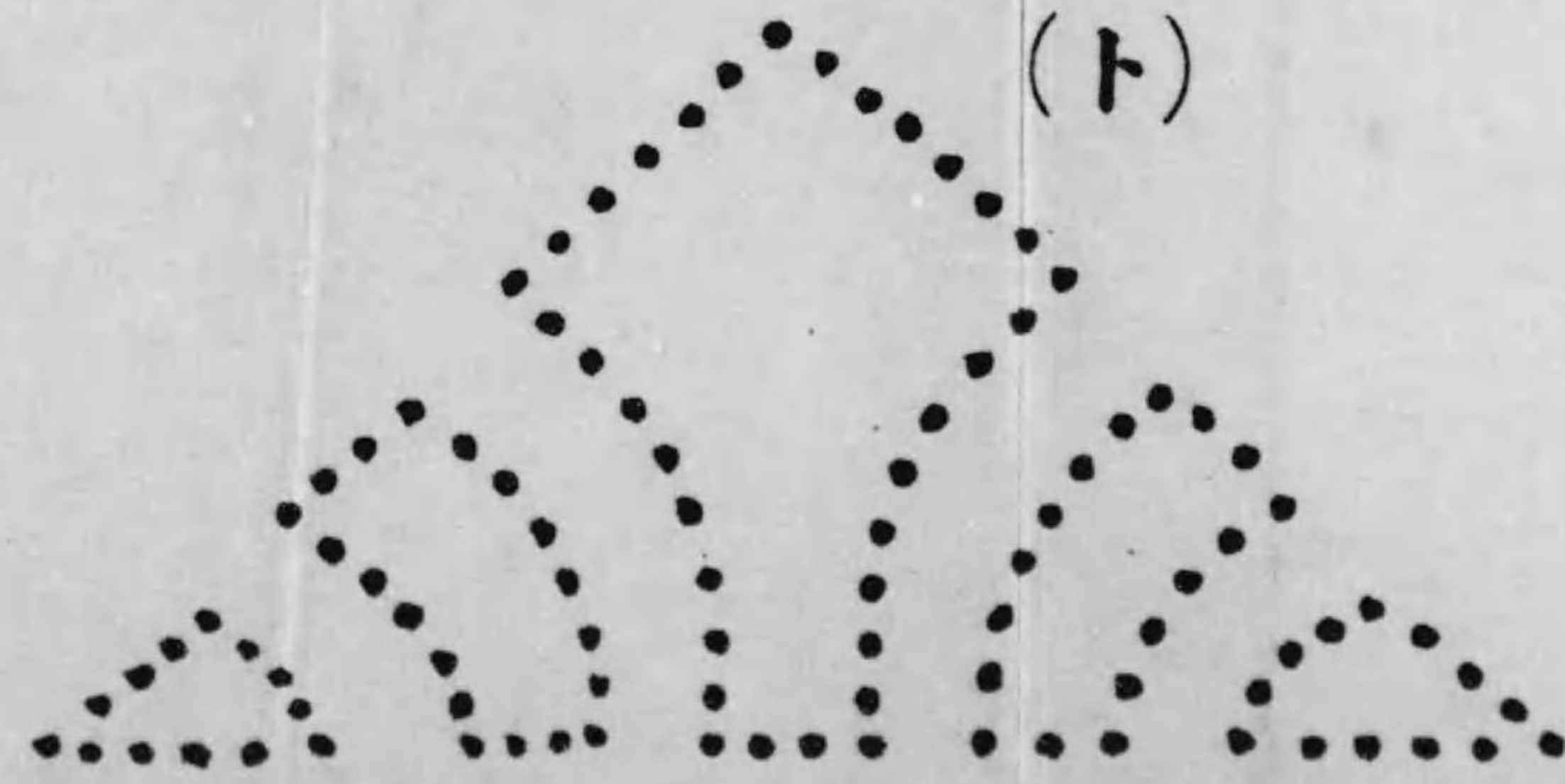
(ホ)



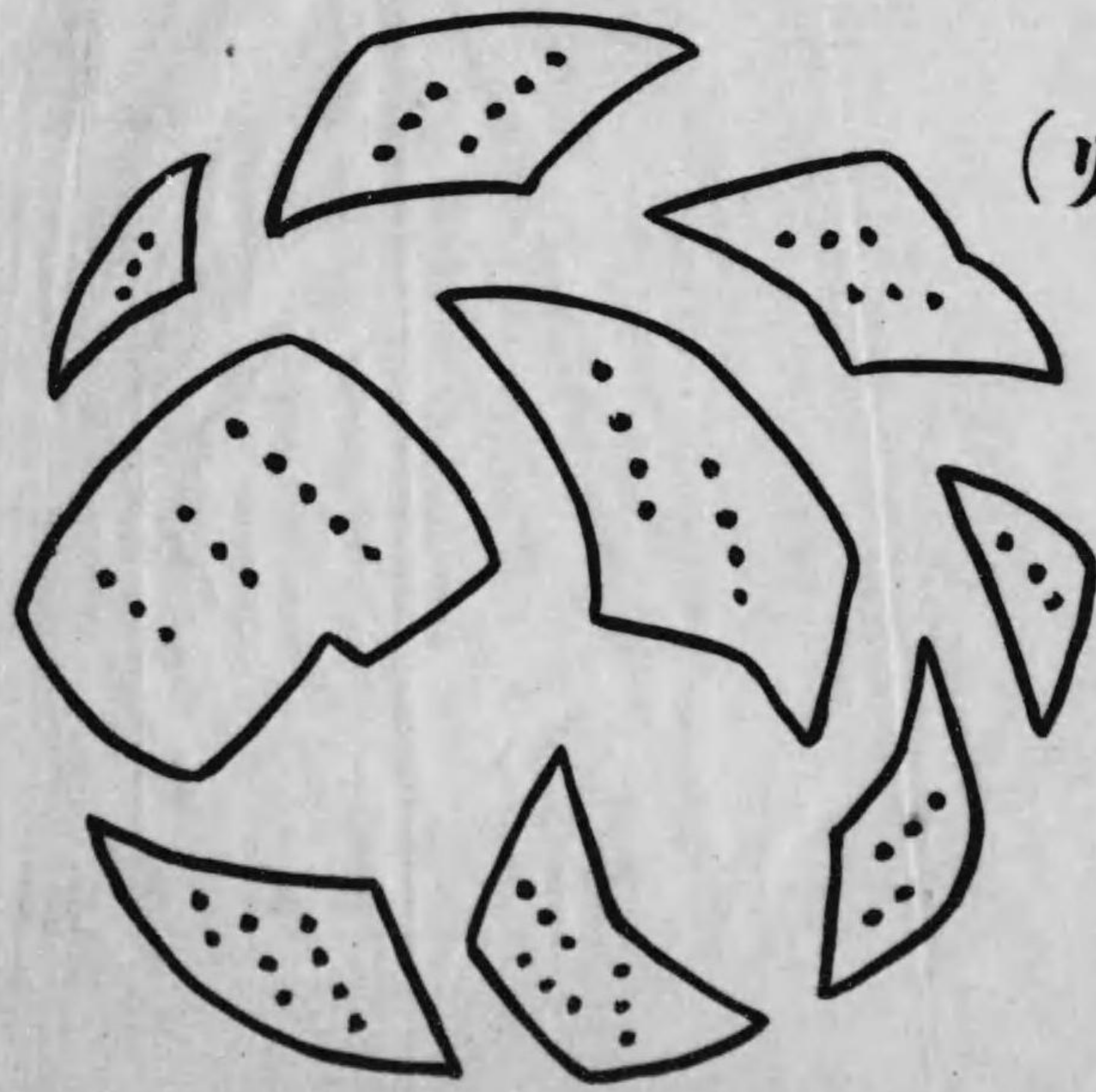
(リ)



(ト)

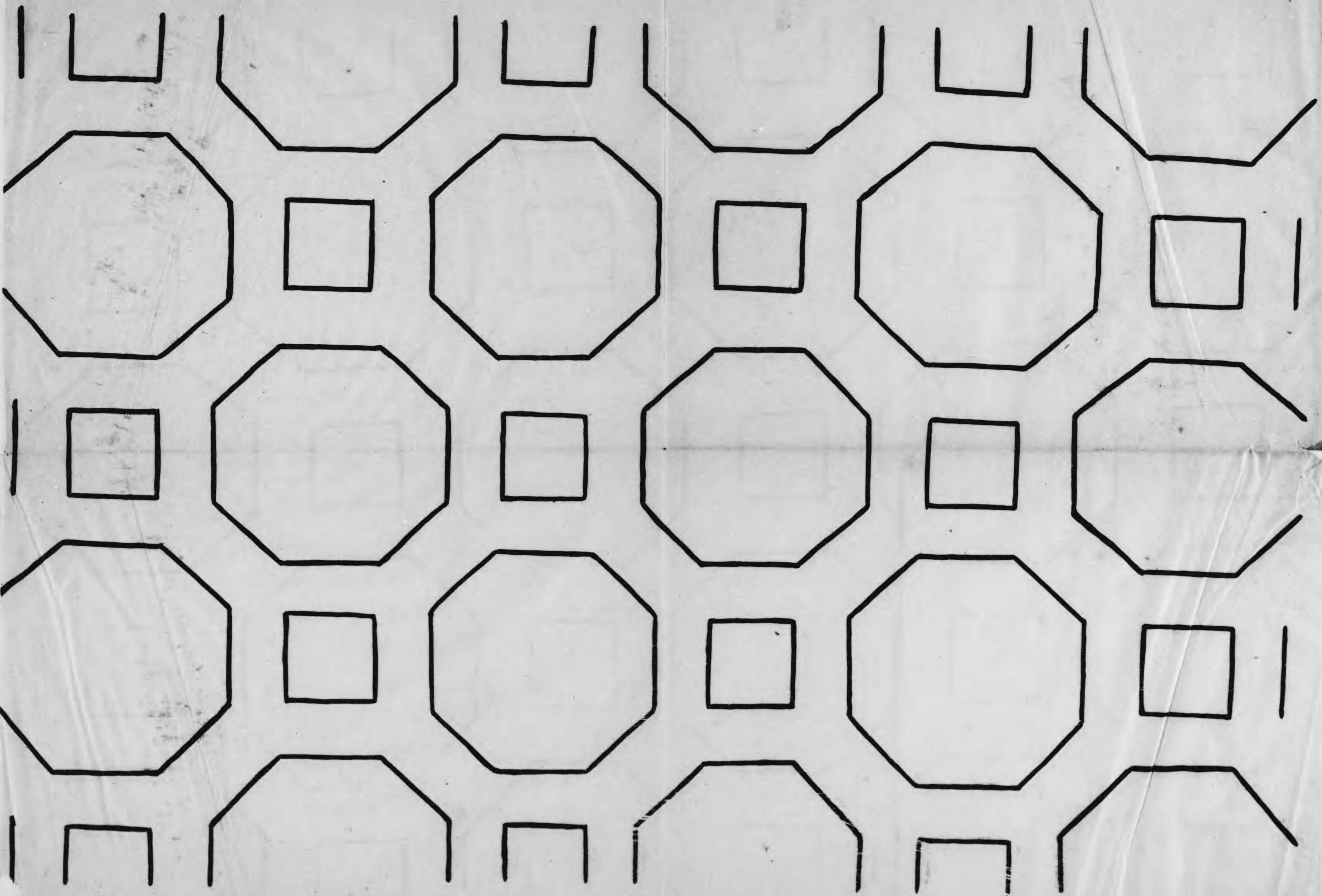


(リ)



(チ)





0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

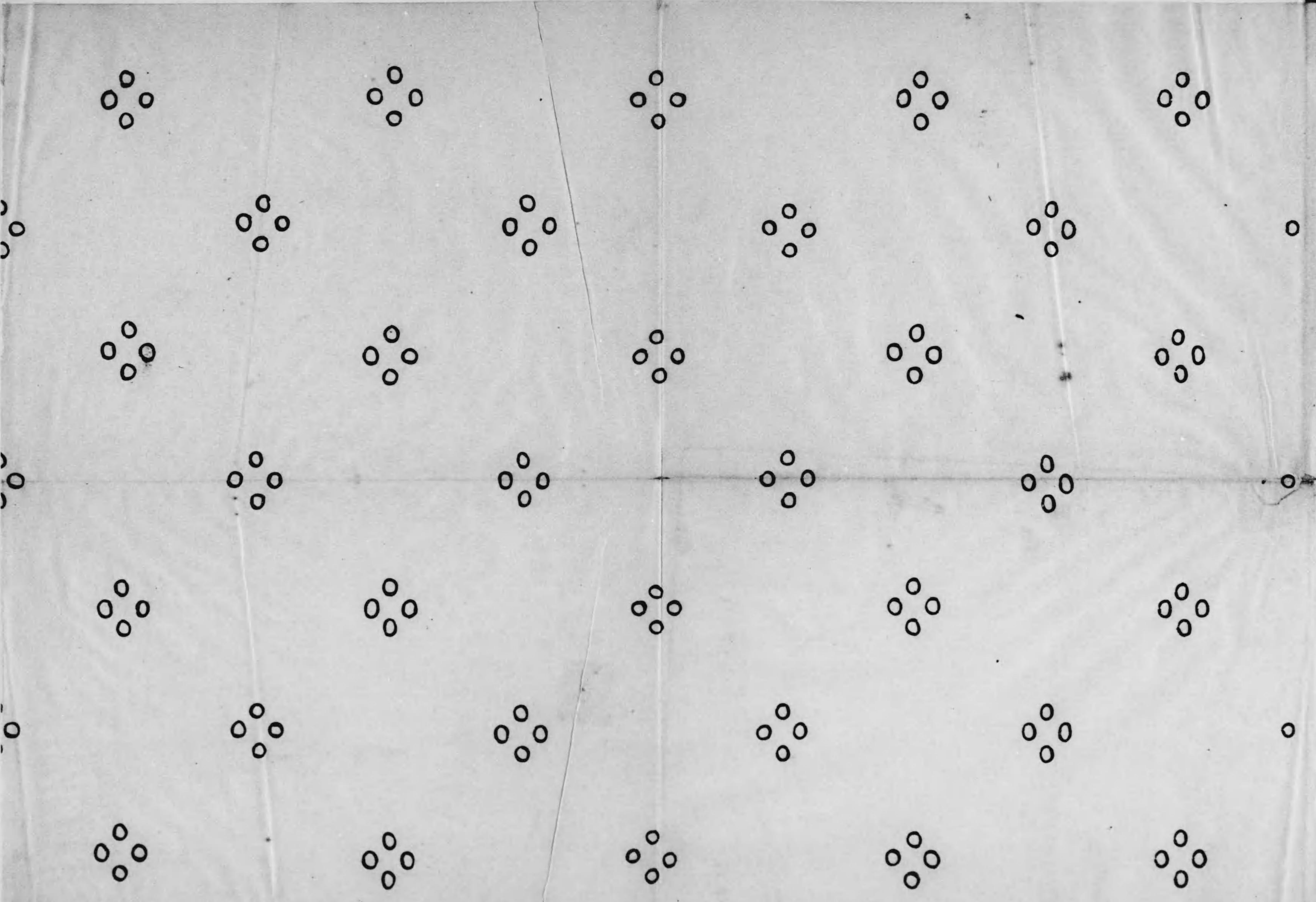
(ホ)

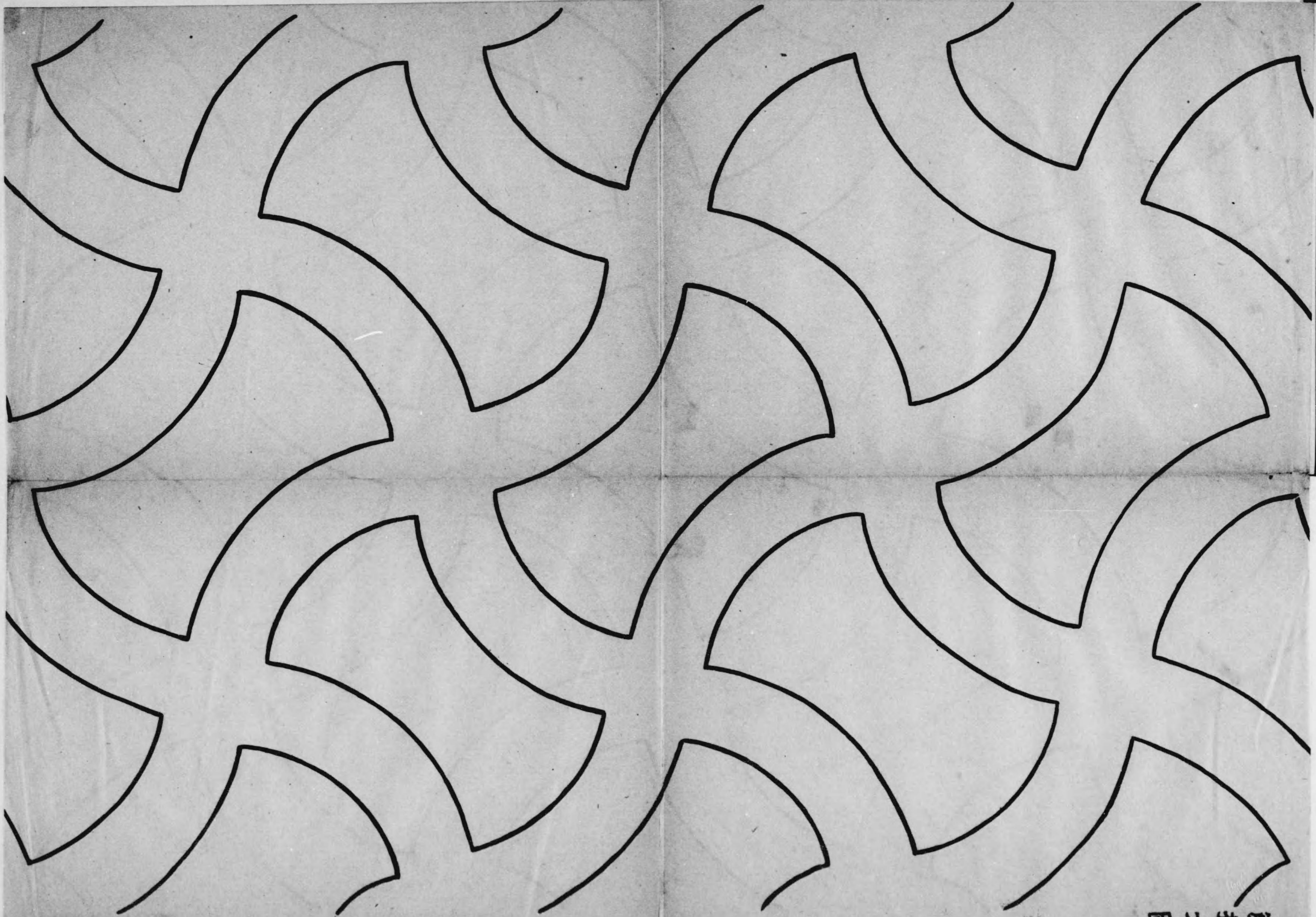
第拾四圖





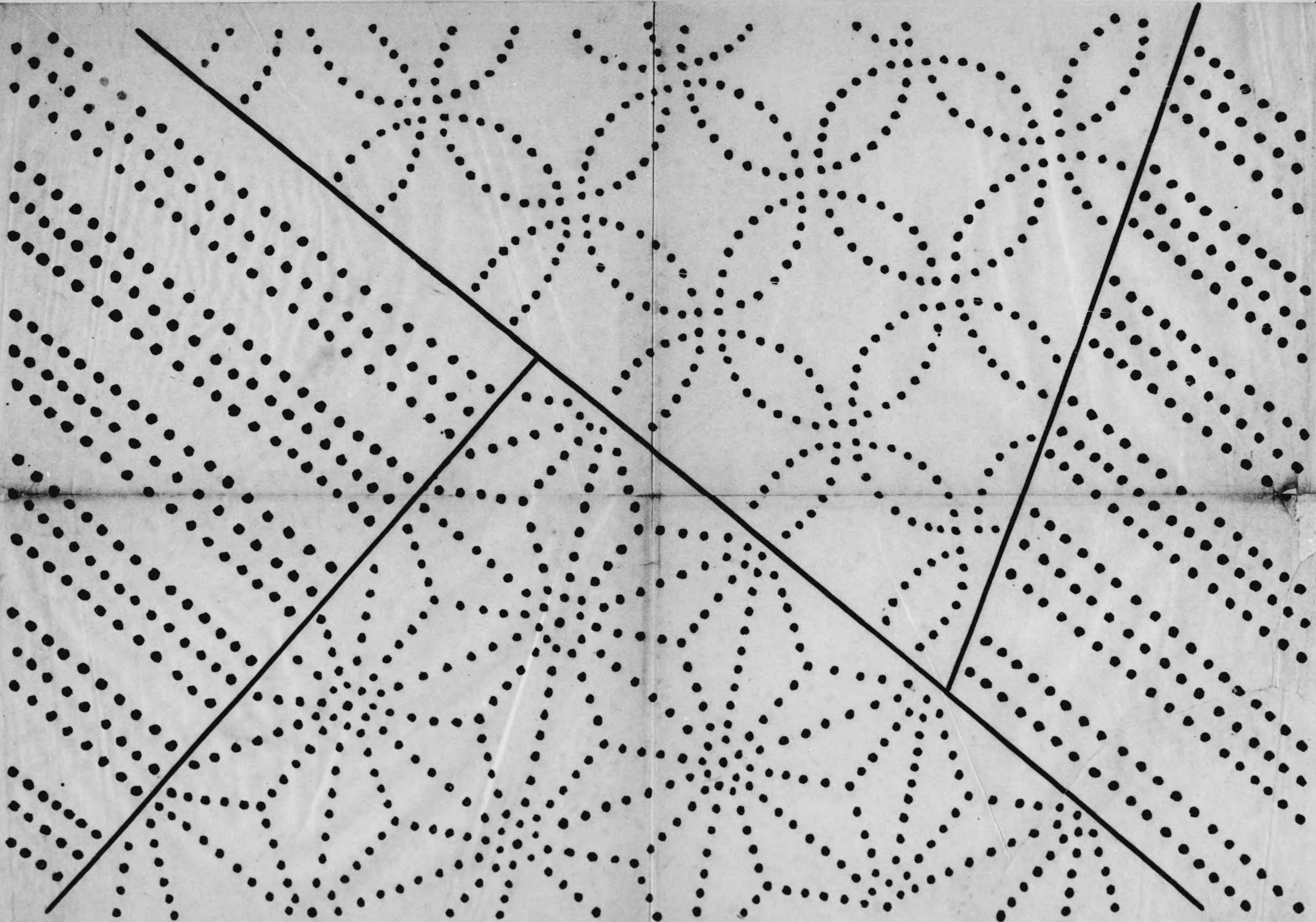
第拾五圖



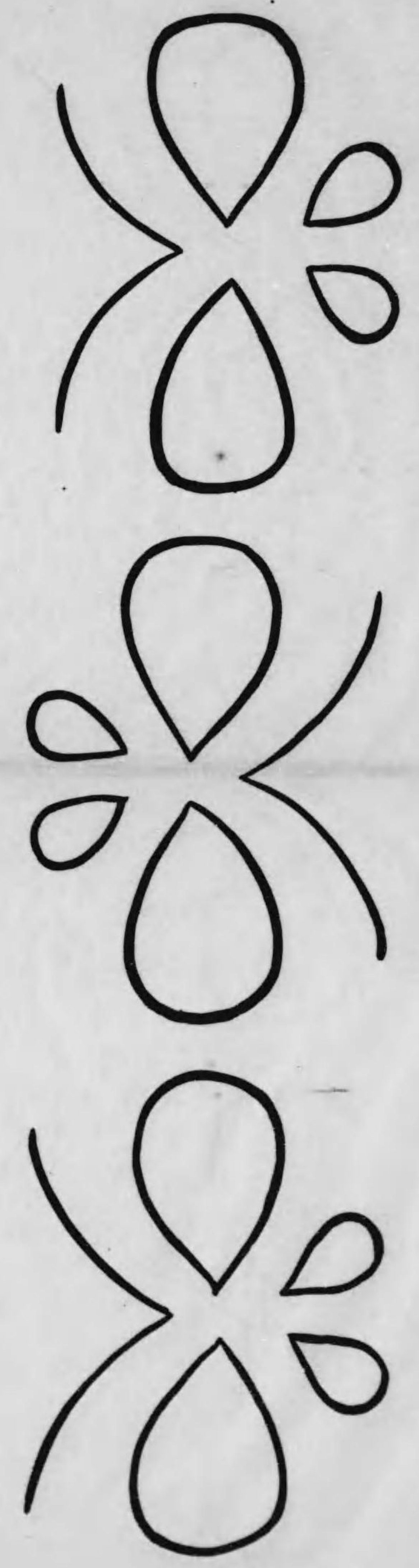
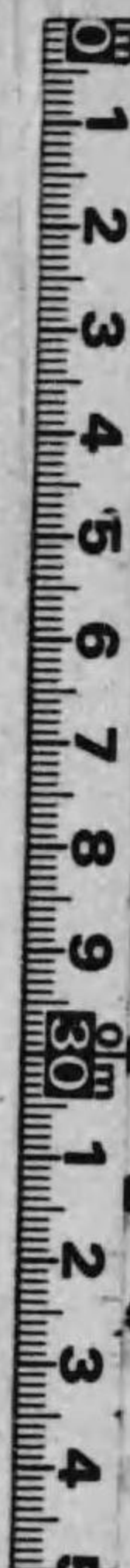


第拾六圖

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

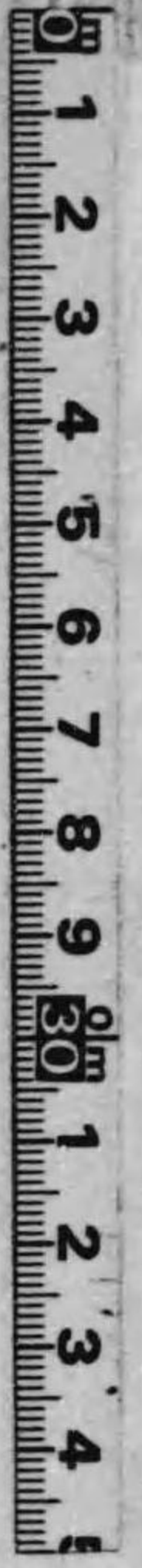


第七拾圖

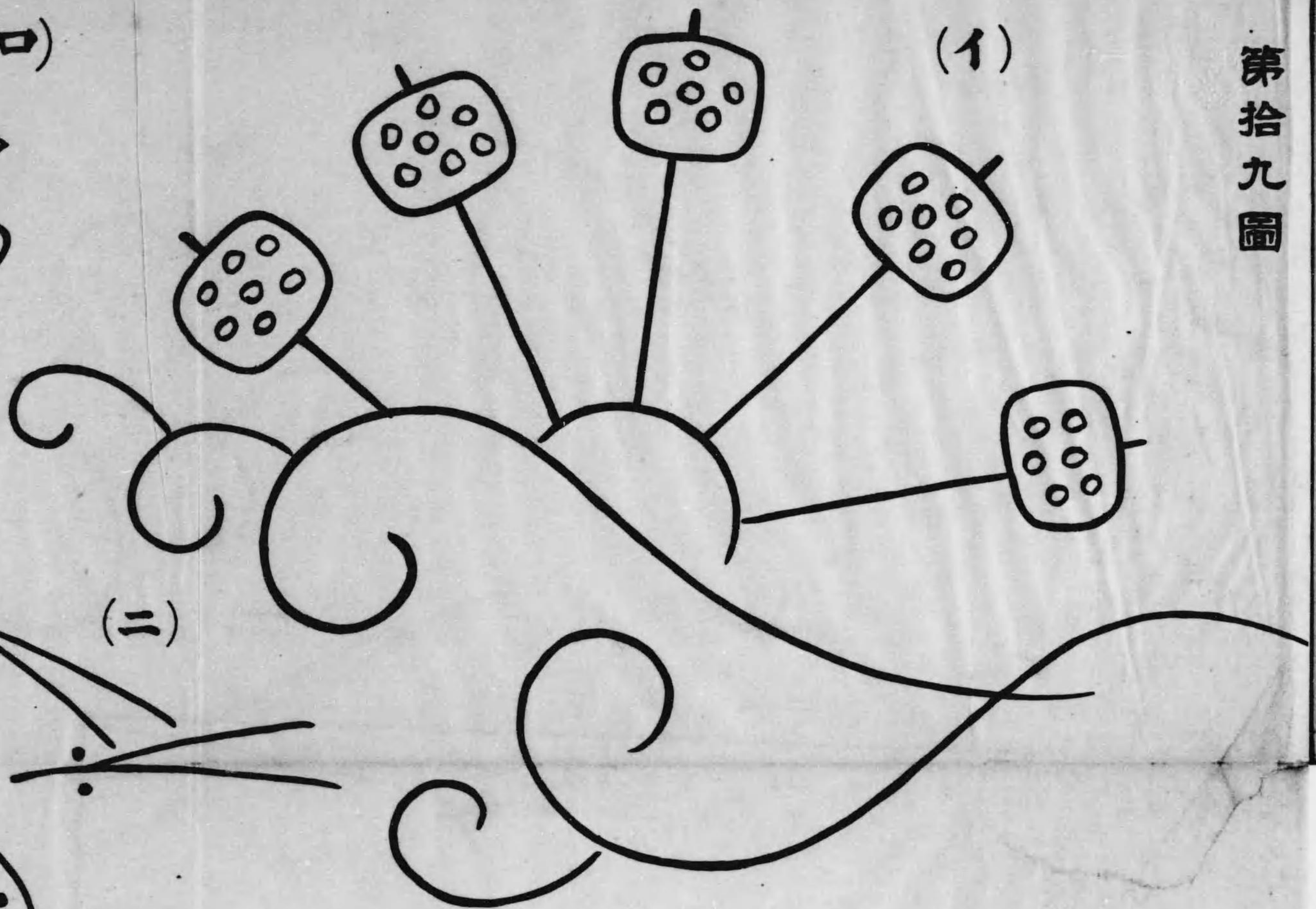


4

4



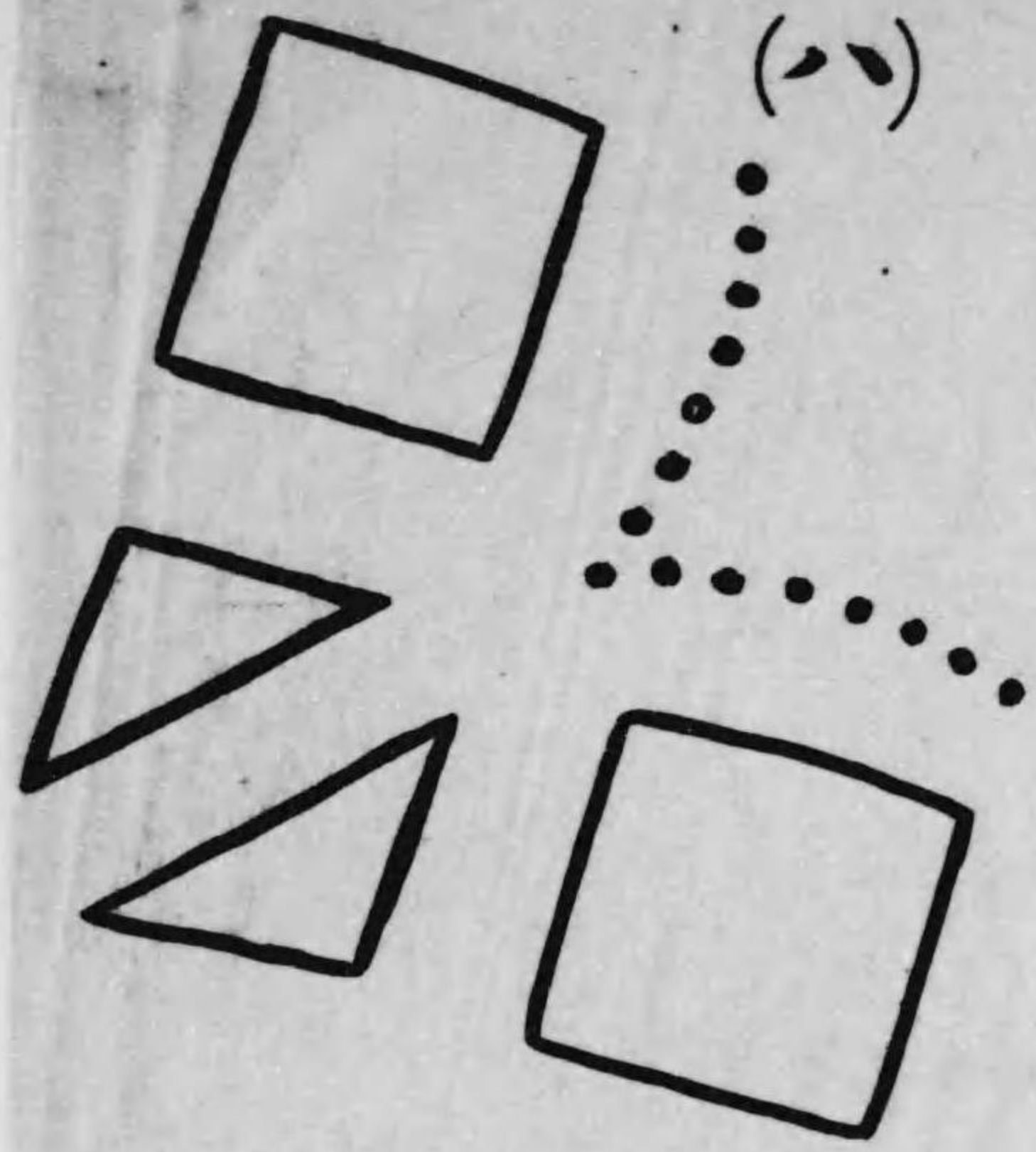
(イ)



(ロ)



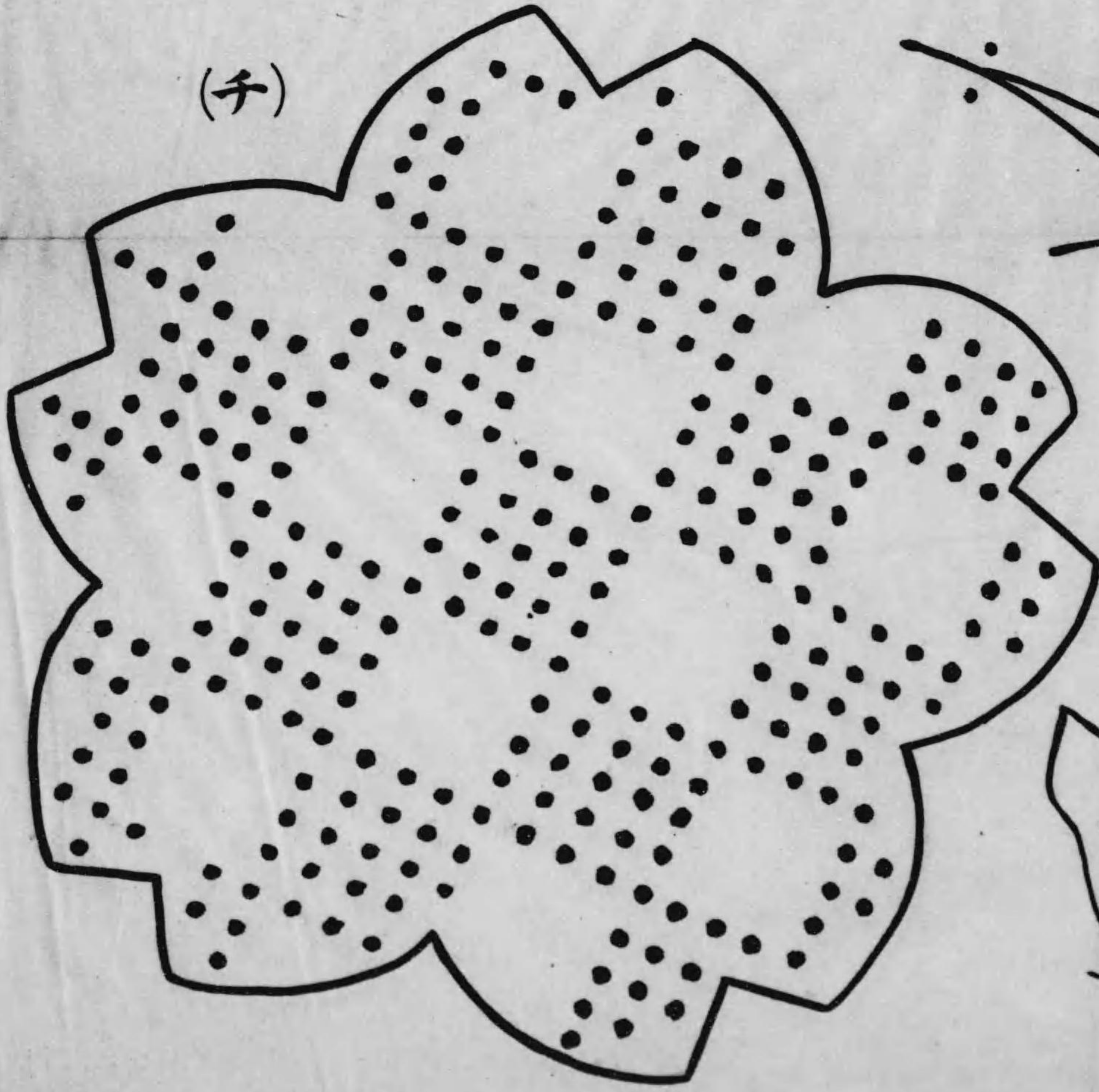
(ハ)



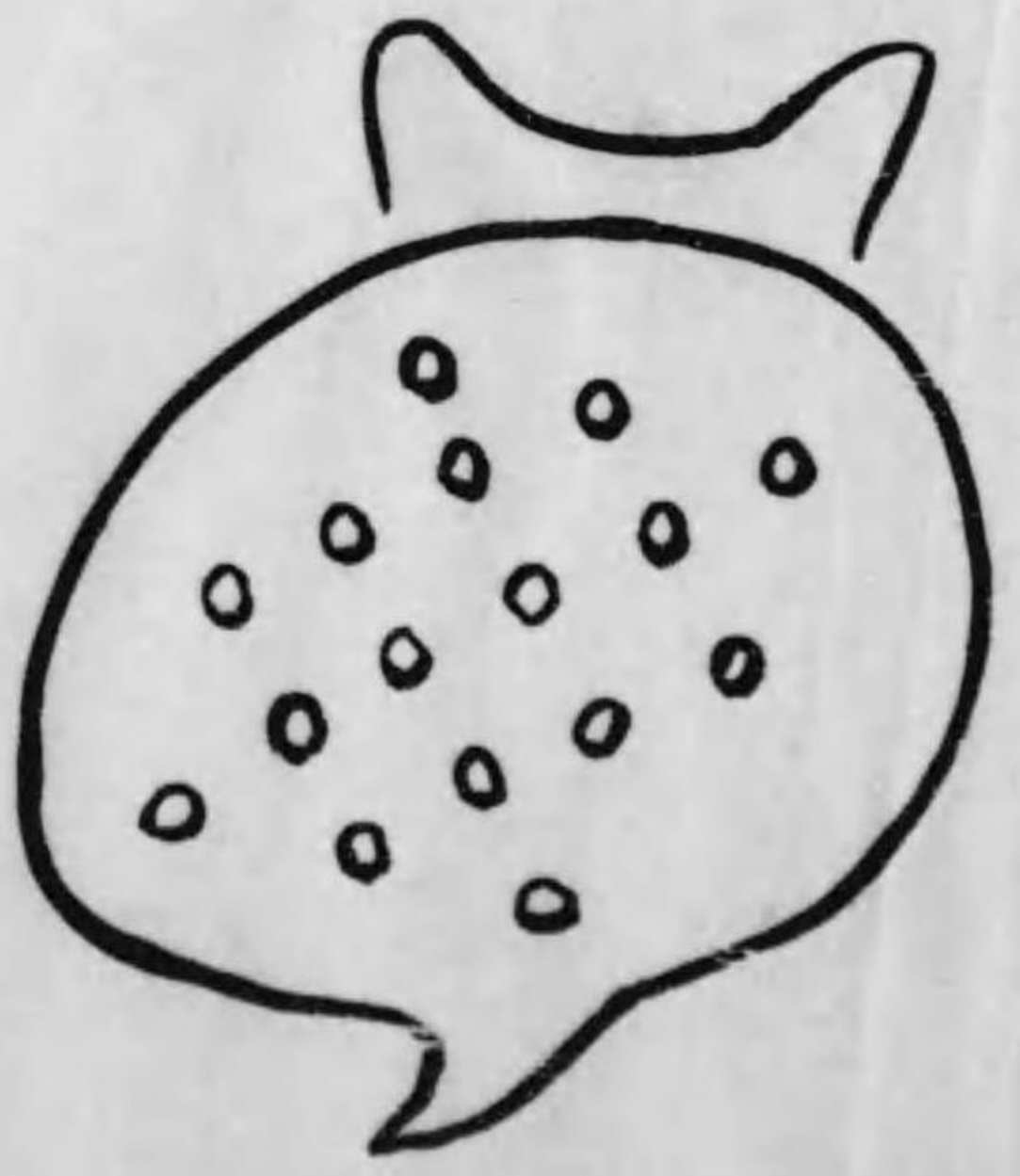
(ニ)



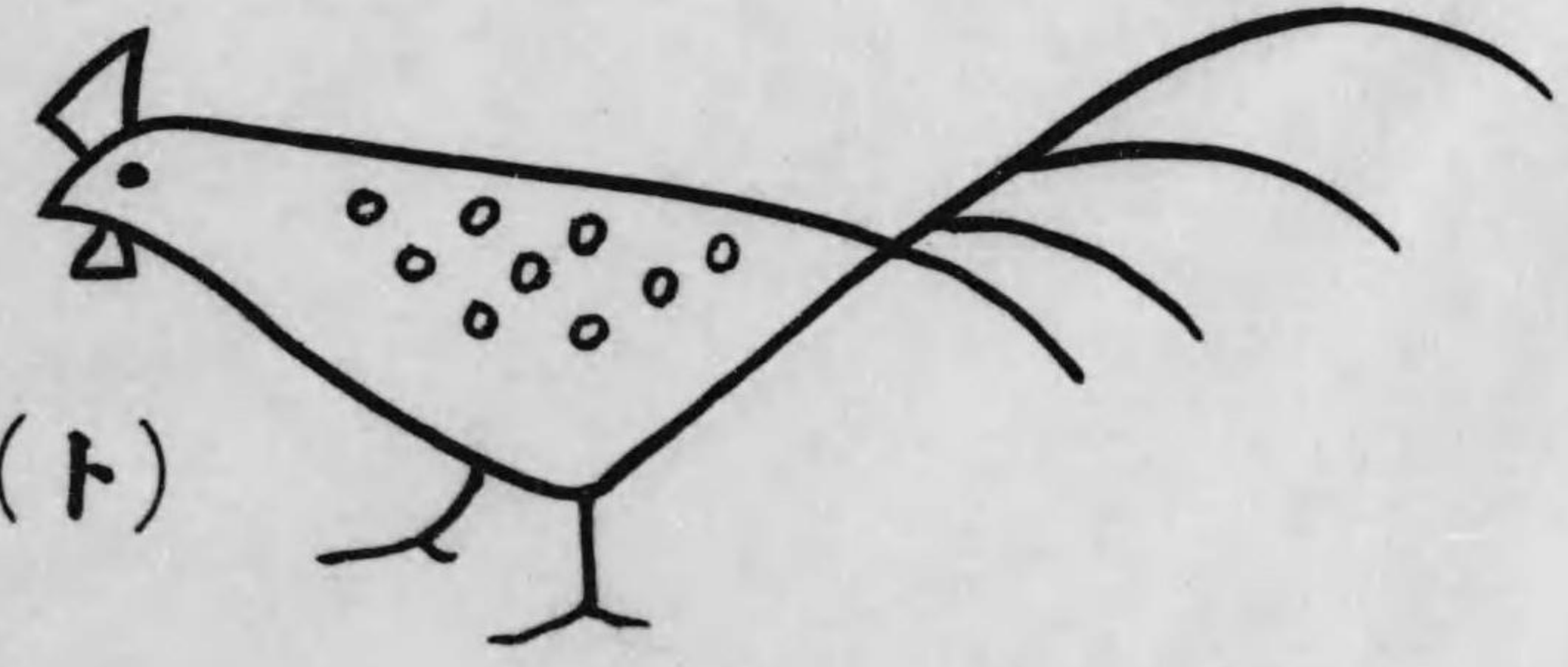
(チ)



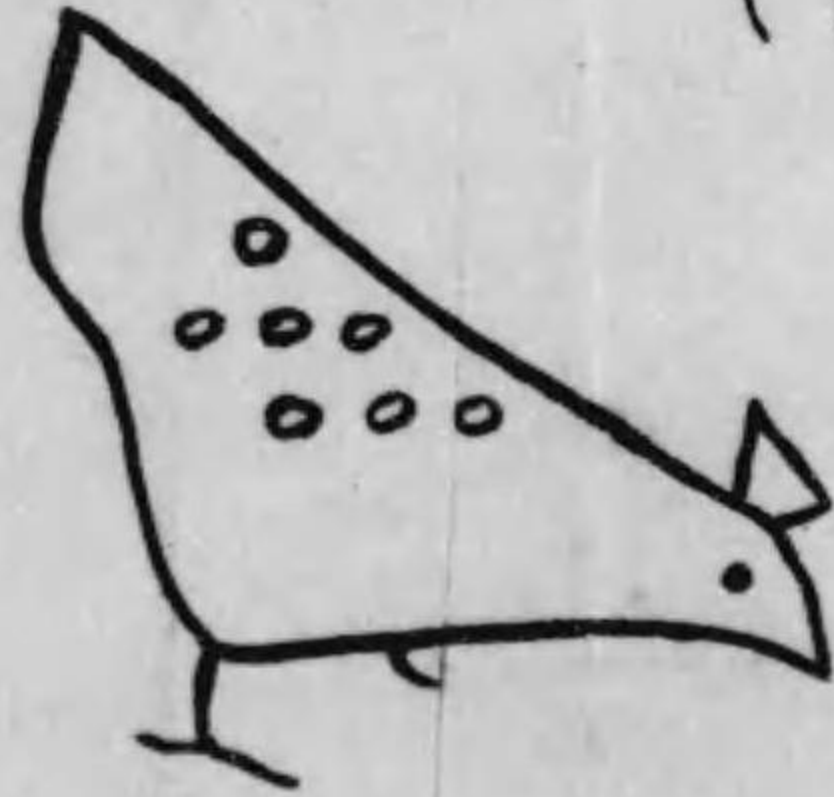
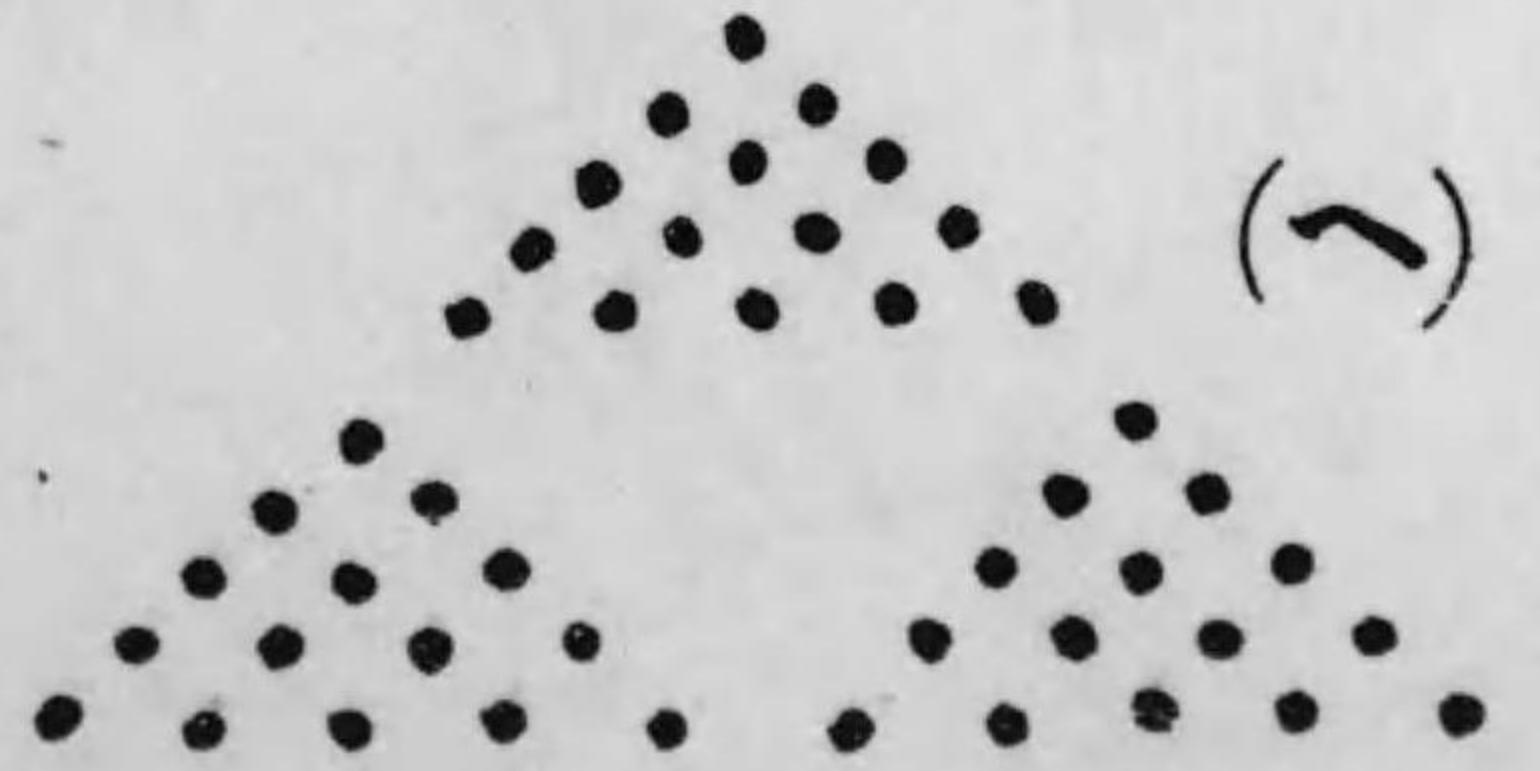
(ホ)

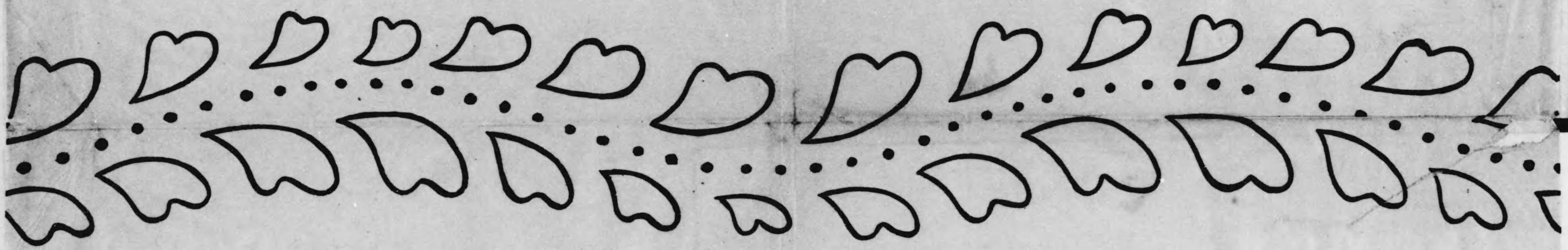
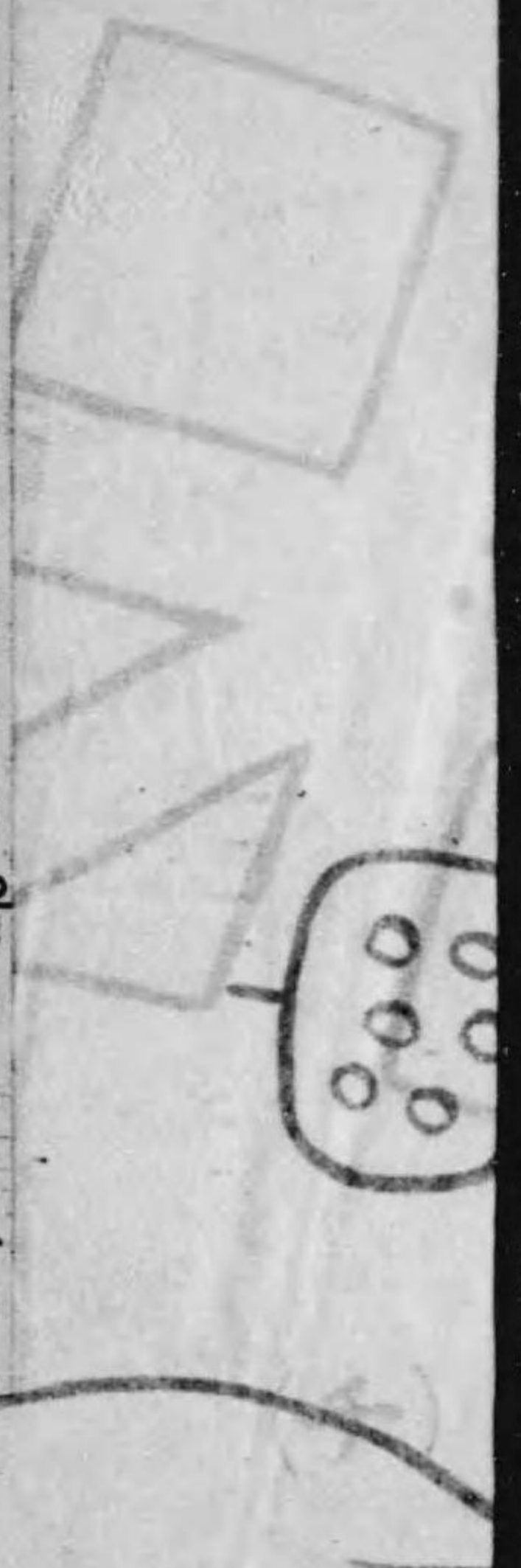


(ト)



(リ)

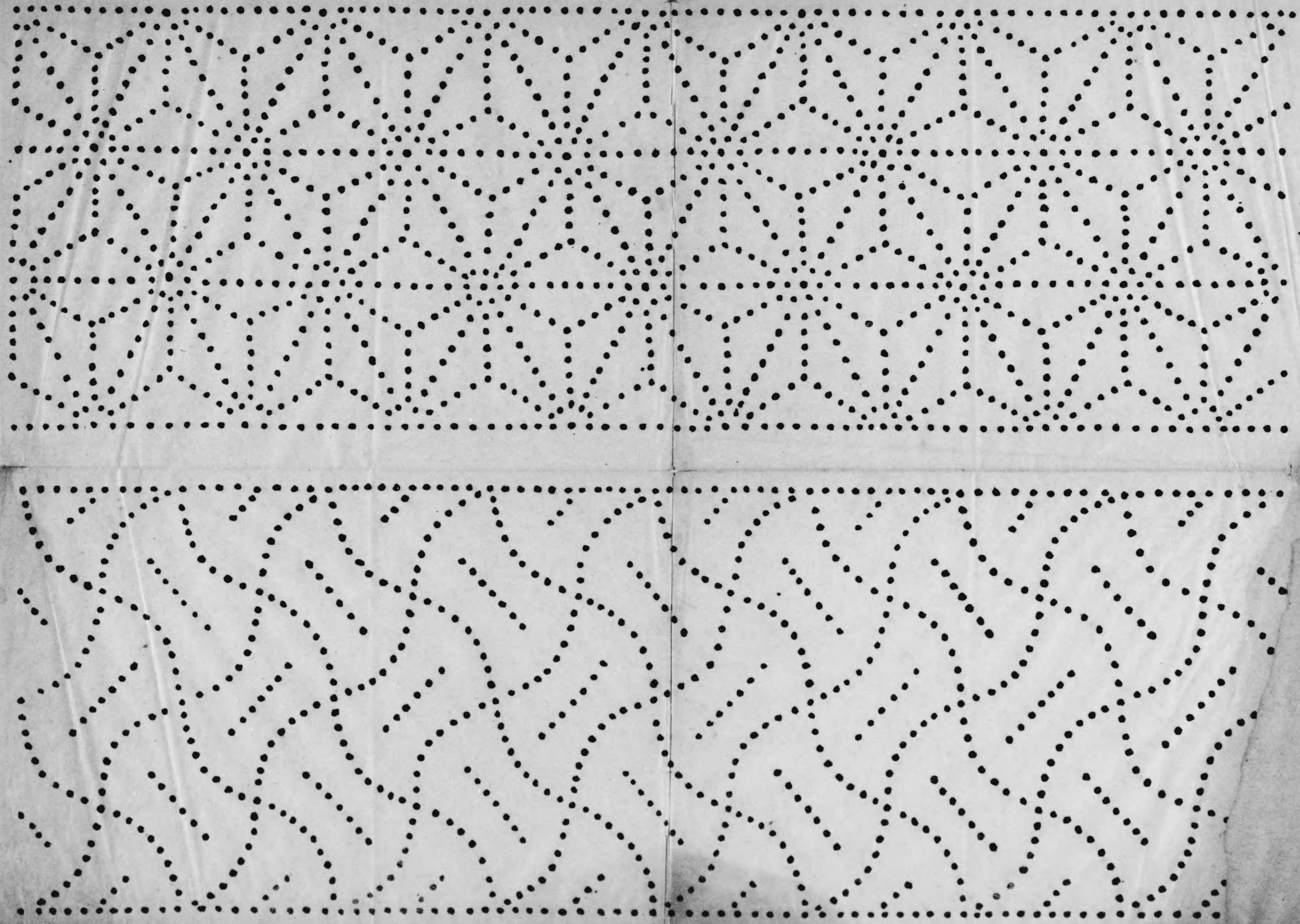




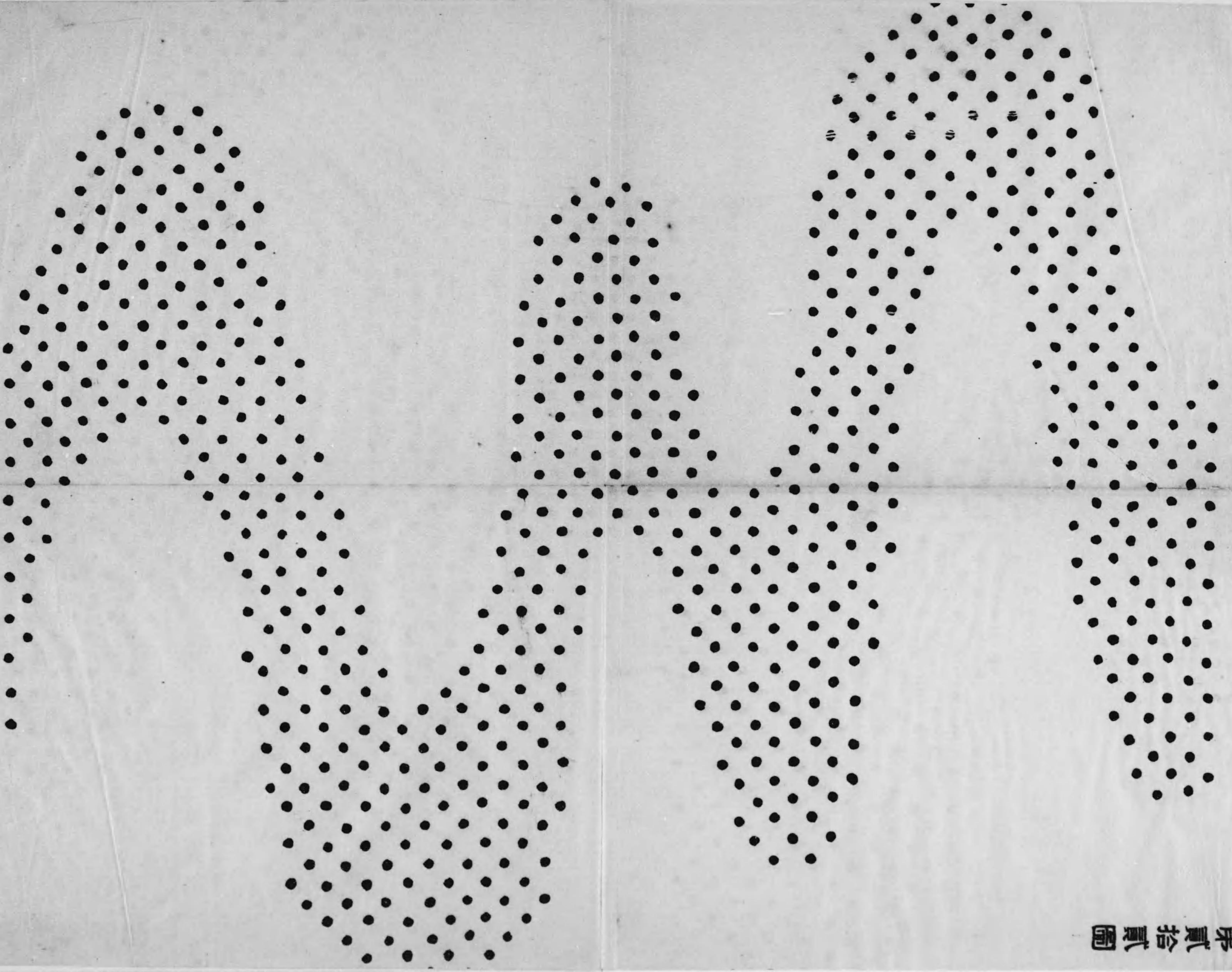
第貳拾圖



(口)



拾壹圖

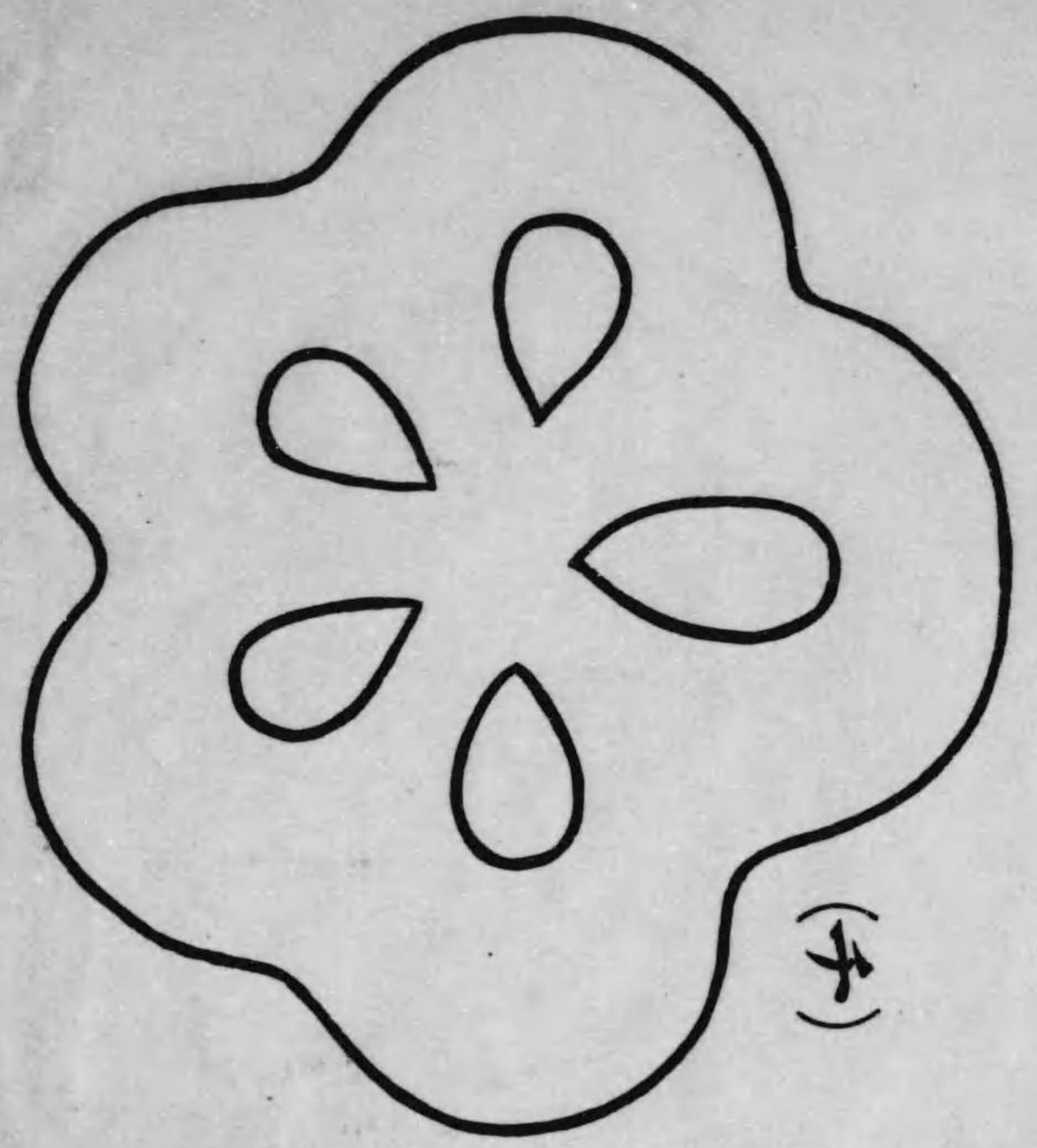
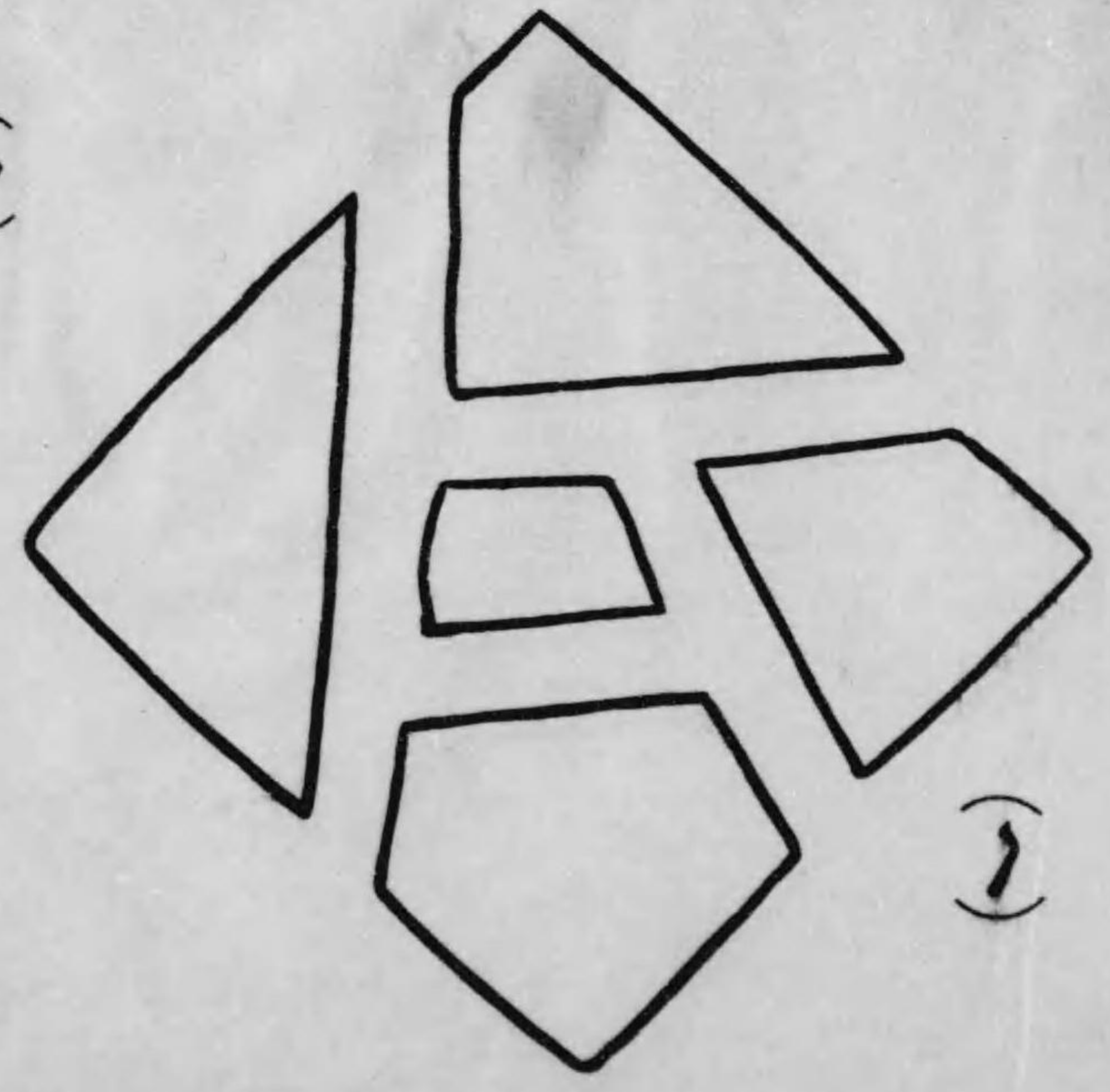
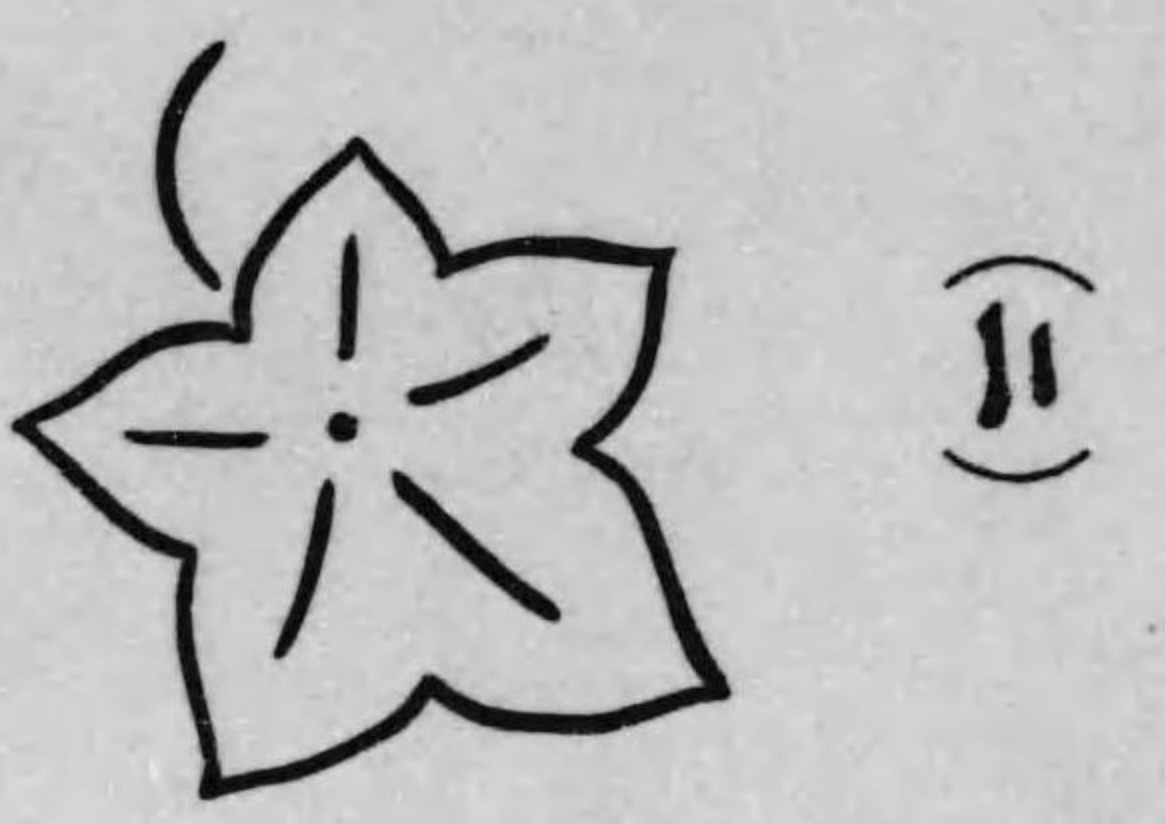
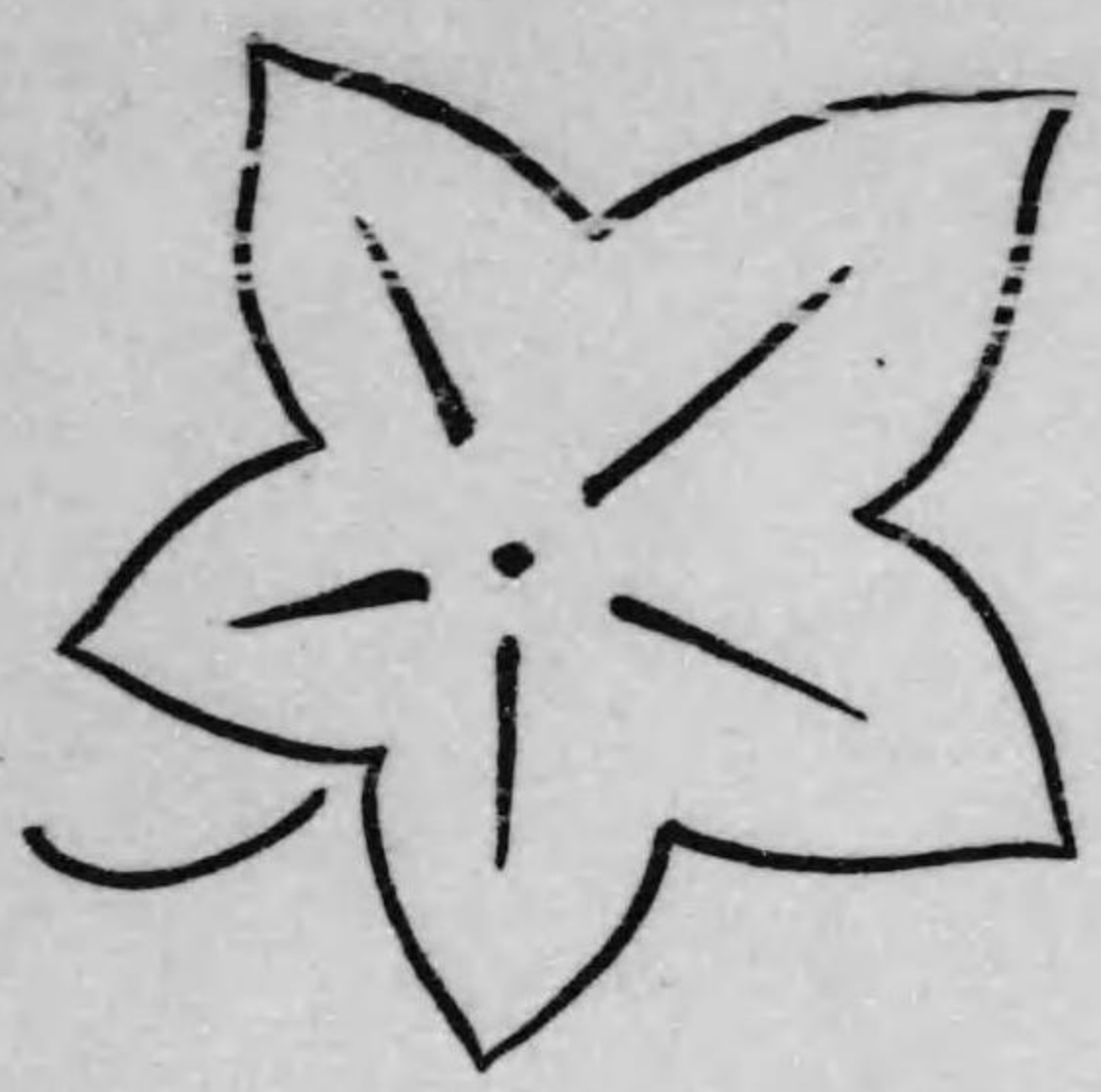
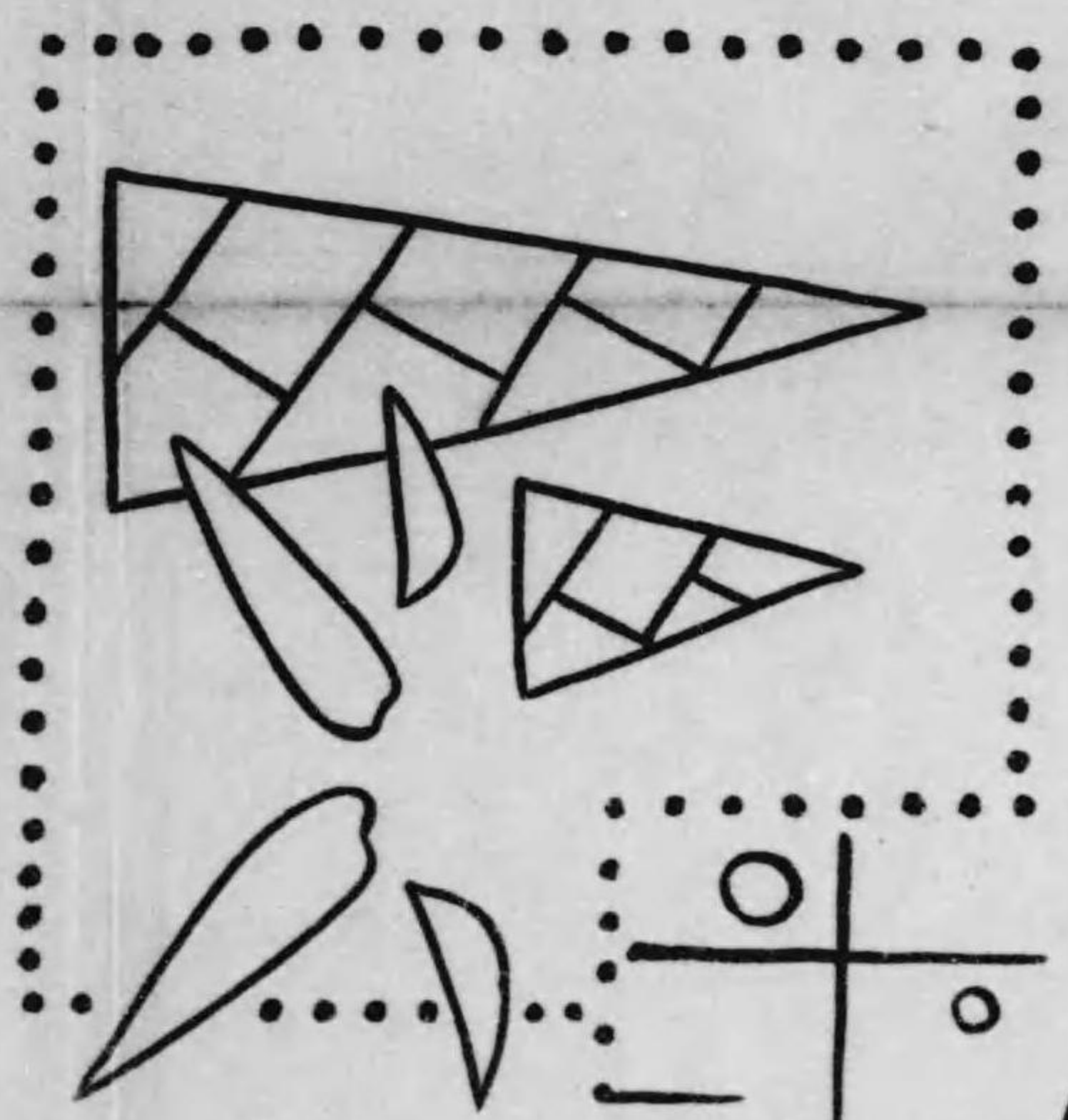
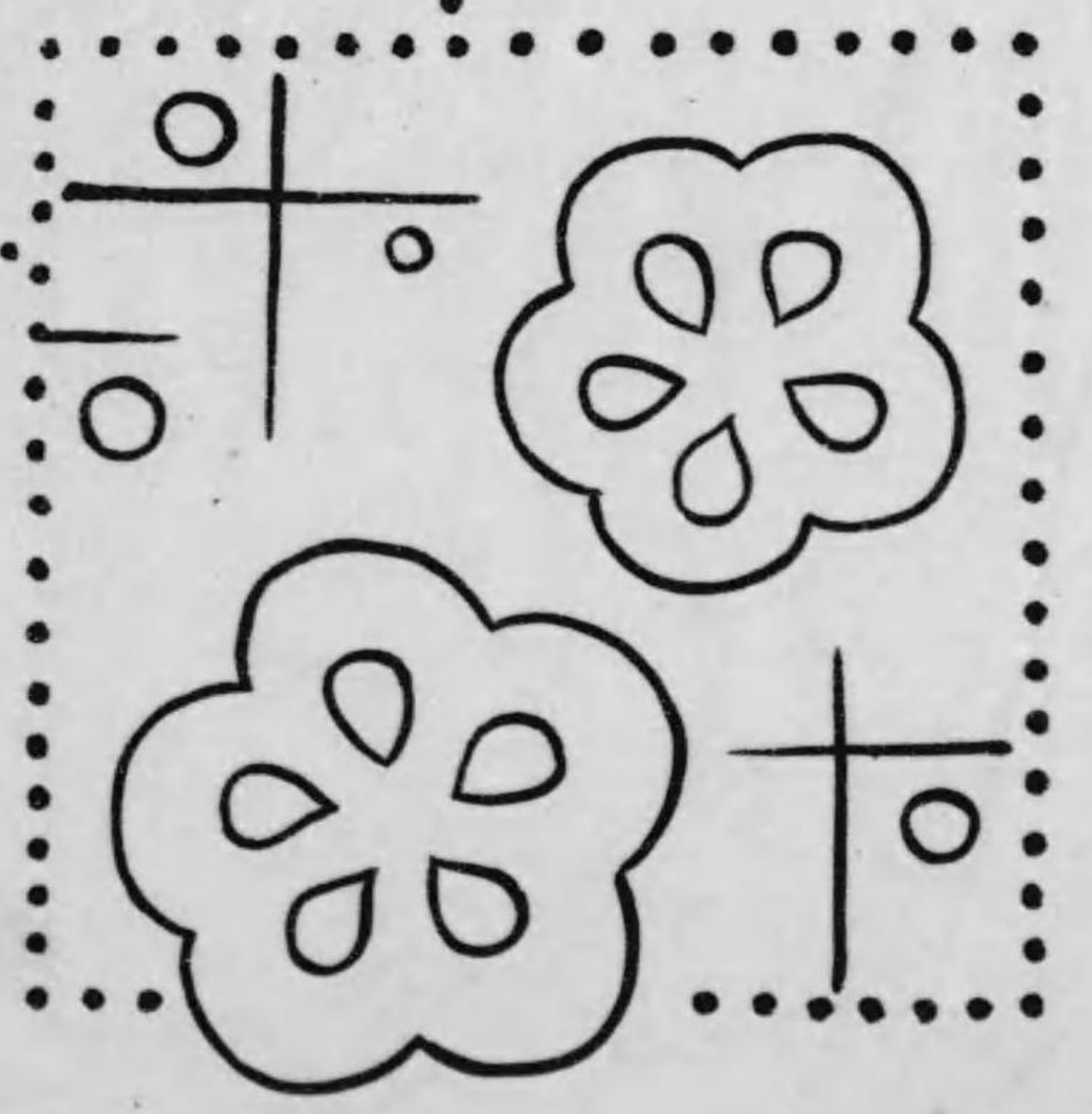
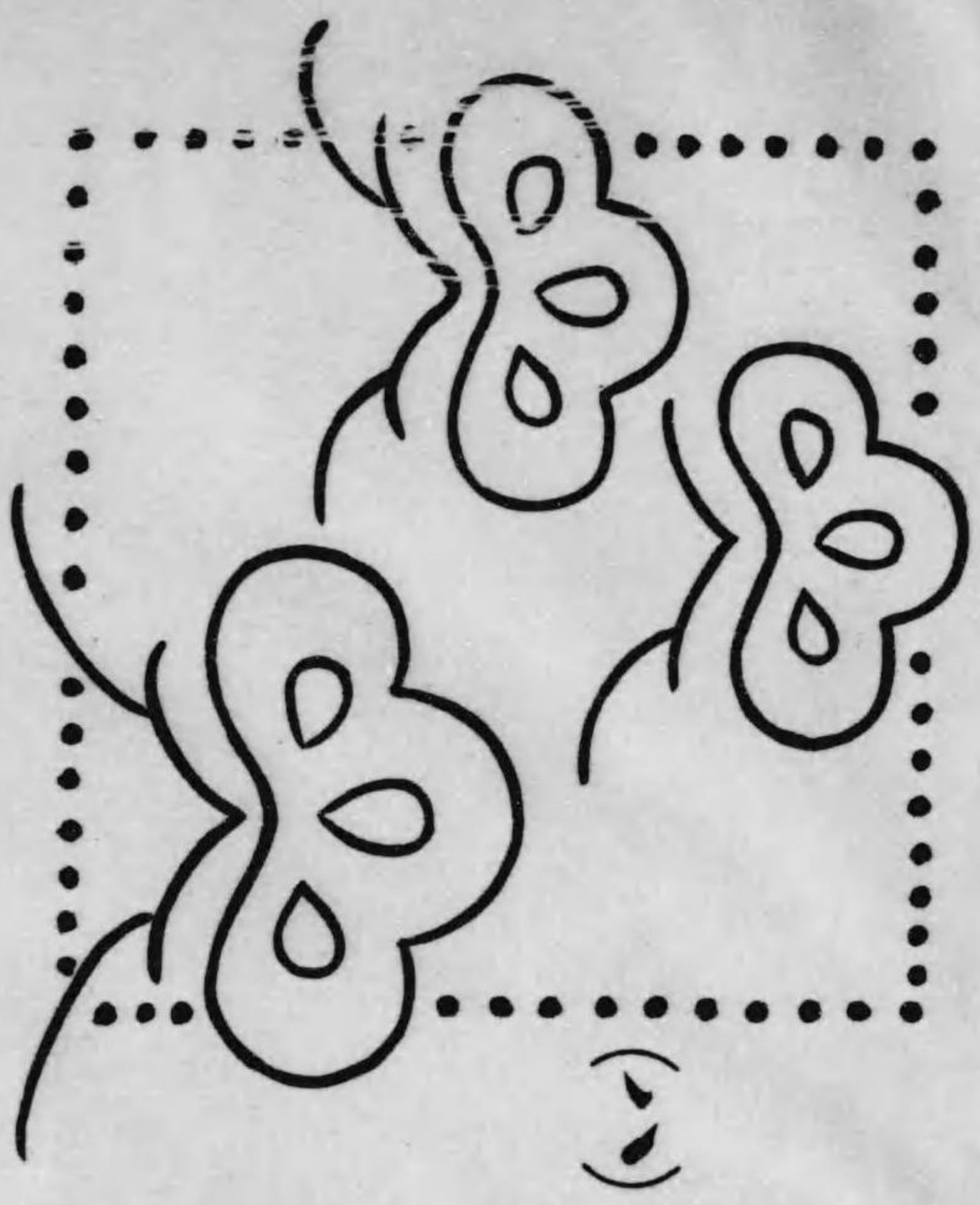
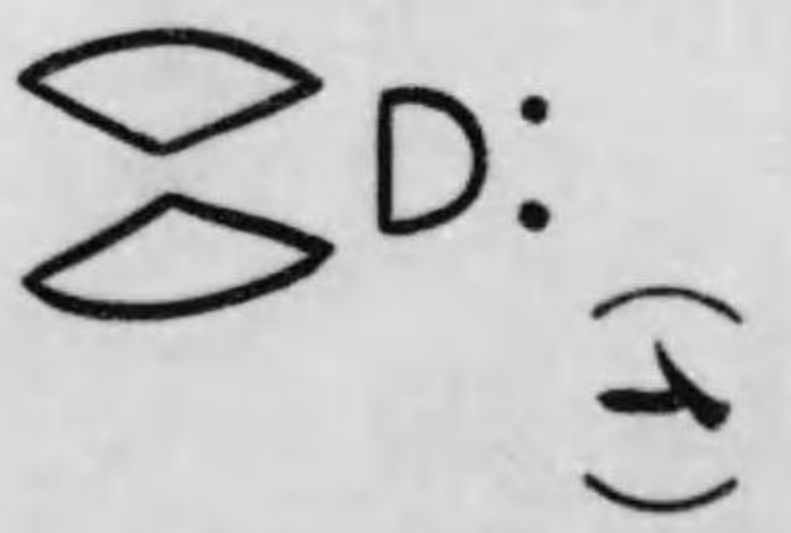


第貳拾貳圖



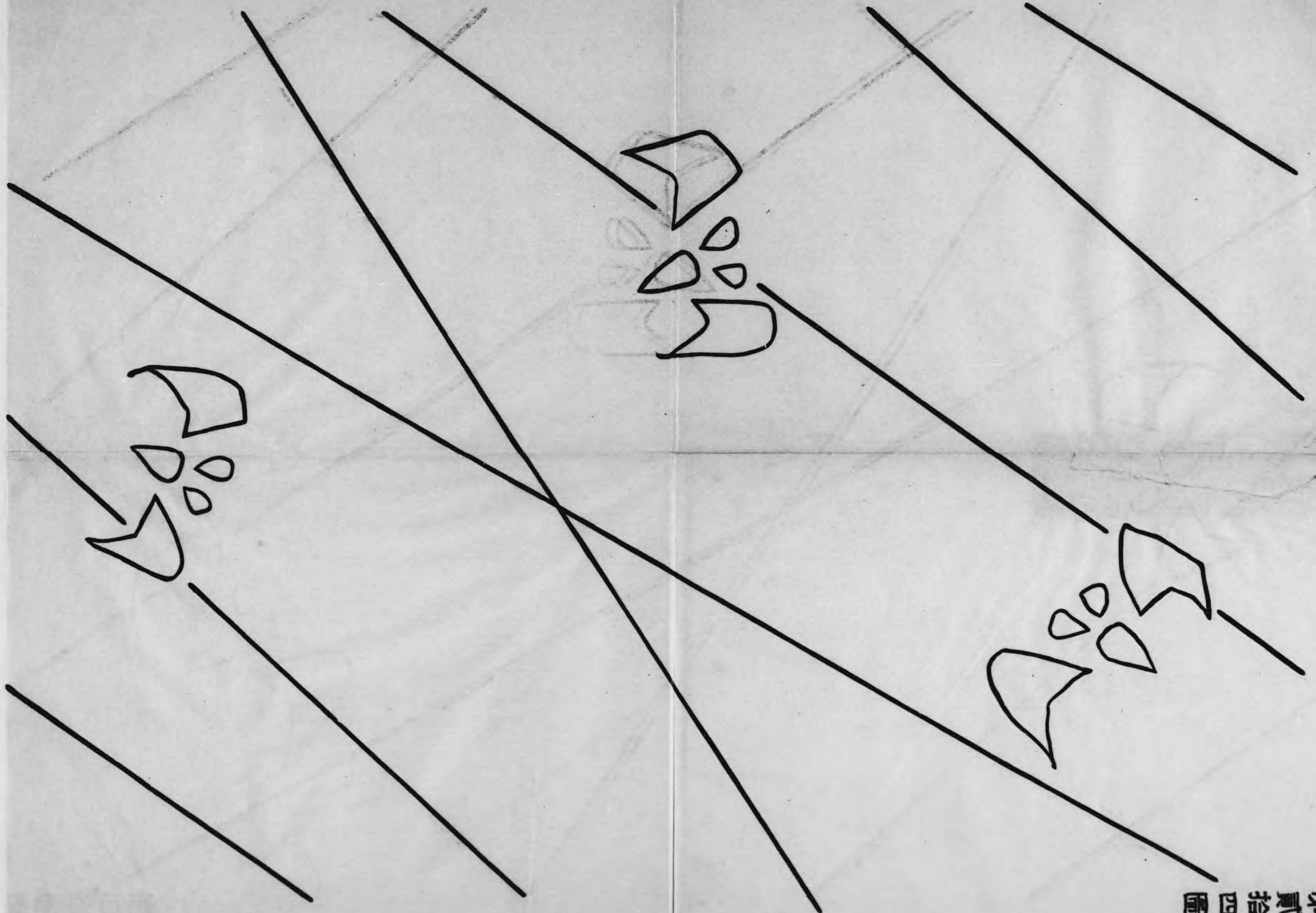


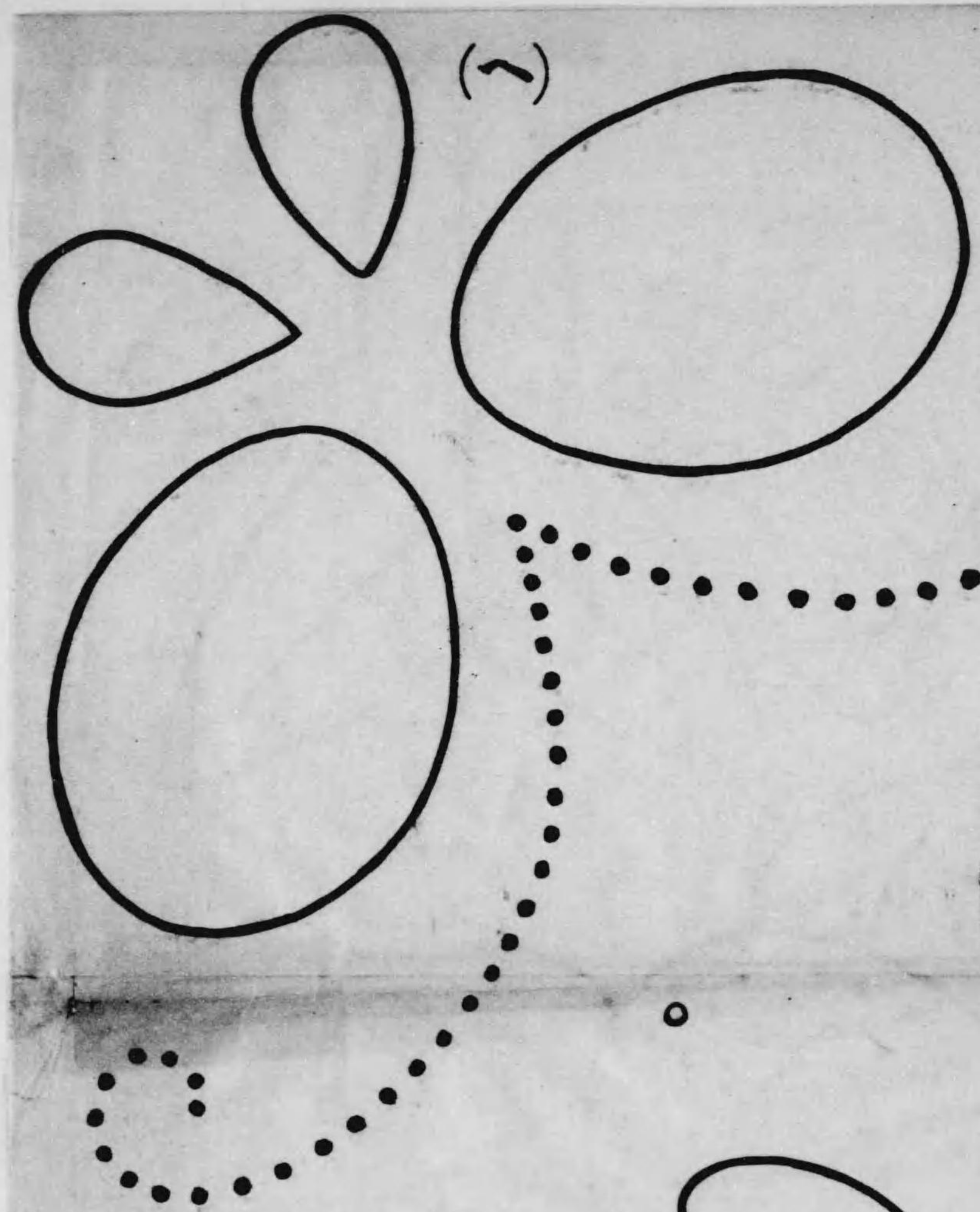
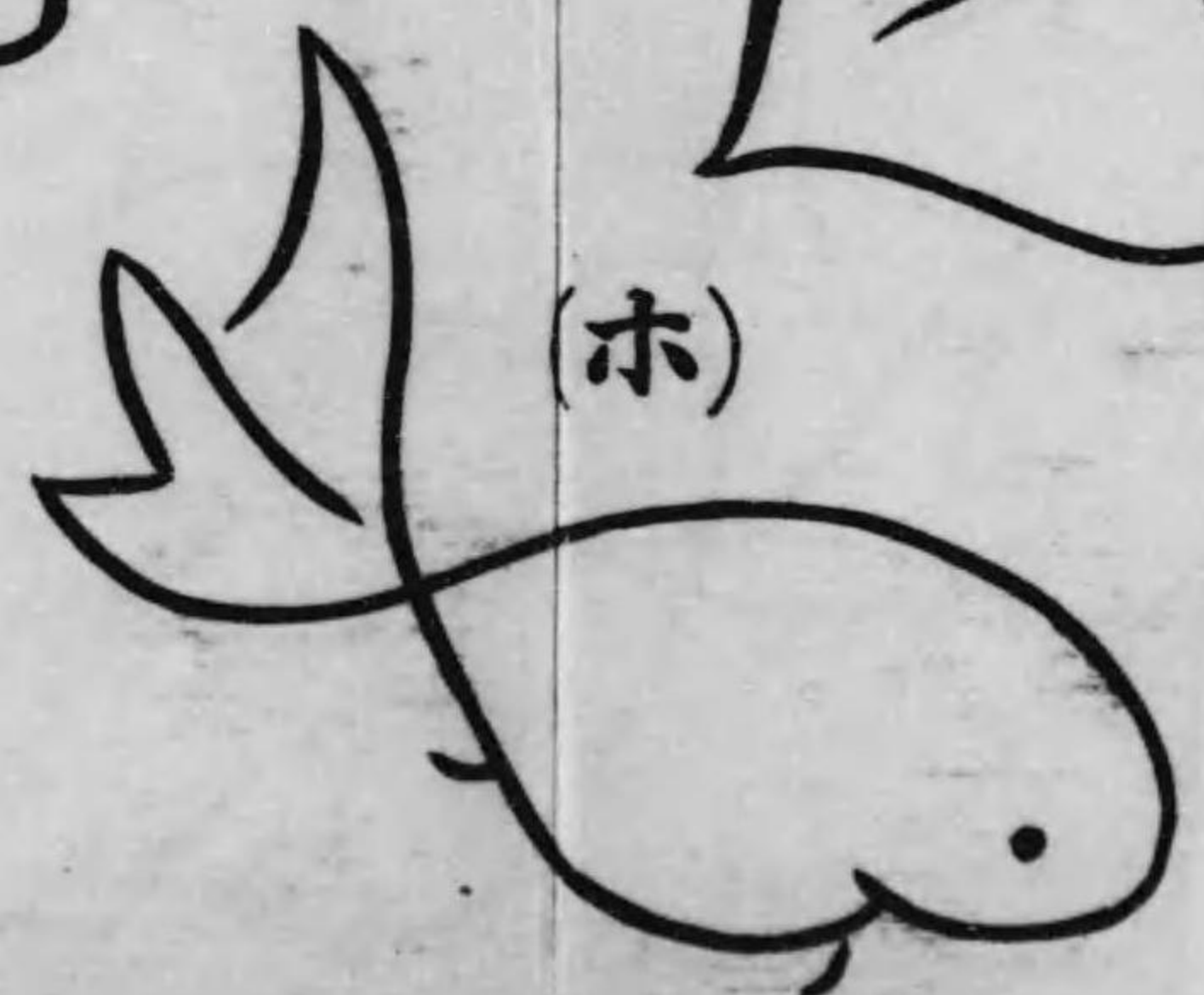
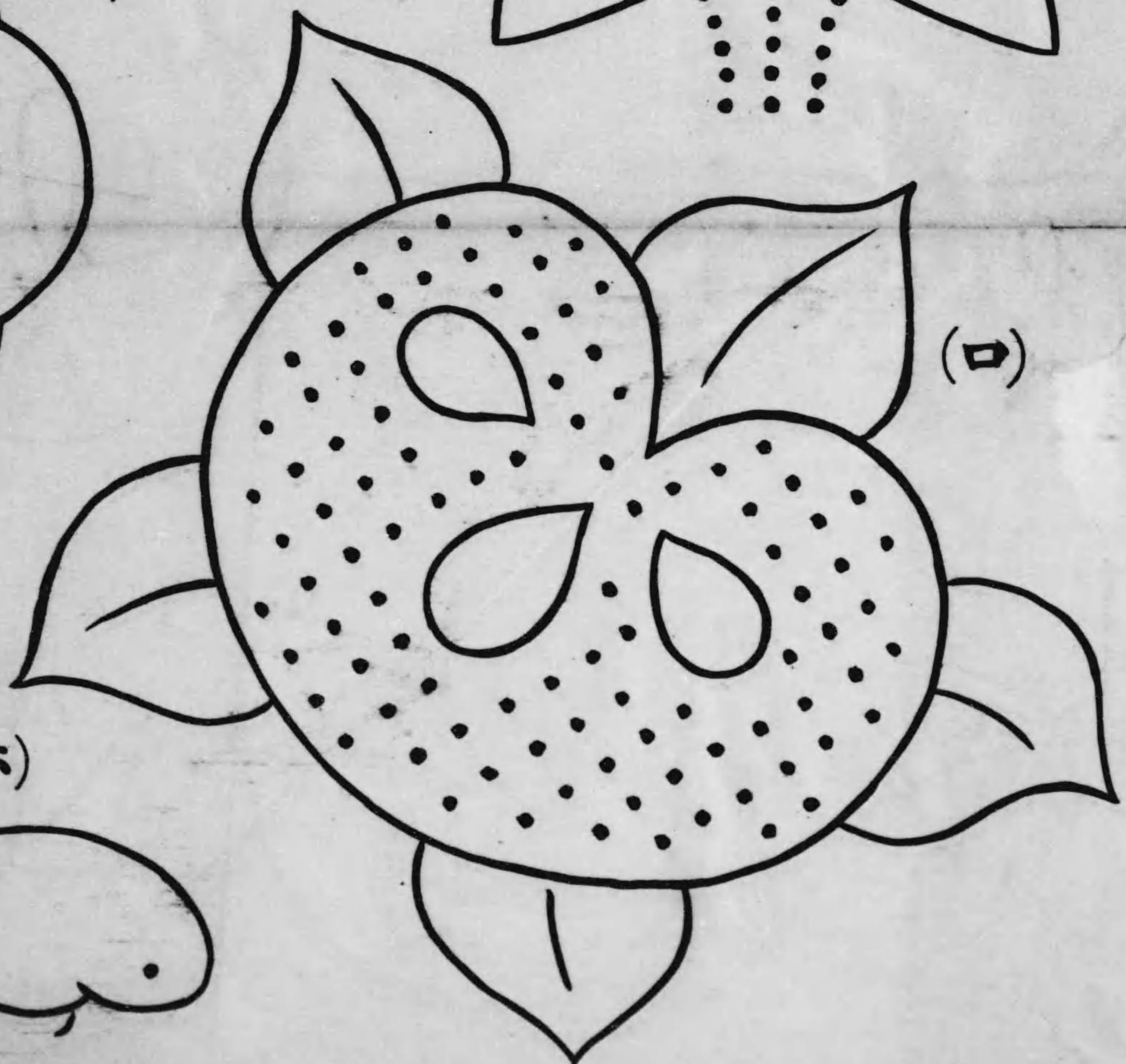
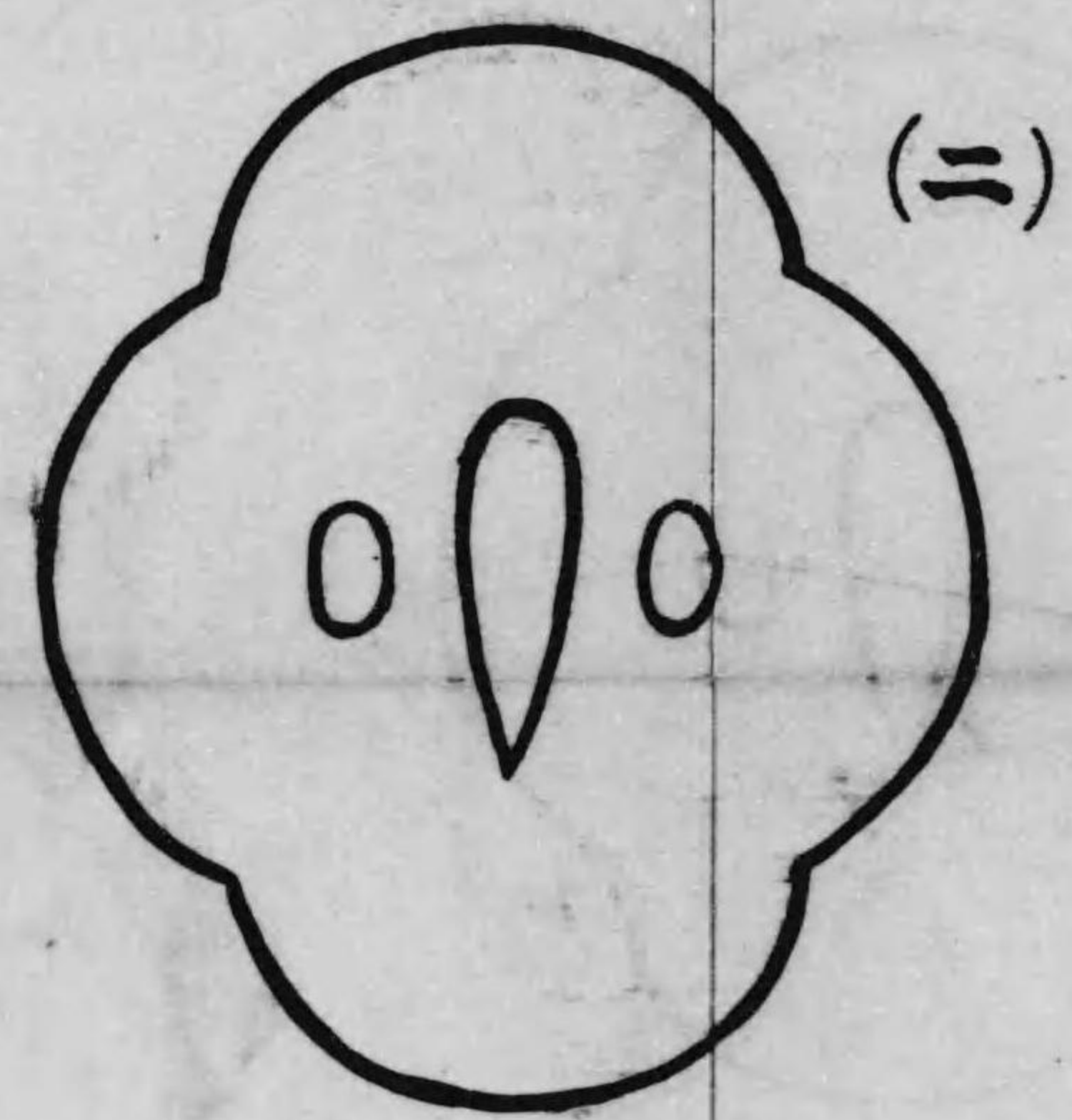
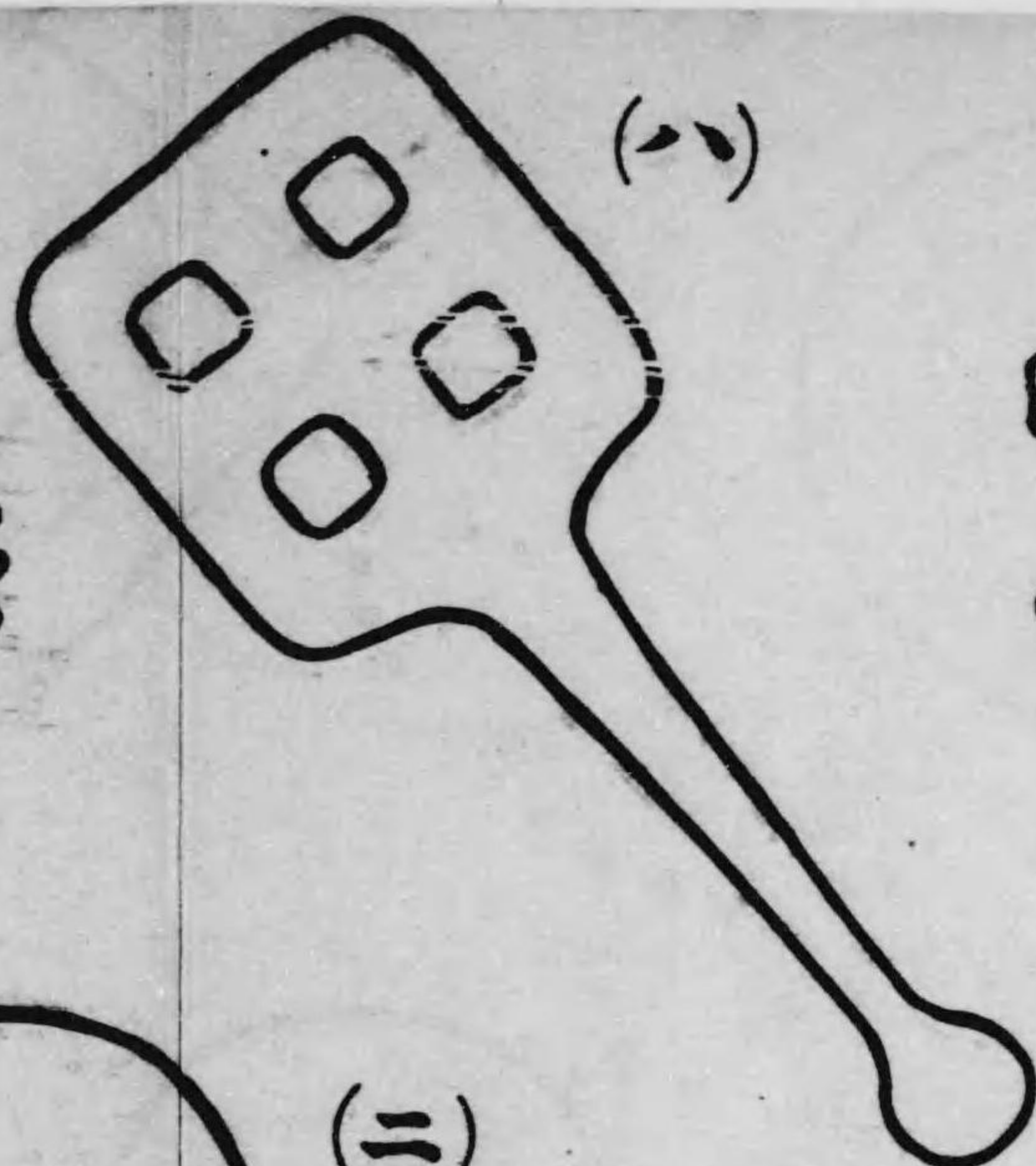
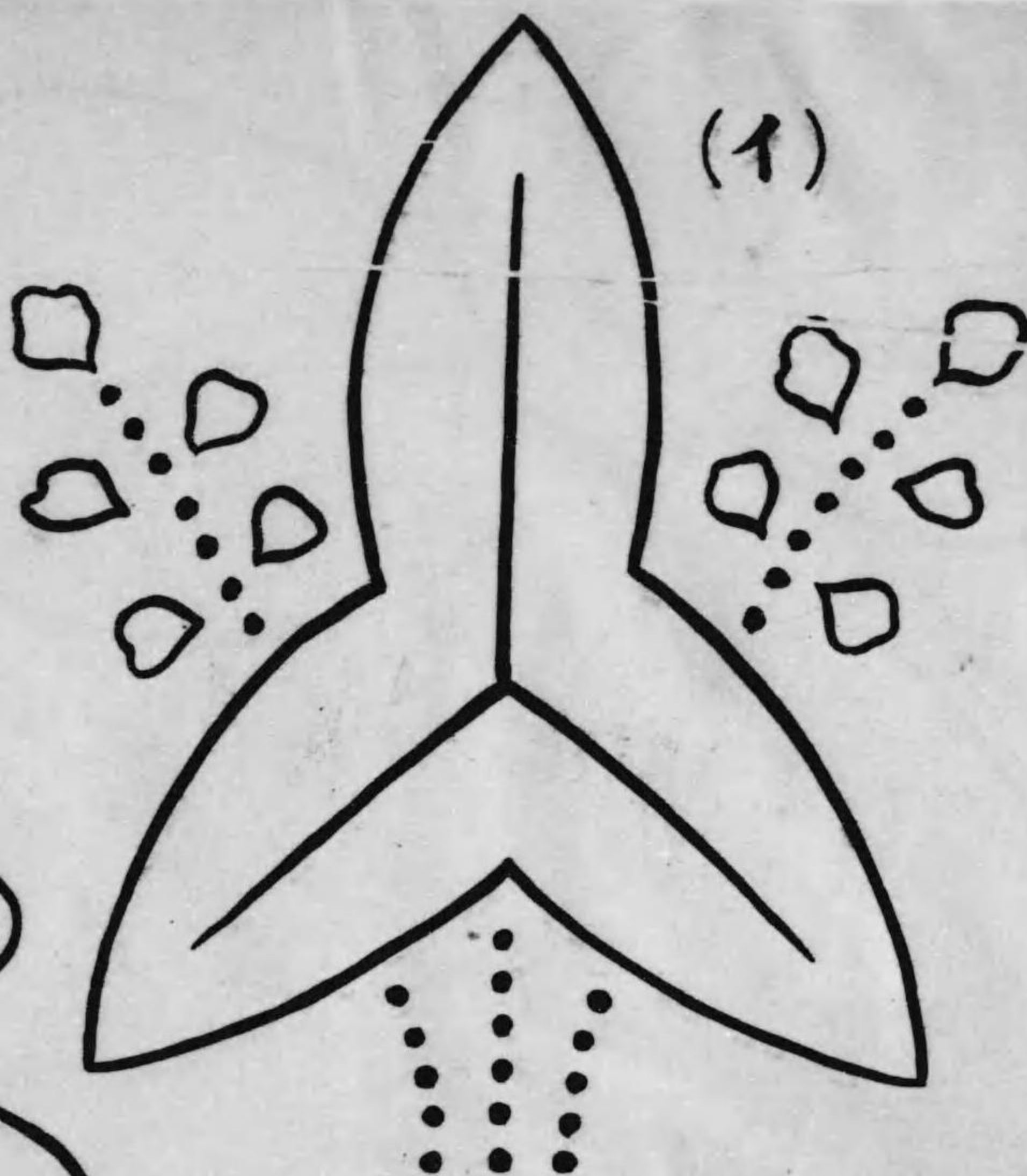
第貳拾參圖





第貳拾四圖

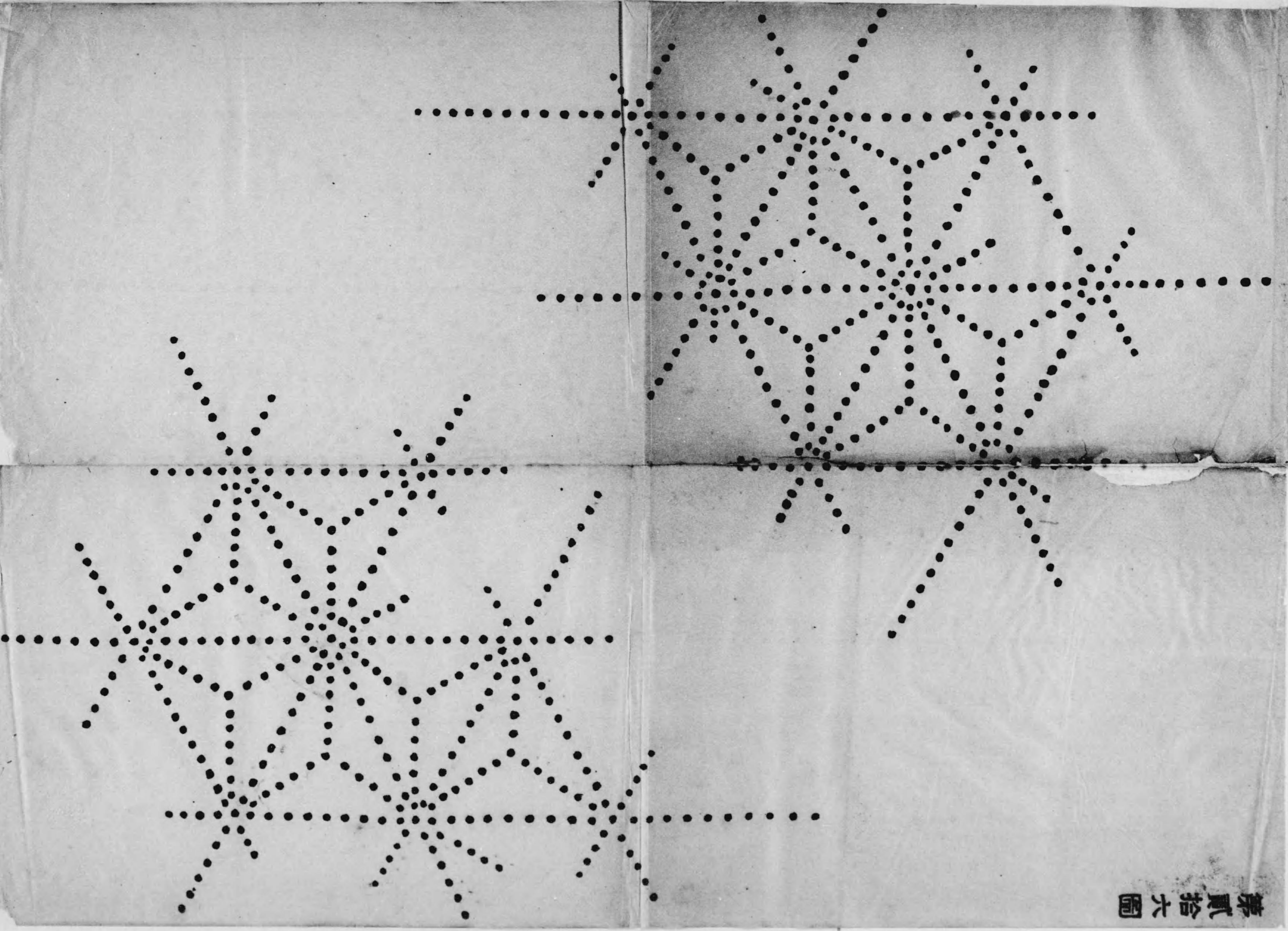


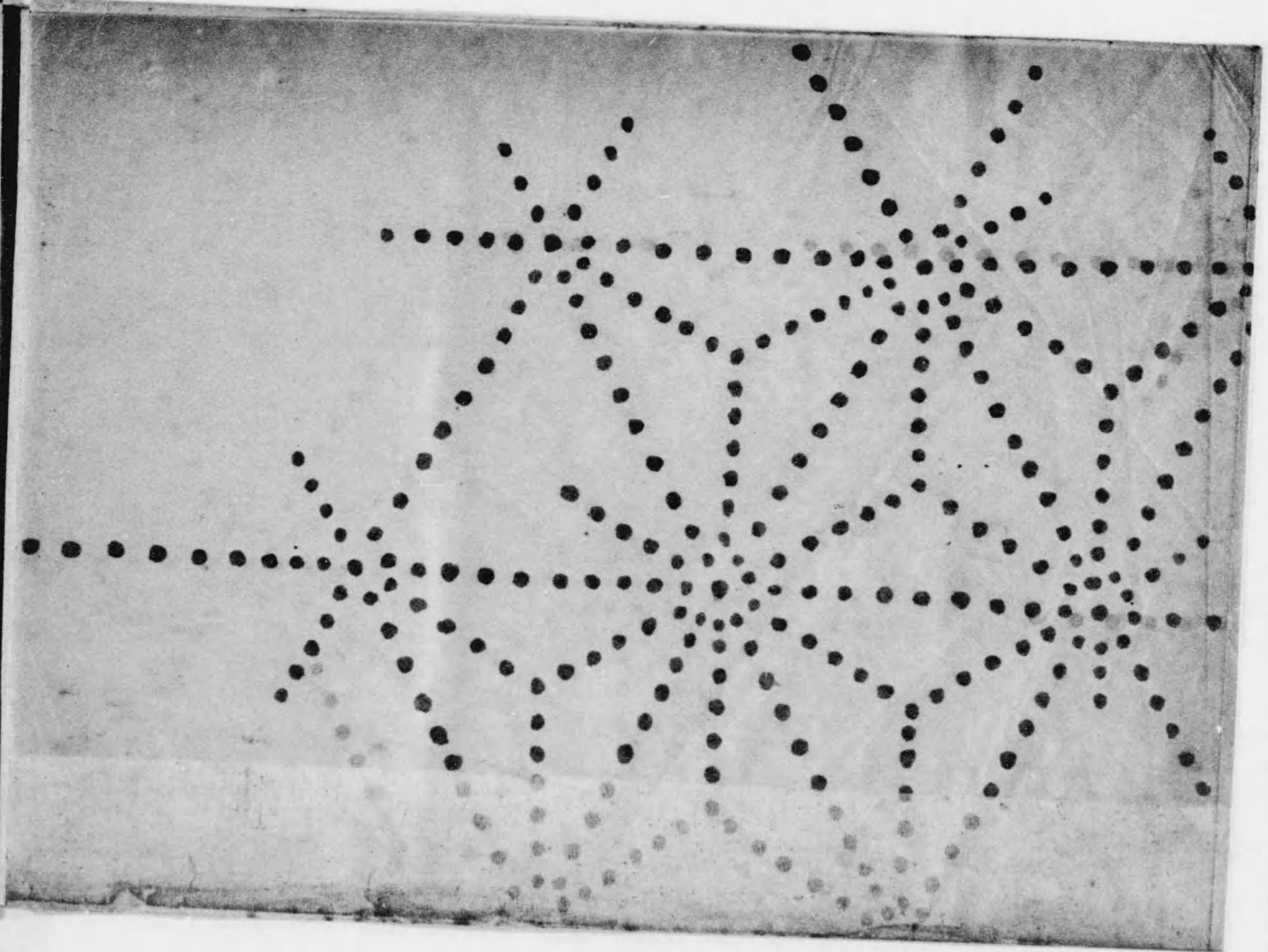


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4



第貳拾六圖





331
131

111

終